年　　報

平成30年度版

日本赤十字社
JAPANESE RED CROSS SOCIETY

唐津赤十字病院

平成 30 年度年報の発刊にあたって

平成 30 年度の年報が完成しました。この１年も地球温暖化を反映してか７月に西日本豪雨が発生し、特に岡山、広島、愛媛で死者２２０人を超えました。９月には北海道南部を震源として震度 7 の地震がおき、道内全域停電という国内初の「ブラックアウト」を経験しました。明るい話題としては、10 月にノーベル生理学・医学賞に「がん免疫療法」に道を開いた本庶佑京都大学特別教授の受賞が発表されました。またスポーツ界では 9 月に大坂なおみ選手が 4 大大会の全英オープンで日本人初の優勝を果たし、11 月には大谷翔平選手がメジャー新人王――日本人としてイチロー以来 17 年ぶり 4 人目として選ばれました。

地震、津波、火山の噴火などの天災はいつも、人間の予想を超えて想定外が常です。今後も災害救護を使命とする赤十字病院としての自覚のもとに、日々備えていきます。

本誌ではこの 1 年の各科、各部署の診療実績、学会活動、その他の活動について報告します。当院の評価の一助となり、職員の励みになればと思います。

平成 30 年度の院内の動きとしては、歯科口腔外科を平成 27 年度より休診していましたが 4 月より再開しました。　7 月の西日本豪雨時には医療救護班を派遣し、広島県安芸郡坂町にて救護活動を行いました。また、9 月には公益財団法人 日本医療機能評価機構の病院機能評価「一般病院 2　3rdG:Ver.2.0」を受審し、平成 31 年 2 月に認定を受けました。さらなる医療の質の向上、医療安全の向上に努めてまいります。

平成 31 年は日本でラグビーのワールドカップが開催されます。その日を楽しみに待ちつつ、筆を置きます。

平成 31 年 3 月
唐津赤十字病院
院長　志田原　哲

唐津赤十字病院の理念

「安心な医療」

「あたたかい看護」

「地域への貢献」

基本方針

① 患者さんの人権を尊重します。
② 質の高い医療と看護を提供します。
③ 救急医療やがん医療の充実に努めます。
④ 地域医療連携を推進します。
⑤ 災害救護に貢献します。
⑥ 健全で安定した経営基盤を確立します。

患者さんの権利

１． 良質な医療を公平に受ける権利があります。
２． 治療や検査に関して、理解できるまで説明を受け、ご自身で決定する権利があります。
３． 医療機関を選択し変更する権利、別の医師の意見（セカンド・オピニオン）を聞く権利があります。
４． ご自身の診療情報を知る権利があります。
５． プライバシーが守られる権利があります。
６． 個人の尊厳が尊重される権利があります。

医療バランスト・スコアカード導入について

当院では、平成 8 年度から 5 次にわたり経営改善計画等を策定し、経営基盤の強化と医療の充実の両立を目指してきました。

病院経営を取り巻く状況は刻一刻と変化しており、2025 年や 2040 年を 1 つの区切りとして、医療福祉のあるべき姿が「地域包括ケアシステム」として周知されています。当院においても、佐賀県保健医療計画における当院の役割を自覚し、経営方針を立てていくことが求められます。また、近年の診療報酬改定では、病院の機能分化が推進されており、要件の厳格化およびマイナス改定など、厳しい状況が続きます。

このような状況下で、当院が担うべき医療を積極的に展開していくために、医師をはじめとする医療スタッフの役割は大きく、長期的な視座のもとスタッフ確保に尽力してきた結果、職員数は平成 20 年度（424 名）から 200 名近く拡充することができました。

600 名を超す職員を抱える病院において、しばしば課題となるのは、職員間の意思疎通が希薄化することです。これは、職員数の増大のみならず、国家資格の有資格者による多職種協働という病院特有の事情が影響しています。

このような課題に対して、当院では従来の 3～5 年にわたる経営改善計画の策定・周知では、安定した病院経営を持続できないと判断し、医療バランスト・スコアカード（以下「BSC」）を平成 26 年度より本格導入するに至りました。

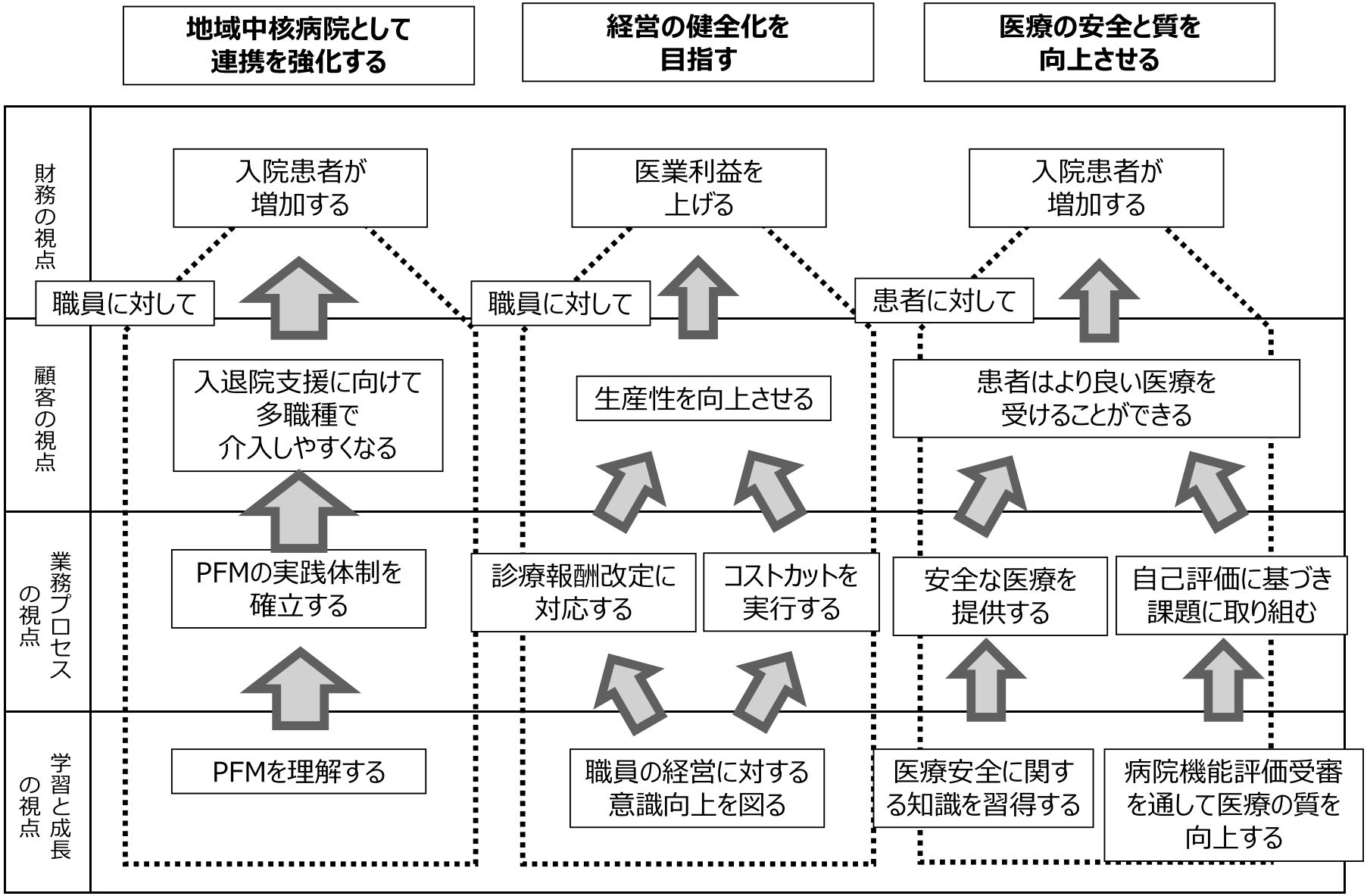
BSC の運用においては、病院 BSC のスコアカードを年度初めに作成・周知し、院内各部署による各部署 BSC のスコアカードを作成しています。その後、院長ヒアリングを通じて、各部署との意思疎通を図り、中期評価、年度末評価を行うことで、各部署の業務改善の進捗状況を管理しています。

平成30年度病院ＢＳＣ

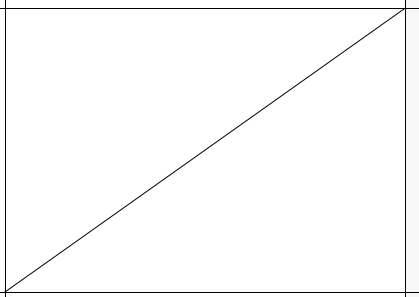
○戦略マップ

○スコアカード

ミッション：「安心な医療」「あたたかい看護」「地域への貢献」
ビジョン：「紹介型の地域中核病院として、連携の強化と医療の安全と質を向上させ、経営の健全化を目指す」



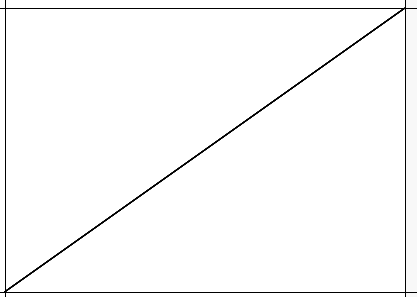
《地域中核病院として連携を強化する》

視点	戦略マップ	戦略目標	重要成功要因 ※戦略目標の達成のために、もっとも重要となる要素やカギとなる成果	成果尺度 ※戦略目標がどのくらい達成されたか図るための尺度	現状値	目標値	行動計画（アクションプラン） ※戦略目標を達成するための具体的な行動計画	担当部署
財務の視点	入院患者が増加する	入院患者が増加する	平均在院日数を短縮する 新入院患者数が増加する	平均在院日数 新入院患者数	13.8日 561人／月	12.0日 580人／月		
顧客の視点	入退院支援に向けて多職種で介入しやすくなる	入退院支援に向けて多職種で介入しやすくなる 顧客＝職員	PFM対象疾患に対する介入項目と方法を明確化する	対象疾患に対して介入した部署数	0	全部署	介入項目と方法を検討し対応する 進行状況を共有する	各部署 患者総合支援センター
業務プロセスの視点	PFM の実践体制を確立する	PFM の実践体制を確立する	導入しやすい疾患を選び、体制をつくる	介入した疾患の数	0	各診療科で1疾患以上	各診療科・部署で検討する 4月中には決定し話し合いを始める	各診療科
学習と成長の視点	PFM を理解する	PFM を理解する	職員に周知し理解を進める	開催回数 （講演会・各部署内ミーティング）	0	講演会：2回／年 ミーティング：2回／月	講演会の動画を撮影し、全職員が視聴できるような環境を整える。 Webwalkerにて情報を発信する 各部署で理解を促進する	事務部長 患者総合支援センター 各部署

《経営の健全化を目指す》

視点	戦略マップ	戦略目標	重要成功要因 ※戦略目標の達成のために、もっとも重要となる要素やカギとなる成果	成果尺度 ※戦略目標がどのくらい達成されたか図るための尺度	現状値	目標値	行動計画（アクションプラン） ※戦略目標を達成するための具体的な行動計画	担当部署
財務の視点	医業利益を上げる	医業利益を上げる	経営基盤を強化する	減価償却前利益率	−1.87%	0%以上		
顧客の視点	生産性を向上させる 顧客＝職員	生産性を向上させる	急性期一般入院基本料Ⅰ（旧7対1一般入院基本料）の維持	医療・看護必要度	26.7%（旧基準） ※平成29年度の1年間の内、6カ月は新基準を満たしていない	30%以上（新基準） ※旧基準換算：26.6%	平均在院日数を短縮する 看護必要度の精度を向上する	各診療科 看護部
業務プロセスの視点	診療報酬改定に対応する コストカットを実行する	診療報酬改定に対応する	診療報酬改定の内容を診療科別・部署別に理解し対応する	取得可能な施設基準の維持・獲得	基本診療料：〇／〇 特掲診療料：〇／〇	100% 100%	診療報酬改定の対策に迅速に取り組む	医事課 事務部 各部署
		コストカットを実行する	コストカットを実行する	材料費比率 （分母：医業収益）	材料費比率：28.39%	25.0%	各部署でコスト削減に取り組む	各部署
学習と成長の視点	職員の経営に対する意識向上を図る	職員の経営に対する意識向上を図る	診療報酬改定の内容を知る コストの現状を把握する	事務部と改定内容を共有した回数 現状報告数	0回 1回／年	各部署1回以上 1回／月	事務部が診療報酬改定内容を発信する 職員は診療報酬改定内容を理解する 院内報の充実（タイムリーな発刊）	事務部 全職員 事務部

《医療の安全と質を向上させる》

視点	戦略マップ	戦略目標	重要成功要因 ※戦略目標の達成のために、もっとも重要となる要素やカギとなる成果	成果尺度 ※戦略目標がどのくらい達成されたか図るための尺度	現状値	目標値	行動計画（アクションプラン） ※戦略目標を達成するための具体的な行動計画	担当部署
財務の視点	入院患者が増加する	入院患者が増加する	病床利用を適正化する	病床回転数	1.86/月	1.91/月		
顧客の視点	患者はより良い医療を受けることができる	患者はより良い医療を受けることができる 顧客＝患者	安全で質の高い医療を推進する	DPC入院期間Ⅰ・Ⅱの割合	56%	65%	DPC入院期間Ⅱ以内の退院を目指す DPC入院期間Ⅰ・Ⅱの情報を周知する	各診療科 各部署 診療支援課
業務プロセスの視点	安全な医療を提供する 自己評価に基づき課題に取り組む	安全な医療を提供する 自己評価に基づき課題に取り組む	インシデント報告数を増やす 各部署の自己評価を改善する	インシデント報告数 A評価以上の項目数	1,000件/年 A評価以上：35項目（自己評価1回目）	1,200件/年 A評価以上：70/89項目	レベル0～1の報告数を増やす B，C評価の項目はA評価以上を目指して改善に取り組む 接遇の改善に取り組む	医療安全推進センター 各部署 経営対策室 各部署 各部署
学習と成長の視点	医療安全に関する知識を習得する 病院機能評価受審を通して医療の質を向上する	医療安全に関する知識を習得する 病院機能評価受審を通して医療の質を向上する	コア人材の育成をする C評価の確認と改善をする	コア人材数 C評価の数	不明 17	各部署1名 0	研修会へ派遣をする スケジュールの履行を確認する	医療安全推進センター 各部署 経営対策室

唐津赤十字病院年報　　平成３０年度版

Ⅰ　病院の概況

1. 病院の変遷…… 1
2. 病院の概要…… 6
3. 病床数……11
4. 組織図……12
5. 職員の状況……13
6. 土地・建物の概要……14
7. 施設案内図……15
8. 主要医療機器……16
9. 平成３０年度医療施設特別会計歳入歳出決算書……18
10. 平成３１年度医療施設特別会計歳入歳出予算概算書……19
11. 決算の推移（過去４ヵ年）……20
12. 平成３０年度院内各種委員会等組織表……21

Ⅱ　統計

1. 患者統計
   (1) 入院……22
   (2) 外来……24
   (3) 救急……25
   (4) 診療科別……26
   (5) 平成３０年度月別……28
2. 稼働統計……29
3. 手術統計……32
4. 業務統計……33

Ⅲ　各部門の概況

1. 診療部
   ・糖尿病内科……35
   ・腎臓内科……37
   ・消化器内科……39
   ・呼吸器内科……43
   ・血液内科……46
   ・肝臓内科……51
   ・循環器内科……54
   ・小児科……57
   ・外科……59
   ・整形外科……66

・脳神経外科……69
・皮膚科……71
・泌尿器科……72
・産婦人科……74
・眼科……75
・放射線科……76
・麻酔科……78
・救急科……80
・病理診断科……83
・形成外科……86
・歯科口腔外科……87
2. 薬剤部
・薬剤課……89
3. 看護部……93
4. 医療技術部
・栄養課……105
・臨床工学技術課……107
・検査技術課……111
・放射線技術課……114
・リハビリテーション技術課……116
5. 医療安全推進センター……118
6. 感染管理室……123
7. 教育研修推進センター……130
8. 救命救急管理センター……132
9. がん医療推進センター……133
10. 患者総合支援センター……137
11. 疾病予防センター……142
12. 経営対策室……147
13. 広報対策室……149
14. 事務部
・総務課……150
・会計課……152
・医事課……154
・診療支援課……157
・情報システム課……173
15. 医療社会事業部
・医療社会事業課……174

Ⅰ　病院の概況

1．唐津赤十字病院の変遷

S32　10　月　唐津赤十字病院開設　内科、外科、小児科、理学診療科　4 科
〈一般 46 床　結核 214 床　計 260 床〉
S33　1　月　産婦人科開設
10　月　耳鼻咽喉科開設、理学診療科を放射線科に変更
11　月　整形外科開設
12　月　気管食道科開設
S35　6　月　唐津市伝染病棟 30 床併設　一般 35 床増床
〈一般 121 床　結核 142 床　伝染 30 床　計 293 床〉
7　月　一般　3 床　結核　2 床増床
〈一般 124 床　結核 144 床　伝染 30 床　計 298 床〉
10　月　眼科開設〈総合病院承認〉
S39　2　月　ラジウム治療室　2 床増床
〈一般 126 床　結核 144 床　伝染 30 床　計 300 床〉
S42　4　月　東松浦郡伝染病棟　30 床併設
〈一般 126 床　結核 144 床　伝染 60 床　計 330 床〉
S44　3　月　結核　74 床を一般病床へ変更
〈一般 200 床　結核 70 床　伝染 60 床　計 330 床〉
S45　2　月　救急告示病院指定
12　月　唐津市助産施設　3 床増床
〈一般 203 床　結核 70 床　伝染 60 床　計 333 床〉
S46　8　月　理学診療科開設
S48　4　月　心療内科開設
S54　1　月　病院改築着工
S55　3　月　病院改築第 1 期工事完工
6　月　皮膚科開設
S56　2　月　病院改築竣工　(S54.1～S56.1)
4　月　病院群輪番制病院指定
6　月　泌尿器科開設
S57　4　月　脳神経外科、神経内科開設
11　月　病床変更　結核　70→30 床、伝染　60→30 床、70 床を一般病床へ変更
〈一般 273 床　結核 30 床　伝染 30 床　計 333 床〉
S58　4　月　歯科開設
6　月　血液透析開始

S63	4	月	麻酔科開設
	9	月	ICU･CCU、救急処置室等増築工事竣工
H 元	4	月	一般 10 床増床〈一般 283 床　結核 30 床　伝染 30 床　計 343 床〉
			医事システム運用開始
H 3	3	月	リハビリテーション等棟竣工
H 4	3	月	２階西病棟改修竣工（小児病棟）
H 5	3	月	一般 30 床増床〈一般 313 床　結核 30 床　伝染 30 床　計 373 床〉
H 5	5	月	「経営改善委員会」設置
	6	月	ＨＩＶ感染症に関する中核医療機関指定
H 6	3	月	互助会設立
	4	月	結核病床　30 床休止
H 7	11	月	外来診療録ジャストサーチシステム導入
H 8	4	月	「経営改善実施計画」スタート（県、市町村補助開始）
	6	月	初診料特定療養費届出（紹介患者Ⅵ）
	10	月	手術室（中央材料室）改修工事、血液透析室移転工事竣工
	12	月	ＩＣＵ新設工事、外科･脳外科外来移転工事竣工、中央処置室運用開始
H 9	1	月	ＩＣＵ届出（第３号）
	2	月	２階東病棟改修工事竣工
	3	月	新看護届出（第 72 号）、血管造影室（一般、心臓カテーテル）竣工
	4	月	心臓カテーテル検査運用開始
	7	月	５階病棟改修工事竣工
	9	月	院外処方箋発行開始
	11	月	地域災害医療センター（地域災害拠点病院）指定
	11	月	オーダリングシステム(処方)、医事、薬剤システム運用開始
H10	1	月	結核病床　30 床廃止
			〈一般 313 床　伝染 30 床 計 343 床〉
	4	月	「臨床研修病院」指定
	4	月	呼吸器科、消化器科、循環器科開設　　気管食道科廃止
	4	月	再来予約オーダ運用開始
	6	月	駐車場有料化
	9	月	病棟オーダ,検査オーダ 検査部門システム 給食部門システム運用開始
	12	月	検査予約オーダ・ＳＰＤシステム運用開始
H11	4	月	感染症医療機関指定（伝染 30 床 → 感染症 4 床）
			〈一般 313 床　感染 4 床　計 317 床〉
	4	月	心療内科休診

	8	月	「診療録管理室」設置
	10	月	医療事故防止マニュアルの策定(リスクマネージメント)
H12	1	月	「診療情報の提供に関する要領」策定
	4	月	旧病棟（伝染病棟）解体
	5	月	駐車場 40 台分増設
	9	月	ＭＲＩ更新、「地域医療連携室」運営開始
	10	月	システム運用による院外処方箋発行開始
	12	月	無菌手術棟増築工事竣工
H13	1	月	初診料特定療養費の変更（750 円→1,050 円）
	3	月	電話交換機更新、院内ＰＨＳ導入
	4	月	「経営自立 3 カ年計画」スタート
	7	月	新看護 2：1 体制届出
H14	1	月	外来診療録 1 患者 1 診療録運用開始
	10	月	ホームページ開設
	11	月	ラジウム治療廃止
H15	2	月	新病棟増築工事竣工、受水槽移設工事完成
	4	月	一般病床　20 床増床　〈一般 333 床　感染症 4 床　計 337 床〉
	4	月	南病棟運用開始、病棟再編成
	4	月	２階西病棟休床
	9	月	ＣＲシステム稼動
H16	3	月	新医事システム稼動、急性期入院加算届出辞退
	4	月	「第３次経営改善計画」スタート
	10	月	共同利用型病床届出
H17	4	月	初診料特定療養費の変更（1,050 円→1,575 円）
	8	月	体外衝撃波腎・尿管結石破砕術届出
H18	2	月	リストバンド運用開始
	4	月	一般病棟入院基本料 10 対 1
	7	月	テレビ掲示システム導入
	8	月	イントラネット（グループウェア）導入
	9	月	(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価受審
	11	月	デジタルＸ線テレビシステム更新
	12	月	特定集中治療室（ICU）管理料施設基準辞退
H19	1	月	7 対 1 入院基本料届出、地域がん診療連携拠点病院指定
	2	月	「看護管理センター」設置
	2	月	ＮＳＴ稼動施設認定
	3	月	64 列マルチスライスＣＴ導入

4 月 「第４次経営改善計画」スタート
4 月 テレパソロジーによる病理組織迅速顕微鏡検査開始
7 月 地域医療支援病院指定
8 月 病院機能評価（Ver.5.0）認定
10 月 開院５０周年
12 月 新医療情報システム（オーダリング）稼働
H20 1 月 ＡＥＤ設置（７台：各病棟・外来）
4 月 産婦人科医１人体制へ
7 月 救急科開設
10 月 病院敷地内全面禁煙
12 月 内視鏡下椎弓切除術、内視鏡下椎間板摘出（切除術）開始
H21 3 月 佐賀県災害派遣医療チーム（佐賀県 DMAT）指定病院へ指定
ＤＰＣ算定開始
地域救命救急センター設置（認定）
7 月 「ほほえみの会（がん患者会）」発足
H22 3 月 循環器用血管撮影装置更新
4 月 新医事システム（ＨＯＰＥ）稼働
光サーチシステム機器の更新
産婦人科医２人体制へ
9 月 佐賀県がん診療連携協議会スタート
10 月 市民公開講座「がんと上手に付き合う方法」
H23 1 月 ホームページ全面リニューアル
4 月 救護活動市民報告会開催
（東日本大震災における唐津赤十字病院の救護班の活動報告会）
産婦人科医３人体制へ
小児科５人体制へ
病理診断科開設
「病院建設推進室」設置
「フットケア外来」開設
7 月 フイルムレス用モニター部設置・稼働
9 月 第 34 回佐賀救急医学会
10 月 形成外科開設
フイルムレス用モニタ設置完了・全稼働
11 月 地域連携システム稼働
市民公開講座「がんと上手に付き合おう」

H24	1	月	「ハートケア外来」開設
	2	月	フイルムレス全運用開始
	3	月	唐津赤十字病院ＮＳＴ公開講座「地域一体型の栄養サポートをめざして」
			血管造影装置更新
	4	月	「臨床工学技術課」設置
	9	月	新病院設計業者決定プロポーザル
			地域医療連携特別講演会
	11	月	ＪＩＣＡ　インドネシアプロジェクト研修受け入れ
	12	月	市民公開講座「もっと知ろう！がんの治療」
			新病院建設基本設計開始
H25	2	月	日本医療マネジメント学会
	4	月	「唐津赤十字病院経営計画」スタート
	6	月	医療バランスト・スコアカード（ＢＳＣ）導入開始
	11	月	市民公開講座「もっと知ろう乳がんのこと」
H26	3	月	生理検査部門システム導入
			リハビリ管理システム導入
	6	月	新病院移転新築工事起工式
H28	4	月	新病院引渡し式
	7	月	新病院落成式
	8	月	新病院開院（二タ子地区 → 和多田地区）
			〈28 科　一般　300 床　感染　4 床　計　304 床〉
			電子カルテシステム稼働
H29	3	月	原子力災害拠点病院に指定
	4	月	地域連携小児救急医療センター開設
	6	月	病棟薬剤業務開始（全ての病棟で開始）
H30	4	月	歯科口腔外科　開設（計 29 科）
	9	月	病院機能評価（3rdG:Ver.2.0）受審　〔一般病院 2〕
H31	2	月	病院機能評価（3rdG:Ver.2.0）認定　〔一般病院 2〕

2. 病院の概要

◇名　　称	唐津赤十字病院
◇所　在　地	佐賀県唐津市和多田２４３０
◇開設年月日	昭和３２年１０月１５日
◇診 療 科 目	内科・呼吸器内科・消化器内科・血液内科・腫瘍内科・糖尿病内科・神経内科・腎臓内科 循環器内科・小児科・外科・呼吸器外科・消化器外科・乳腺外科・整形外科・脳神経外科 皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・放射線科・麻酔科・救急科・形成外科 精神科・リハビリテーション科・病理診断科・歯科口腔外科　　２９科
◇医療機関指定	臨床研修病院（基幹型・九大協力型・佐大協力型） 地域がん診療連携拠点病院 地域医療支援病院 地域救命救急センター 佐賀県緊急医療施設（管理受諾） 救急告示病院 地域災害拠点病院（地域災害医療センター） ＨＩＶ感染症に関する中核医療機関 第二種感染症指定医療機関 原子力災害拠点病院
◇許可病床数	３０４床　一般病床　３００床　（うち）地域救命救急センター　１６床 （うち）無菌治療室（緊急被ばく医療）　４床 （うち）共同利用型病床　５床 感染症病床　４床
◇特殊医療施設	無菌手術室（緊急被ばく医療）　１室 血液透析室　１１床 外来化学療法室　２１床
◇高額医療機器	６４列、３２０列マルチスライスＣＴ、血管造影装置（一般、心臓カテーテル用） ＲＩ（シンチレーションカメラ）、ライナック（高エネルギー放射線治療装置） ＭＲＩ（Gyroscan　Intera 1.5T、3.0T）、体外衝撃波腎・尿管結石破砕装置
◇敷 地 面 積	２８，９００㎡　（市有地無償貸与）
◇建築延面積	２８，１７３．２９㎡ 本館（鉄筋コンクリート造６階建）　２３，３０３．１９　㎡ エネルギー棟（鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造２階建）　８０６．１８　㎡ マニホールド（鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造平屋建）　２１．００　㎡ 立体駐車場（鉄骨造３階建）　４，０４２．９２　㎡
◇駐　車　場	６４１台

◇施 設 基 準	一般病棟入院基本料(７対１入院基本料)
	総合入院体制加算３
	超急性期脳卒中加算
	診療録管理体制加算１
	医師事務作業補助体制加算１（25 対 1）
	急性期看護補助体制加算（25 対 1）（看護補助者５割以上）
	療養環境加算
	重症者等療養環境特別加算
	無菌治療室加算２
	医療安全対策加算Ｉ（医療安全対策地域連携加算 1）
	感染防止対策加算Ｉ（感染防止対策地域連携加算・抗菌薬適正使用支援加算）
	患者サポート体制充実加算
	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
	ハイリスク妊娠管理加算
	ハイリスク分娩管理加算
	総合評価加算
	後発医薬品使用体制加算１
	病棟薬剤業務実施加算１
	病棟薬剤業務実施加算２
	データ提出加算２イ
	入退院支援加算１（入院時支援加算）
	認知症ケア加算２
	精神疾患診療体制加算
	救命救急入院料３　告示注３、注７
	小児入院医療管理料３
	入院食事療養（Ｉ）
	歯科疾患管理料の注 11 に規定する総合医療管理加算及び歯科治療時管理料
	クラウンブリッジ維持管理料
	上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
	下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
	歯科口腔リハビリテーション料２
	糖尿病合併症管理料
	がん性疼痛緩和指導管理料
	がん患者指導管理料イ、がん患者指導管理料ロ
	乳腺炎重症化予防ケア指導料
	地域連携小児夜間・休日診療料１
	糖尿病透析予防指導管理料　腎不全期患者指導加算

	地域連携小児夜間・休日診療料１ ニコチン依存症管理料 開放型病院共同指導料 がん治療連携計画策定料 肝炎インターフェロン治療計画料 薬剤管理指導料 医療機器安全管理料１ 持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定 ＨＰＶ核酸検出及びＨＰＶ核酸検出（簡易ジェノタイプ） 検体検査管理加算（Ⅳ） 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト ヘッドアップティルト試験 コンタクトレンズ検査料Ｉ 画像診断管理加算２ ＣＴ撮影及びＭＲＩ撮影 冠動脈ＣＴ撮影加算 外傷全身ＣＴ加算 大腸ＣＴ撮影加算 心臓ＭＲＩ撮影加算 乳房ＭＲＩ撮影加算 抗悪性腫瘍剤処方管理加算 外来化学療法加算１ 無菌製剤処理料 心大血管疾患リハビリテーション料（Ｉ）初期加算 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ｉ）初期加算 運動器リハビリテーション料（Ｉ）初期加算 呼吸器リハビリテーション料（Ｉ）初期加算 がん患者リハビリテーション料 人工腎臓（慢性維持透析を行った場合１） 導入期加算１ 組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る。） 緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの）） 緑内障手術（水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術） 乳がんセンチネルリンパ節加算２及びセンチネルリンパ節生検（単独） 乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術（一連につき）（MRI によるもの） ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後） 食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）～

	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 大動脈バルーンパンピング法（ＩＡＢＰ法） 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術 体外衝撃波腎・尿管結石破砕術 医科点数表第２章第１０部手術の通則１６に掲げる手術 輸血管理料Ⅰ 輸血適正使用加算 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 麻酔管理料（Ⅰ） 高エネルギー放射線治療 病理診断管理加算Ⅰ 酸素の購入単価に関する届出 悪性腫瘍病理組織標本加算 特別の療養環境の提供（特別室）の届出 １８０日超特定療養費
◇学会認定施設等	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本外科学会外科専門医制度修練施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本消化器外科学会専門医修練施設 日本整形外科学会専門医制度研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本脳神経外科学会専門医訓練施設 日本眼科学会専門医制度研修施設 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関 放射線科専門医修練協力機関 日本麻酔科学会麻酔科認定病院 日本臨床細胞学会認定施設 日本病理学会研修登録施設 日本消化器病学会関連施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本乳癌学会関連施設認定 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 救急科専門医指定施設

	日本高血圧学会専門医認定施設 マンモグラフィー検診施設画像認定証 日本心血管インターベンション治療学会の研修関連施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本小児循環器学会認定小児循環器専門医修練施設 日本糖尿病学会専門医認定教育関連施設

3. 病床数

（1） 許可病床数

		病床数
種別	一般	３００床
	感染症	４床
合計		３０４床

（2） 病棟別病床内訳

病棟＼区分	病床数		診療科
	許可病床数	実働病床数	
地域救命救急センター（3階南）	16床	16床	重症
3階西	40床	40床	内科系 脳神経外科 眼科
4階東	25床	25床	産婦人科 外科 乳腺外科
4階西	42床	42床	外科 乳腺外科
4階南	15床	15床	小児科 （感染症病床４床含む）
5階東	42床	42床	整形外科 泌尿器科
5階西	40床	40床	混合
6階東	42床	42床	内科系 （無菌室４床含む）
6階西	42床	42床	内科系 （陰圧室２床含む）
合計	３０４床	３０４床	

※内科系（内科・糖尿病内科・腎内科・呼吸器科・消化器科・血液内科）

５．職員の状況

平成30年4月1日現在

		全職員	正職員	常　嘱	臨時	非常嘱	パート
医師		83	69	14			
	医師	68	67	1			
	ﾚｼﾞﾃﾞﾝﾄ	6		6			
	研修医	5		5			
	嘱託医師						
	県派遣	4	2	2			
看護師		341	319	15			7
	助産師	14	14				
	看護師	327	305	15			7
	准看護師						
コメディカル		80	78	2			
	薬剤師	17	17				
	検査技師	18	16	2			
	放射線科技師	15	15				
	臨床工学技士	5	5				
	栄養士	4	4				
	理学療法士	9	9				
	視能訓練士	2	2				
	歯科衛生士	2	2				
	マッサージ師	1	1				
	言語聴覚士	3	3				
	作業療法士	3	3				
	臨床心理士	1	1				
事務		61	33	26	2		
	県派遣						
	事務	48	31	15	2		
	メディカルクラーク	13	2	11			
福祉職		36	8	28			
	社会福祉士	6	6				
	介護福祉士	2	2				
	ケアワーカー	28		28			
その他		17	6	9	1		1
	看護助手	4	3	1			
	クラーク	3		3			
	薬剤助手	2		2			
	放射線科助手	3		3			
	検査技術課助手	1					1
	調理師	3	3				
	歯科口腔外科受付	1			1		
合　　計		618	513	94	3		8

6．土地・建物の概要

(1)土地

敷地面積　28，900㎡

(2)建物

名　称	構　造	階	床面積	用　　途	建築年月日
本　館	鉄　筋 ｺﾝｸﾘｰﾄ造	1	5,914.27㎡	総合受付・ガレリア・医事課・患者総合支援センター・外来診察室・中央処置室・放射線科・検査(生理)・内視鏡室・疾病予防センター・佐野講堂・コンビニ・患者ラウンジ・ATM・院内保育所	H28.4.30
		2	4,818.61㎡	血液浄化センター・リハビリテーション・外来化学療法室・薬剤部・検査技術課・栄養課・医局・事務室・倉庫他	
		3	3,874.73㎡	病棟・手術室・中央材料室・MEセンター	
		4	3,145.71㎡	病棟	
		5	2,497.40㎡	病棟・看護部	
		6	2,497.40㎡	病棟	
		7	555.07㎡	搬送EVホール・設備機械室	
本　館　計			23,303.19㎡		
ｴﾈﾙｷﾞｰ棟	鉄　筋 ｺﾝｸﾘｰﾄ造	1	607.24㎡	中央監視室・備蓄倉庫・電気室・医療ガス機械室・倉庫他	H28.4.30
		2	198.94㎡	自家発電機室・廃棄物庫等	
エネルギー棟計			806.18㎡		
ﾏﾆﾎｰﾙﾄﾞ	鉄　筋 ｺﾝｸﾘｰﾄ造	1	21.00㎡	マニホールド	H28.4.30
マニホールド計			21.00㎡		
立体 駐車場	鉄骨造	1	1,010.76㎡	駐車場	H28.5.17
		2	1,516.08㎡	駐車場	
		3	1,516.08㎡	駐車場	
立体駐車場計			4,042.92㎡		
延べ床面積　合計			28,173.29㎡		

7．施設案内図

病棟編成

<table>
<tr><td>7階</td><td colspan="3">ヘリポート</td></tr>
<tr><td>6階</td><td>6階西病棟
内科系

42床</td><td>CW控室
学生控室</td><td>6階東病棟
内科系

42床</td></tr>
<tr><td>5階</td><td>5階西病棟
混合病棟

40床</td><td>看護管理センター
医療安全推進センター</td><td>5階東病棟
整形外科
泌尿器科

42床</td></tr>
<tr><td rowspan="2">4階</td><td rowspan="2">4階西病棟
外科
乳腺外科

42床</td><td>産婦人科外来</td><td>4階東病棟（周産期）
産婦人科
外科
乳腺外科
25床</td></tr>
<tr><td colspan="2">4階南病棟（小児病棟）
小児科
15床（感染症病床4床を含む）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3階</td><td rowspan="2">3階西病棟
脳神経外科
内科系
眼科

40床</td><td colspan="2">手術室 6室
（無菌手術室1室を含む）</td></tr>
<tr><td colspan="2">3階南病棟（救命救急病棟）
地域救命救急センター
16床</td></tr>
<tr><td>2階</td><td colspan="3">事務室
職員ラウンジ
会議室
医局
SPD
カルテ庫
リハビリテーション技術課
薬剤部
栄養課
検査技術課
血液浄化センター
外来化学療法室
霊安室
当直室</td></tr>
<tr><td>1階</td><td colspan="3">総合受付
外　来
ローソン
患者ラウンジ
院内保育園
佐野講堂
ガレリア
患者総合支援センター
疾病予防センター
医事課
生理検査室
内視鏡室
中央処置室
放射線科
守衛室
救急外来
小児救急センター</td></tr>
</table>

８．主要医療機器

機器名	数量	設置場所	取得年月日
X線ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ断層撮影装置CT(64列)	1	放射線	平成19. 03. 27
ライナック(PRIMUS Mid-Energy M2-6745)	1		平成20. 03. 20
循環器用血管撮影装置(INFX-8000V)	1		平成22. 03. 31
核磁気共鳴画像診断装置MRI (1. 5T)	1		平成23. 03. 29
一般X線撮影装置	1		平成23. 09. 30
頭腹部用血管撮影装置(シーメンス)	1		平成24. 03. 31
放射線治療計画装置 エレクタ Xio	1		平成26. 11. 28
核磁気共鳴画像診断装置MRI(3. 0T)	1		平成28. 07. 11
骨密度測定装置	1		平成28. 07. 29
X線ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ断層撮影装置CT(320列)	1		平成28. 08. 01
X線TV撮影システム(ZEXIRA)	1		平成30. 3. 28
X線TV撮影システム(Ultimax-i)	1		平成30. 5. 28
バーチャルスライドシステム(C9600－50)	1	検査室	平成19. 04. 25
自動血液・尿分析検査システム(シスメックス)	1		平成19. 10. 22
凍結切片作成装置(ﾃｨｼｭｰ・ﾃｯｸ クライオ3)	1		平成21. 08. 21
東芝フルデジタル超音波診断装置 Aplio XG	1		平成21. 04. 13
循環器超音波診断装置(iE33 Live3D)	1		平成23. 10. 31
生理検査システム(H1-MEDIONシステム一式)	1		平成26. 03. 31
超音波画像診断装置(aplio 400)	1		平成28. 03. 31
血液培養装置(バクテアラート3D)	1		平成29. 6. 30
自動細菌同定感受性検査装置(バイテック2)	1		平成29. 6. 30
Force Triad エネルギープラットフォーム	1	手術室	平成20. 09. 02
内視鏡下椎間板摘出システム	1		平成20. 09. 17
麻酔器(エスティバ7900)	1		平成21. 09. 02
麻酔器(ファビウスタイロ))	1		平成21. 09. 02
手術室用モニター(BSM-5100 麻酔器対応)	2		平成21. 08. 27
手術用顕微鏡	1		平成23. 09. 30
ハイビジョン外科用鏡視下システム	1		平成23. 11. 30
外科用Cアーム(GE)	1		平成26. 12. 20
超音波手術器(ソノペット UST-2001)	1		平成26. 11. 28
眼科(網膜・硝子体／白内障)手術装置ｺﾝｽﾃﾚｰｼｮﾝﾋﾞｼﾞｮﾝ	1		平成28. 08. 01
胆道ビデオスコープ CHF-240	1		平成20. 08. 20
外科用Cアーム(フィリップス)	1		平成28. 12. 28
次世代電気手術器 (FT10)	1		平成30. 1. 30
トリガーポイントハンドピース	1		平成30. 3. 31
超音波画像診断装置(S-Nerve L-07810)	1	麻酔科	平成25. 11. 06
低温プラズマ滅菌システム(ステラット100S)	1	中央材料室	平成26. 01. 18
低温プラズマ滅菌システム(ステラットNX)	1		平成28. 08. 01
電子内視鏡システム(Q一260)	1	内視鏡	平成18. 11. 29
上部消化管汎用ビデオスコープ GIF-Q260J	1		平成20. 08. 26
上部消化管汎用ビデオスコープ GIF-XP260N	1		平成20. 08. 26
大腸ビデオスコープ(EVIS LUCERA TYPE Q260JI)	1		平成21. 08. 25
内視鏡システム(EVIS LUCERA ELITE)	1		平成25. 11. 08
超音波内視鏡システム(EU－MEI)	1		平成24. 09. 16
電子内視鏡システム(EVIS－LUCERAELITE)	1		平成28. 08. 01
内視鏡画像システム(オリンパス)	1		平成28. 08. 01
上部消化管用経鼻スコープ	1		平成29. 10. 16
カプセル内視鏡システム	1		平成29. 10. 16
超音波内視鏡システム(EVIS LUCERA ELITE)	1		平成30. 3. 29
血液浄化装置 JUN-55X	1	血液透析室	平成20. 09. 30
透析液供給装置	1		平成23. 09. 30
血液透析機器(DBB-27(1))	1		平成24. 10. 29
血液透析機器(DCS-100NX)	7		平成28. 08. 01
血液濾過用装置 CART	1		平成29. 11. 30

機器名	数量	設置場所	取得年月日
経皮的心肺補助装置 キャビオスEBS	1	救急室	平成23. 09. 30
循環動態モーターシステム	1		平成24. 10. 31
超音波診断装置(Xario200)	1		平成26. 11. 28
ベッドサイドモニター	2		平成28. 08. 01
血ガス分析装置(ABL90)	1		平成28. 07. 22
セントラルモニター4人用	1	救命	平成28. 08. 01
ベッドサイドモニター	11		平成28. 08. 01
血ガス分析装置(ABL825)	1		平成27. 06. 30
マンモトームシステム	1	外科	平成22. 09. 21
ハイビジョン外科用鏡視下システム	1		平成24. 09. 30
超音波診断装置(SDD-ALPHA7－S)	1		平成25. 10. 31
次世代電気手術器(FT10)	1		平成30. 1. 30
超音波診断装置(Xario XG SSA-680)	1	泌尿器科	平成23. 09. 30
YAGレーザー(ドルニエ)	1		平成28. 06. 29
体外式衝撃波結石破砕装置(ドルニエ)	1		平成28. 06. 29
膀胱・腎盂軟性鏡ビデオスコープ(CYF－VHA)	1		平成30. 1. 30
サージトロンデュアルEMC	1	皮膚科	平成26. 11. 28
超音波診断装置(Affiniti50G)	1	小児科	平成29. 8. 31
インファントウォーマーiLCD	1		平成29. 01. 13
分娩監視装置(FM-20N)アトム	1	産婦人科	平成26. 10. 28
超音波診断装置(Prosound α7)	1		平成23. 09. 30
超音波診断装置(Xario 200)	1		平成27. 11. 26
超音波診断装置(Xario 100)	1		平成28. 08. 01
超音波診断装置(Xario 100)	1		平成29. 02. 22
超音波画像診断装置(UD-1000BM)	1	眼科	平成19. 08. 23
OTC光干渉断層撮影装置 (HS-100)	1		平成25. 07. 07
散瞳・無散瞳一体型眼底カメラ (VX-20・VK-2)	1		平成26. 03. 31
マルチカラーレーザー/ヤグレーザーコンビ	1		平成26. 11. 28
眼軸長測定システム(OA－2000)	1		平成30. 1. 30
開頭手術用ドリル(レジェンドシステム)	2	脳外科	平成20. 08. 12
脳神経内視鏡システム(OTV-S7ProH－HD-12E)	1		平成25. 05. 07
脳室ビデオスコープ(VEF-V)	1		平成25. 05. 07
成分採血装置(COM. TEC)	1	内科	平成21. 08. 27
汎用超音波画像診断装置(フィブロスキャン502)	1		平成24. 12. 31
PD－OCTイメージングシステム	1		平成30. 3. 27
経鼻咽頭食道ビデオスコープセット(VISERA OFFJCE)	1	耳鼻咽喉科	平成21. 07. 03
透視下・内視鏡下脊椎手術システム	1	整形外科	平成22. 09. 28
低侵襲手術システム	1		平成25. 11. 27
脊椎用ハンドピース(ソノペット)	1		平成28. 11. 30
12人用モニターリングシステム(PU－611R)	1	3階西病棟	平成30. 1. 29

９．平成３０年度医療施設特別会計歳入歳出決算書

Ⅰ．収益的収入及び支出　　（単位:円）

区分 / 項目	平成30年度 予算額	平成30年度 決算額	対予算比 (%)	備考
病院収益	8,932,101,000	9,368,835,254	4.9	
医業収益	8,072,204,000	8,502,767,333	5.3	病床利用率 92.2%
入院診療収益	5,780,000,000	5,992,167,642	3.7	入院稼働日 365
外来診療収益	2,112,200,000	2,316,009,313	9.6	外来稼働日 243
その他医業収益	193,653,000	205,089,034	5.9	
保険等査定減	▲ 13,649,000	▲ 10,498,656	▲ 23.1	
医業外収益	837,737,000	855,247,118	2.1	
医療社会事業収益	160,000	124,859	▲ 22.0	
特別利益	22,000,000	10,695,944	▲ 51.4	
収益的収入合計	8,932,101,000	9,368,835,254	4.9	
病院費用	9,741,315,000	9,500,384,577	▲ 2.5	医業費用対医業収益負荷率
医業費用	9,526,036,000	9,294,810,887	▲ 2.4	109.3%
医業外費用	167,485,000	163,815,992	▲ 2.2	
医療奉仕費用	24,386,000	24,370,293	▲ 0.1	
特別損失	2,774,000	7,258,576	161.7	
法人税等	10,634,000	10,128,829	▲ 4.8	
予備費	10,000,000	0	−	
収益的支出合計	9,741,315,000	9,500,384,577	▲ 2.5	
当期純利益(損失)	▲ 809,214,000	▲ 131,549,323	−	

Ⅱ．資本的収入及び支出　　（単位:円）

区分 / 項目	平成30年度 予算額	平成30年度 決算額	対予算比 (%)	備考
病院収入	298,220,000	251,867,258	▲ 15.5	
固定負債	12,783,000	11,244,000	▲ 12.0	
その他資本収入	285,437,000	240,623,258	▲ 15.7	
資本的収入合計	298,220,000	251,867,258	▲ 15.5	
病院費	298,220,000	251,867,258	▲ 15.5	
固定資産	221,115,000	174,762,552	▲ 21.0	
借入金等償還	77,105,000	77,104,706	▲ 0.0004	
資本的支出合計	298,220,000	251,867,258	▲ 15.5	

１０．平成３１年度医療施設特別会計歳入歳出予算概算書

Ⅰ．収益的収入及び支出　（単位:円）

区分 / 項目	平成31年度 予算額	平成30年度 予算額	対前年度比 (%)	備考
病院収益	9,227,460,000	8,932,101,000	3.3	
医業収益	8,463,269,000	8,072,204,000	4.8	病床利用率 92.5%
入院診療収益	6,046,100,000	5,780,000,000	4.6	入院稼働日 365
外来診療収益	2,227,296,000	2,112,200,000	5.4	外来稼働日 243
その他医業収益	202,133,000	193,653,000	4.4	
保険等査定減	▲ 12,260,000	▲ 13,649,000	▲ 10.2	
医業外収益	763,431,000	837,737,000	▲ 8.9	
医療社会事業収益	160,000	160,000	0.0	
特別利益	600,000	22,000,000	▲ 97.3	
収益的収入合計	9,227,460,000	8,932,101,000	3.3	
病院費用	9,628,751,000	9,741,315,000	▲ 1.2	医業費用対医業収益負荷率
医業費用	9,526,620,000	9,526,036,000	0.0	112.6%
医業外費用	57,529,000	167,485,000	▲ 65.7	
医療奉仕費用	24,220,000	24,386,000	▲ 0.7	
特別損失	5,000,000	2,774,000	80.2	
法人税等	5,382,000	10,634,000	▲ 49.4	
予備費	10,000,000	10,000,000	0.0	
収益的支出合計	9,628,751,000	9,741,315,000	▲ 1.2	
当期純利益(損失)	▲ 401,291,000	▲ 809,214,000	−	

Ⅱ．資本的収入及び支出　（単位:円）

区分 / 項目	平成31年度 予算額	平成30年度 予算額	対前年度比 (%)	備考
病院収入	314,668,000	298,220,000	5.5	
固定負債	5,860,000	12,783,000	▲ 54.2	
その他資本収入	308,808,000	285,437,000	8.2	
資本的収入合計	314,668,000	298,220,000	5.5	
病院費	314,668,000	298,220,000	5.5	
固定資産	237,563,000	221,115,000	7.4	
借入金等償還	77,105,000	77,105,000	0.0	
資本的支出合計	314,668,000	298,220,000	5.5	

１１．決算の推移（過去４ヵ年）

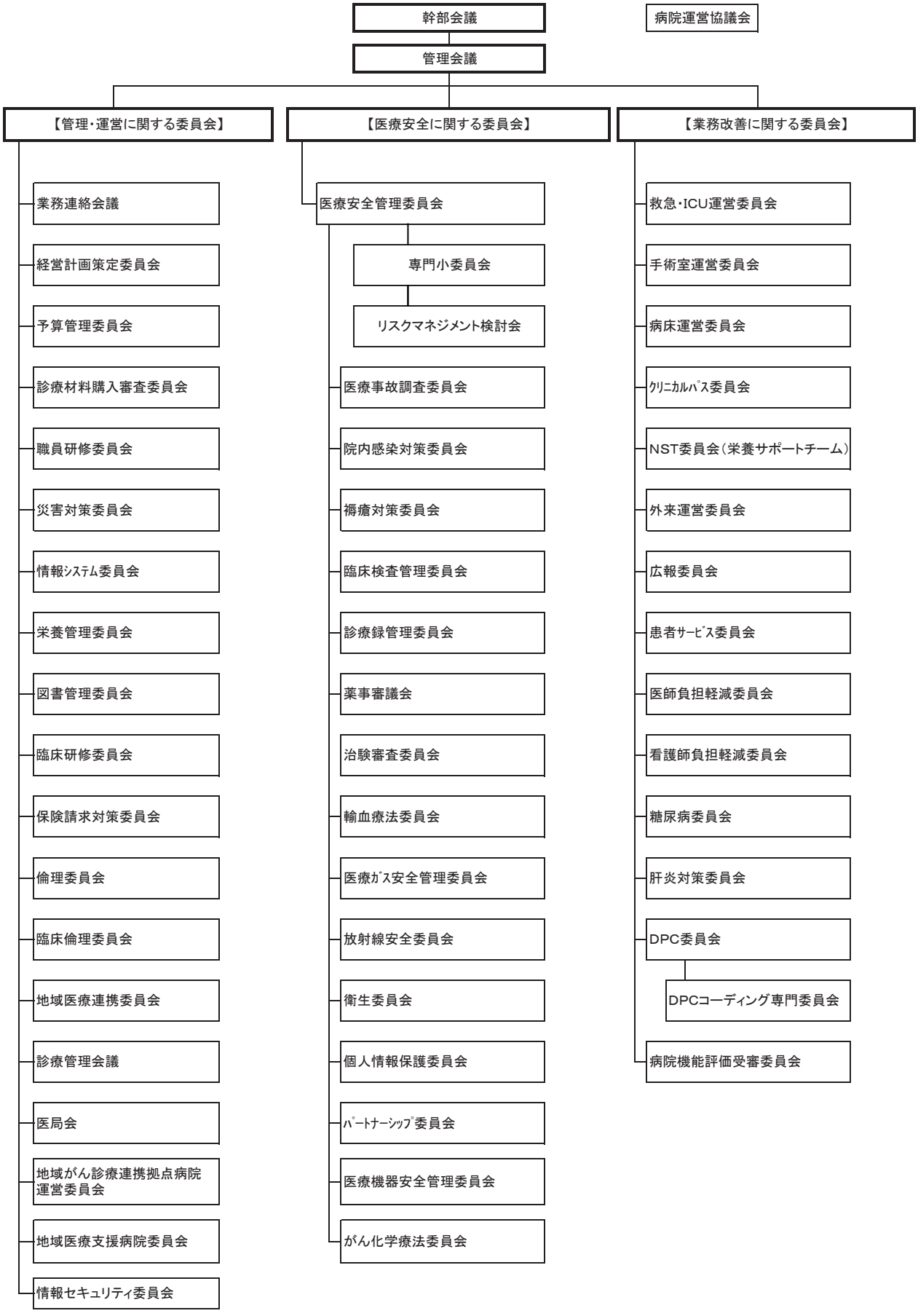
収益的収入及び支出

（単位:円）

年度 / 項目	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	決算値	対前年度比(%)	決算値	対前年度比(%)	決算値	対前年度比(%)	決算値	対前年度比(%)
病院収益	7,722,437,785	1.5	8,736,851,721	13.1	9,178,553,604	5.1	9,368,835,254	2.1
医業収益	7,549,653,760	1.8	7,319,854,965	▲ 3.0	7,990,501,151	9.2	8,502,767,333	6.4
入院診療収益	5,592,475,638	1.6	5,352,026,090	▲ 4.3	5,761,478,324	7.7	5,992,167,642	4.0
外来診療収益	1,814,142,717	3.8	1,813,692,118	▲ 0.02	2,050,954,276	13.1	2,316,009,313	12.9
その他医業収益	162,150,721	▲ 8.9	170,672,190	5.3	186,695,254	9.4	205,089,034	9.9
保険等査定減	▲ 19,115,316	53.0	▲ 16,535,433	▲ 13.5	▲ 8,626,703	▲ 47.8	▲ 10,498,656	21.7
医業外収益	168,458,573	▲ 9.8	1,276,699,305	657.9	1,175,906,688	▲ 7.9	855,247,118	▲ 27.3
医療社会事業収益	501,011	204.4	109,150	▲ 78.2	406,340	272.3	124,859	▲ 69.3
特別利益	3,824,441	▲ 52.5	140,188,301	3,565.6	11,739,425	▲ 91.6	10,695,944	▲ 8.9
収益的収入合計	7,722,437,785	1.5	8,736,851,721	13.1	9,178,553,604	5.1	9,368,835,254	2.1
病院費用	7,504,452,844	2.3	10,057,959,019	34.0	10,419,745,129	3.6	9,500,384,577	▲ 8.8
医業費用	7,356,373,642	2.3	8,893,641,178	20.9	9,271,299,490	4.2	9,294,810,887	0.3
医業外費用	126,475,277	1.0	130,987,217	3.6	141,122,999	7.7	163,815,992	16.1
医療奉仕費用	16,686,232	▲ 0.5	19,780,287	18.5	23,231,731	17.4	24,370,293	4.9
特別損失	2,666,045	19.9	1,011,532,230	37,841.3	983,456,588	▲ 2.8	7,258,576	▲ 99.3
法人税等	2,251,648	11.9	2,018,107	▲ 10.4	634,321	▲ 68.6	10,128,829	1,496.8
収益的支出合計	7,504,452,844	2.3	10,057,959,019	34.0	10,419,745,129	3.6	9,500,384,577	▲ 8.8
医業収支	193,280,118	−	▲ 1,573,786,213	−	▲ 1,280,798,339	−	▲ 792,043,554	−
当期純利益(損失)	217,984,941	−	▲ 1,321,107,298	−	▲ 1,241,191,525	−	▲ 131,549,323	−

１２．唐津赤十字病院委員会等組織表

〔H30.4.1現在〕

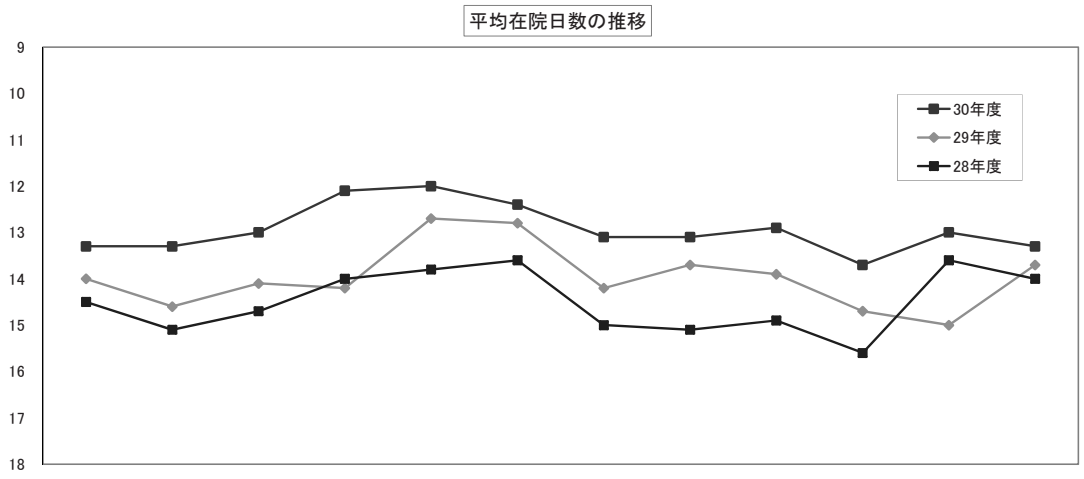


Ⅱ　統計

1. 患者統計

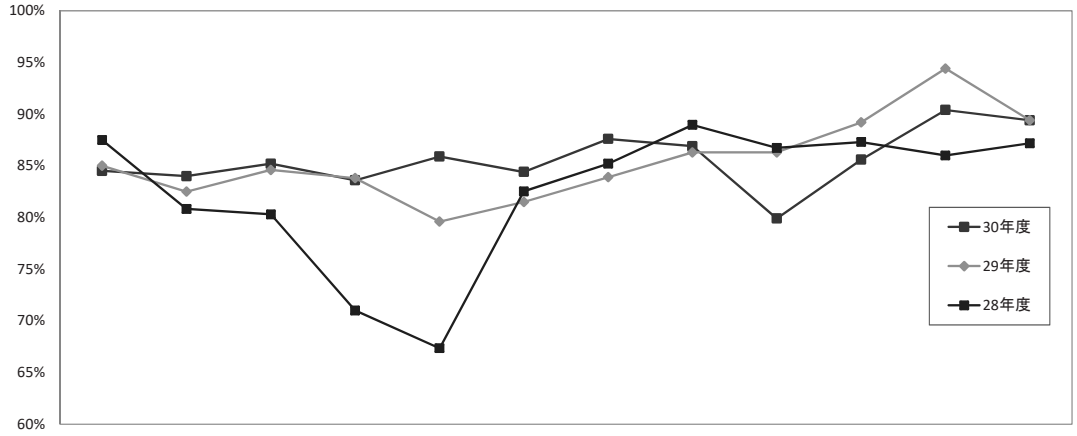
(1)入院

		平成28年度	平成29年度	平成30年度
入院	実働病床数(床)	304	304	304
	実日数(日)	365	365	365
	入院患者数(人)	97, 572	101, 654	102, 338
	病床利用率(%)	83. 1	85. 5	85. 6
	平均在院日数(日)	14. 5	14. 0	12. 9
	1日平均入院患者数(人)	267. 3	278. 5	280. 4
	入院診療単価(円)	54, 565	56, 580	58, 441



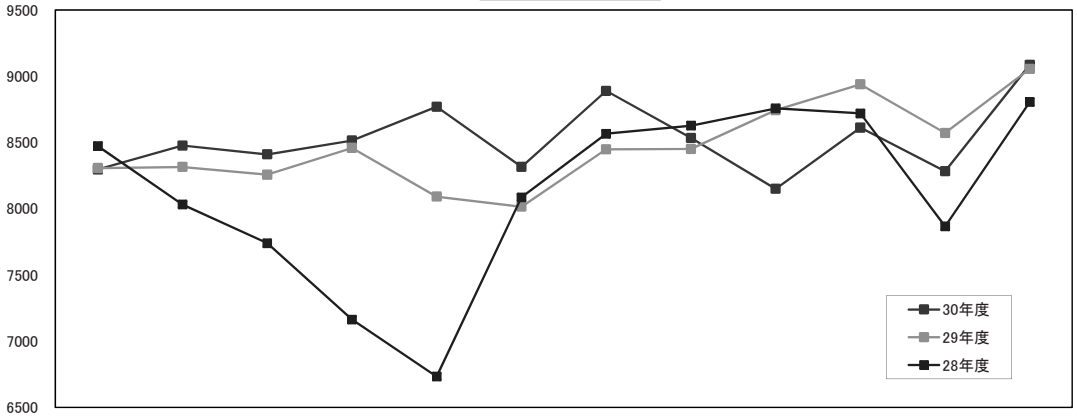
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
28年度	14.5	15.1	14.7	14.0	13.8	13.6	15.0	15.1	14.9	15.6	13.6	14.0	14.5
29年度	14.0	14.6	14.1	14.2	12.7	12.8	14.2	13.7	13.9	14.7	15.0	13.7	14.0
30年度	13.3	13.3	13.0	12.1	12.0	12.4	13.1	13.1	12.9	13.7	13.0	13.3	12.9

病床利用率の推移



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
28年度	87.5%	80.8%	80.3%	71.0%	67.3%	82.5%	85.2%	89.0%	86.7%	87.3%	86.0%	87.2%	83.1%
29年度	85.0%	82.5%	84.6%	83.8%	79.6%	81.5%	83.9%	86.3%	86.3%	89.2%	94.4%	89.4%	86.3%
30年度	84.5%	84.0%	85.2%	83.6%	85.9%	84.4%	87.6%	86.9%	79.9%	85.6%	90.4%	89.4%	85.6%

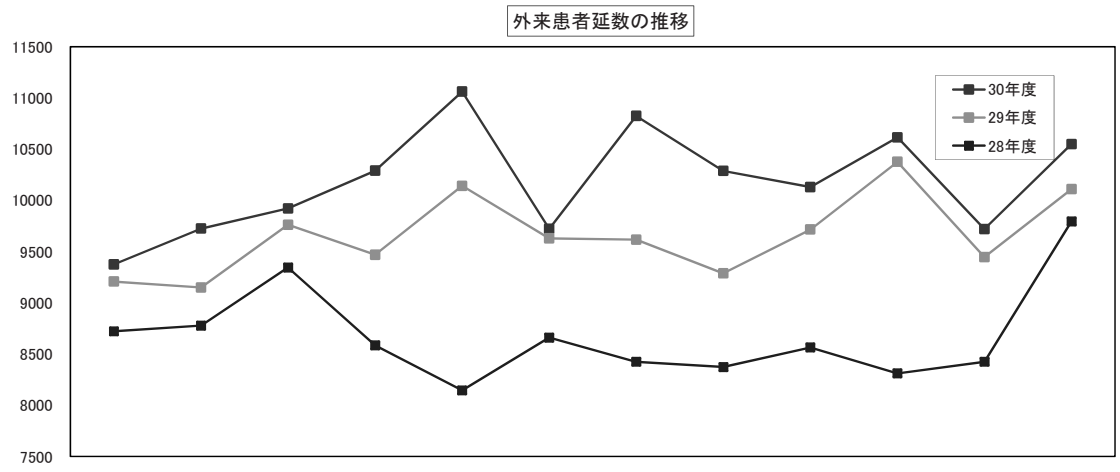
入院患者延数の推移



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
28年度	8,473	8,032	7,740	7,164	6,734	8,086	8,566	8,627	8,758	8,720	7,867	8,805	97,572
29年度	8,307	8,315	8,257	8,459	8,091	8,015	8,448	8,451	8,744	8,939	8,572	9,056	101,654
30年度	8,296	8,477	8,410	8,515	8,770	8,316	8,889	8,534	8,150	8,612	8,283	9,086	102,338

(2)外来

		平成28年度	平成29年度	平成30年度
外来	実日数(日)	243	243	243
	外来患者延数(人)	104, 132	115, 692	122, 222
	紹介患者数(人)	7, 360	8, 065	9, 284
	紹介率(%)	88. 5	73. 3	81. 1
	1日平均外来患者数(人)	428. 5	476. 1	503. 0
	外来診療単価(円)	17, 351	17, 663	18, 926



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
28年度	8,722	8,778	9,345	8,585	8,146	8,661	8,425	8,374	8,564	8,312	8,425	9,795	104,132
29年度	9,208	9,149	9,762	9,469	10,142	9,629	9,617	9,288	9,715	10,376	9,446	10,110	115,911
30年度	9,375	9,725	9,921	10,290	11,062	9,722	10,824	10,288	10,130	10,615	9,720	10,550	122,222

(3)救急

			平成28年度	平成29年度	平成30年度
救急患者数	患者数(人)		7, 329	16, 868	16, 428
	診療科別内訳	内　　科	2, 732	2, 853	3, 324
		小 児 科	748	9, 292	8, 675
		外　　科	982	906	886
		整形外科	598	1, 030	1, 015
		脳神経外科	387	545	512
		産婦人科	186	181	196
		そ の 他	1, 696	2, 061	1, 820
	患者搬送別	救 急 車	1, 979	2, 200	2, 097
		そ の 他	5, 350	14, 668	14, 331

(平成 29 年度より地域連携小児救急医療センター開設)

(4)診療科別

外来患者数

(人)

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
内　　科	38,432	37,853	36,849	38,239	39,189
小 児 科	12,445	10,823	8,417	16,258	16,299
外　　科	14,551	15,172	14,983	14,883	14,692
整形外科	11,424	10,887	10,585	12,401	12,823
脳神経外科	3,582	3,244	2,912	2,997	3,136
皮 膚 科	4,199	4,437	4,439	4,463	4,273
泌尿器科	5,515	5,395	4,939	5,167	5,559
産婦人科	6,693	6,261	6,109	6,078	6,231
眼　　科	11,794	12,570	10,568	9,204	9,276
耳鼻咽喉科	1,276	1,220	1,136	1,239	1,351
放射線科	3,286	2,876	2,284	3,088	3,186
麻 酔 科	194	187	142	157	104
救 急 科	402	458	502	638	595
形成外科	326	309	267	1,099	1,712
歯　　科	4,189				3,796
合　　計	118, 308	111, 692	104, 132	115, 911	122, 222

入院患者数

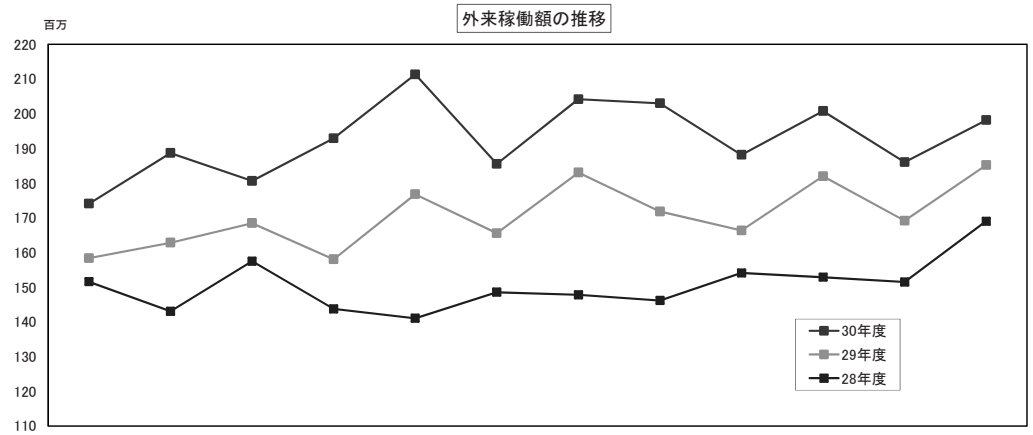
（人）

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
内　　科	40,324	42,401	40,790	46,331	40,743
小 児 科	4,443	4,030	4,354	4,998	5,654
外　　科	15,402	15,520	15,220	14,109	15,126
整形外科	18,124	17,817	17,852	18,298	18,389
脳神経外科	10,656	11,332	9,909	8,727	10,814
皮 膚 科	857	1,075	847	659	771
泌尿器科	2,633	2,649	2,429	3,009	4,132
産婦人科	4,025	3,562	2,971	2,746	3,390
眼　　科	2,336	2,717	2,406	1,488	1,946
耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0
放射線科	4	0	1	5	0
麻 酔 科	5	7	16	5	5
救 急 科	715	855	777	835	578
形成外科	0	0	0	444	790
歯　　科	0				0
合　　計	99,524	101,965	97,572	101,654	102,338

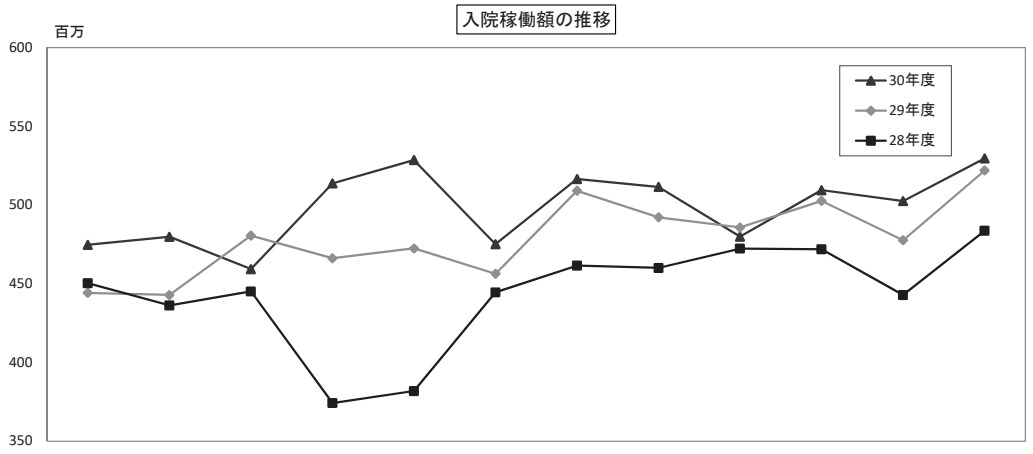
(5)月別

	入院				外来		
	実日数（日）	患者数（人）	1日平均（人）	病床利用率(%)	実日数（日）	患者数（人）	1日平均（人）
4月	30	8,296	276.5	84.5%	20	9,375	468.8
5月	31	8,477	273.5	84.0%	20	9,725	486.3
6月	30	8,410	280.3	85.2%	21	9,921	472.4
7月	31	8,515	274.7	83.6%	21	10,290	490.0
8月	31	8,770	282.9	85.9%	23	11,062	481.0
9月	30	8,316	277.2	84.4%	18	9,722	540.1
10月	31	8,889	286.7	87.6%	22	10,824	492.0
11月	30	8,534	284.5	86.9%	21	10,288	489.9
12月	31	8,150	262.9	79.9%	19	10,130	533.2
1月	31	8,612	277.8	85.6%	19	10,615	558.7
2月	28	8,283	295.8	90.4%	19	9,720	511.6
3月	31	9,086	293.1	89.4%	20	10,550	527.5
合計	365	102,338	280.4	85.6%	243	122,222	503.0

2. 稼働統計

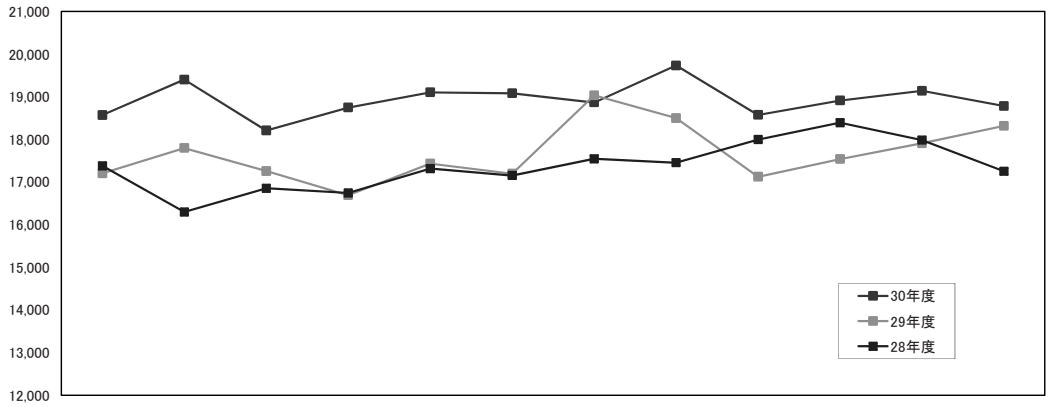


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
28年度	151,564	143,051	157,479	143,726	141,033	148,542	147,794	146,139	154,091	152,867	151,495	168,980	1,806,761
29年度	158,366	162,803	168,447	158,030	176,787	165,553	183,017	171,796	166,324	181,951	169,155	185,157	2,047,386
30年度	174,074	188,651	180,608	192,891	211,294	185,498	204,159	202,972	188,126	200,734	186,009	198,141	2,313,157



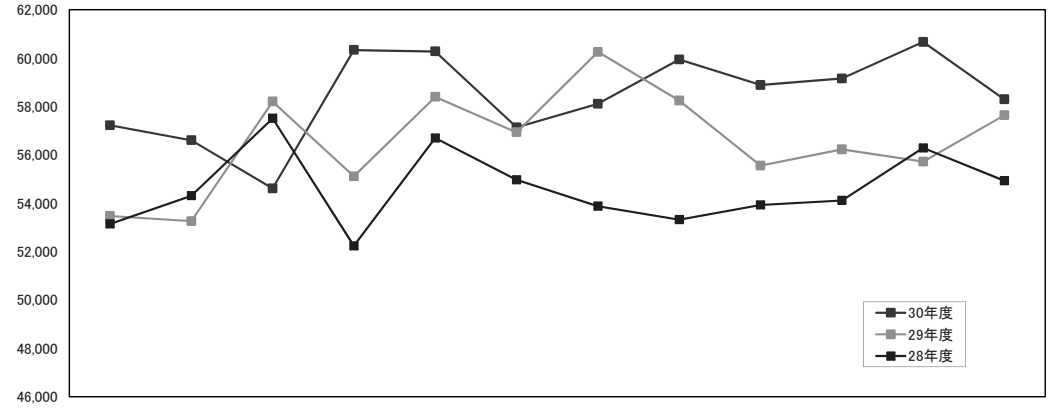
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
28年度	450,265	436,179	445,103	374,182	381,793	444,459	461,466	459,987	472,278	471,858	442,797	483,638	5,324,005
29年度	444,176	442,828	480,564	466,195	472,463	456,294	509,021	492,199	485,725	502,589	477,594	521,942	5,751,590
30年度	474,692	479,817	459,280	513,719	528,577	475,137	516,512	511,518	479,906	509,423	502,478	529,638	5,980,697

外来診療単価の推移

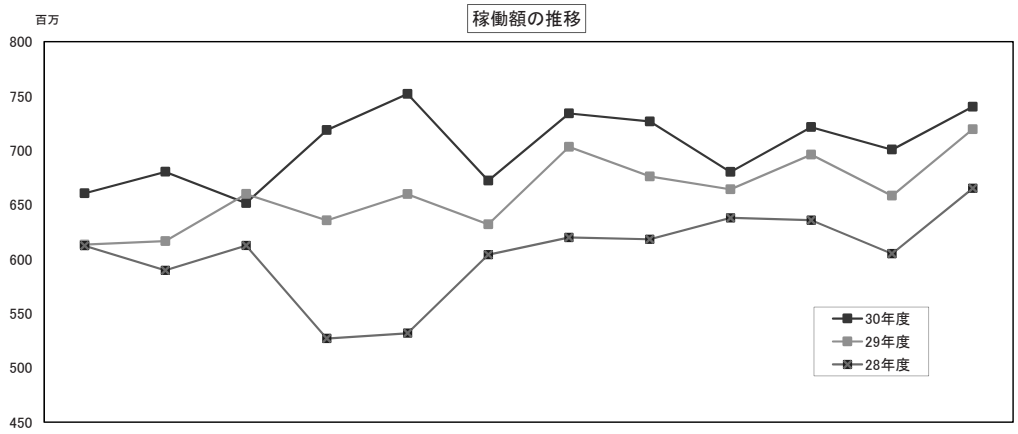


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
28年度	17,377	16,297	16,852	16,742	17,313	17,151	17,542	17,451	17,993	18,391	17,981	17,251	17,351
29年度	17,199	17,795	17,255	16,689	17,431	17,193	19,031	18,497	17,120	17,536	17,907	18,314	17,663
30年度	18,568	19,399	18,205	18,745	19,101	19,080	18,862	19,729	18,571	18,910	19,137	18,781	18,926

入院診療単価の推移



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
28年度	53,141	54,305	57,507	52,231	56,696	54,966	53,872	53,319	53,925	54,112	56,285	54,928	54,565
29年度	53,470	53,256	58,201	55,112	58,394	56,930	60,253	58,241	55,550	56,224	55,716	57,635	56,580
30年度	57,219	56,602	54,611	60,331	60,271	57,135	58,107	59,939	58,884	59,153	60,664	58,292	58,441



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
28年度	612,307	589,600	612,433	526,880	531,729	604,045	619,922	618,175	637,906	635,728	604,918	665,064	7,258,707
29年度	613,338	616,551	659,906	635,625	659,723	631,936	703,254	676,008	664,163	696,043	658,244	719,497	7,934,286
30年度	660,509	680,269	651,464	718,721	751,941	672,217	733,965	726,656	680,108	721,348	700,704	740,186	8,438,084

3. 手術統計

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
内科	789	990	942	1, 161	1, 234
小児科	17	24	9	11	37
外科	960	964	910	906	1, 012
整形外科	994	983	973	1, 195	1, 137
脳神経外科	306	289	228	297	304
皮膚科	107	104	101	103	79
泌尿器科	207	210	218	258	285
産婦人科	309	299	254	211	313
眼科	641	626	553	442	533
耳鼻咽喉科	14	6	4	11	5
放射線科	0	5	6	3	1
麻酔科	41	37	19	24	16
救急科	66	83	86	108	78
形成外科	22	20	18	135	189
歯科	589				816
合計	5, 062	4, 640	4, 321	4, 865	6, 039

4. 業務統計

（人）

		平成28年度	平成29年度	平成30年度
検査	一般	4,789	6,311	6,659
	生理	224,192	242,963	244,449
	血液	39,582	43,127	45,650
	生化学	49,817	49,597	50,134
	血清（免疫学的）	51,909	55,880	54,995
	細菌（微生物学的）	4,767	4,639	4,896
	病理	10,397	11,715	12,732
	合計	385,453	414,232	419,515
放射線撮影	一般撮影	37,724	39,982	42,847
	消化管透視	1,665	1,692	1,647
	CT検査	11,534	12,927	13,861
	MRI検査	4,646	5,067	5,848
	RI検査	375	446	455
	血管造影	144	195	205
	心臓カテーテル	272	280	300
	放射線治療	6,645	10,409	10,867
	骨密度測定	164	341	606
	画像提供	3,507	5,602	6,402
	超音波	7,740	9,147	10,440
	合計	74,416	76,088	93,478

				平成28年度	平成29年度	平成30年度
薬剤業務	調剤業務	調剤薬処方箋（枚）	外来	6,963	5,005	5,060
			入院	60,117	65,478	70,721
			合計	67,080	70,483	75,781
		注射箋（枚）	外来	15,845	17,243	18,632
			入院	68,216	78,935	76,074
			合計	84,061	96,178	94,706
		院外処方箋	枚数	55,993	66,896	67,900
			発行率	88.94%	93.04%	95.96%
	TPNの無菌調整		件数	120	301	159
			本数	120	301	159
	抗癌剤の無菌調整		件数	3,906	4,298	4,431
			本数	7,092	7,285	7,627
	院内製剤の調整		品目数	14	14	14
	その他	薬剤管理指導	病棟数	9	9	9
			件数	4,831	7,208	8,975
		錠剤鑑別件数		24,390	31,328	34,502
		DIニュース回数		68	70	70
給食	常食			79,579	80,213	71,287
	軟菜食			32,529	40,083	38,463
	特別食			128,870	115,791	123,764
	合計			240,978	236,087	233,514

Ⅲ　各部門の概況

１．診療部

糖尿病内科

1. スタッフ紹介（平成 31 年 3 月 31 日現在）

竹之下博正　平成 15 年卒　第３内科副部長
日本内科学会専門医・指導医
日本糖尿病学会専門医
日本内分泌学会、日本循環器学会、
日本下肢救済学会（支部評議員）、日本慢性疾患重症化予防
⇒平成 30 年 7 月退任、たけのしたクリニック開業

平成 31 年 6 月より新任

山﨑孝太　平成 21 年卒
日本糖尿病学会専門医
日本内科学会内科認定医
日本医師会健康スポーツ医
日本内分泌学会

2. 臨床実績（平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで）

入院患者

1 型糖尿病	13 名
2 型糖尿病	56 名
内分泌疾患	3 名
一般内科	21 名
合計	93 名

3. 学会

第 6 回日本糖尿病協会療養指導学術集会 平成 30 年 7 月 28～29 日
司会　「症例検討」

第 56 回日本糖尿病学会九州地方会　平成 31 年 10 月 11 日～12 日
口演　「2 型糖尿病患者の食道癌術後ダンピング症候群に CGM を用い血糖改善を得た 1 例」

4. 講演会・研究会

平成 30 年 11 月 21 日　糖尿病腎症予防を考える会
平成 30 年 11 月 28 日　唐津地区薬剤師研修会
平成 30 年 12 月 14 日　第 83 回佐賀糖尿病内分泌懇話会
など

5. 講義

佐賀県療養師研修会（佐賀大学）

コメディカルのための外来糖尿病セミナー（唐津総合庁舎　新館　大会議室）

6. この一年の歩み

前任の竹之下先生の活動を引き継ぐべく赴任したが、5 年かけて作り上げられた唐津市全体を巻きこんでの糖尿病性腎症重症化予防の取組を、わずかな並任期間で継承するのは困難であった。多大な活動をした前任者の喪失感を払拭するため、院内における糖尿病外来診療の活動への注目、関心を集めることを考え、『佐賀県糖尿病連携手帳』の実働率を高める施策を行った。具体的には受付にて患者の手帳の提出を促し、眠れるマンパワーであった医師事務に糖尿病手帳の記載を頂き、その手帳を患者に返して事前に検査結果を見つめる時間を持たせ、外来入室時には医師も手帳を見ながら診療をすることであった。こうした微々たる変革が、次第に大きな変化となり、ほぼ活用できていなかった手帳活用率は現在に至っても 5〜6 割を維持している。長年不可能に思われていた点を、ほんの少しの歯車の架け替えで継続的に実現できることを証明し、外来部門における糖尿病への関心の高まりを得るに至ったのである。

さらに、ストップ糖尿病事業が巨大化し、一人ひとりの活動、発言が統計という魔術の中に解消され、困難症例への腎症重症化ストップを果たしてきた実績の積み重ねが、かえって評価されない自体に陥っていた。これもまた歯車のずれに過ぎず、唐津が底力を失っていないことは平成 31 年 1 月のストップ糖尿病連絡会のスモールグループディスカッションの活発な討議で証明したところである。

自意識過剰的ではあるが、糖尿病診療の基幹病院として模範となるべく取り組みつつ、地域の先生方とのパイプラインは不器用な私なりに直接苦労を共にすることで築き上げていく計画であり、翌平成 31 年/令和元年には、糖尿病地域連携パスを作成し、できることなら地域の内科の全先生にお会いし、フェイス to フェイスを鍵と考えつつ突破口を見出していきたい。

（文責　山﨑 孝太）

腎内科

1. スタッフ紹介 （平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

第二内科部長	長嶋昭憲	昭和 62 年卒	日本内科学会総合内科専門医 日本腎臓学会腎臓専門医 日本透析医学会透析専門医
第二内科副部長	冬野誠太	平成 13 年卒	日本内科学会認定内科医 日本腎臓学会 日本透析学会

2. 臨床業績（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

(1) 入院疾患内訳（のべ人数）

疾患区分	件数
ネフローゼ・腎炎・電解質異常	31
急性腎不全・多臓器不全など	8
末期腎不全(透析導入)	22
シャント造設・シャントトラブル	9
透析患者の合併症	5
CKD または CKD 患者合併症	12
その他	19
計	106

(2) 血液透析　　総回数 1409 回（ICU での緊急透析 16 回を含む）

新規透析導入　　22 名（血液透析導入 21 名　腹膜透析 1 名）

（糖尿病性腎症 6、慢性糸球体腎炎 4、IgA 腎症 1、腎硬化症 8、多発性のう胞腎 2）

シャント PTA　　6 件

内シャント造設術　　31 件

腹膜透析　患者数 8 名

アフェレーシス

CHDF　35 回、 エンドトキシン吸着 0 回、白血球吸着 0 回、

腹水濾過濃縮再静注法（CART）88 回

(3) 腎生検　　14 例

組織診断内訳

IgA 腎症 8 例、膜性腎症 1 例、ANCA 関連腎炎 1 例、微小変化型ネフローゼ症候群 2 例、

巣状糸球体硬化症 1 例、良性腎硬化症 1 例

3. 学会発表

長家聡明、蒲池和晴　宮原正晴、冬野誠太　長嶋昭憲、明石道昭、土本晃裕：Light chain proximal tubulopathy を呈したベンスジョーンズ型多発性骨髄腫の一例（ポスター）. 第 115 回日本内科学会総会研修医の日本内科学会ことはじめ，京都，2018、4

4. この一年の歩みと今後の展望

平成 30 年度も前年とほぼ同数の 22 名を新規に透析導入した。

平成 30 年度佐賀県健康増進課の調査では、佐賀県内の新規透析導入患者は 338 名で漸増、糖尿病性腎症も漸増（45%）しているが、当院では糖尿病患者の透析導入は著明に減少している。

	2014	2015	2016	2017	2018
新規透析導入数	31	30	28	21	22
糖尿病性腎症	42%	67%	54%	43%	27%

腎硬化症の増加、また当院外来フォロー中の慢性腎炎患者の導入が多いという特別な理由もあるが、当地区は糖尿病内科が中心となり行政と糖尿病性腎症重症化予防に熱心に取り組んだ成果が表れたものと思われる。当科としても更に腎症の治療に協力する。

開業医の先生にも慢性腎臓病（CKD）の概念が浸透し、軽度の腎障害や尿蛋白異常の紹介が増えている。腎生検を行い早期に IgA 腎症の診断が付き治療を開始した症例が昨年 4 例から 8 例になった。

今後も、透析導入患者抑制による医療費削減を目標に、地域行政（検診）やかかりつけ医とタイアップし早期 CKD の洗い出しや CKD 予防活動、積極的治療を広げていきたい。

消化器内科

1. スタッフ紹介（平成 31 年 3 月 31 日現在）

第 1 内科部長	野田　隆博	日本内科学会総合内科専門医・指導医
		日本消化器病学会専門医・指導医・学会評議員
		日本消化器内視鏡学会専門医・指導医・支部評議員
		日本消化管学会専門医・指導医
		がん治療認定医機構認定医
		プライマリケア学会認定医
第 1 内科副部長	宮原　貢一	日本内科学会認定医・総合内科専門医
		日本消化器学会専門医・指導医・支部評議員
		日本消化器内視鏡学会専門医・指導医・学術評議員
		日本消化管学会指導医・代議員
		日本ヘリコバクター学会認定医
		がん治療認定医機構認定医
		日本胆道学会認定指導医
		日本膵臓学会
内科医師	樋高　秀憲	日本内科学会　認定医
		日本消化器病学会　専門医・支部評議員
		日本消化器内視鏡学会　専門医
		日本消化管学会
		日本ヘリコバクター学会認定医
内科医師	伊東　陽一郎	日本内科学会　認定医
		日本消化器病学会　専門医
		日本消化器内視鏡学会　専門医
		日本消化管学会
内科医師	藤本　峻	日本内科学会
		日本消化器病学会
		日本消化器内視鏡学会

2. 臨床業績

入院は悪性腫瘍の内視鏡治療・化学療法・緩和治療、消化管出血、炎症性腸疾患、腸閉塞、急性膵炎、急性胆のう炎・急性胆管炎、総胆管結石等を中心に診療を行った。

外来は難治性逆流性食道炎、ヘリコバクター・ピロリ除菌、炎症性腸疾患、好酸球性消化管疾患、慢性膵炎、悪性腫瘍精査・化学療法・緩和治療、消化管出血・急性腹症・イレウス等の救急診療等を行った。

内視鏡検査は上部 3112 件・下部 1658 件・胆膵 257 件・EUS51 件:ESD56 件・EMR/CSP447 件・止血術 131 件・消化管ステント 33 件・EST62 件・胆管ステント 111 件・EUS-FNA26 件施行した。

3. 研究業績

別紙参照

4. この 1 年の歩み

複数主治医制によるチーム医療を推進した。
カプセル内視鏡の件数が徐々に増加した。
小腸内視鏡検査が常時施行可能な体制を構築した。

【著書】

2018.11月	胃内視鏡検査・診断に自信がつく本	PP165-166 症例34　過形成性ポリープ由来の高分化型腺癌	宮原貢一、野田隆博

【論文】

2018.6月	An International Journal of Medicine, 2018, 737-738	Rectal MALT lymphoma regression and anti-Helicobacter pylori therapy	Y. Ito1, H. Ureshino1,2, N. Tsuruoka1 and T. Noda1
2018.6月	An International Journal of Medicine,	Treatment choice for primary rectal MALT lymphoma	H. Ureshino 1 and Y. Ito2
2018.12月	Clinical Epigenetics (2018) 10:150	Comprehensive methylation analysis of imprinting-associated differentially methylated regions in colorectal cancer	Hidenori Hidaka1,2, Ken Higashimoto1*, Saori Aoki1,3 et al.
2019.1月	Journal of Gastroenterology and Hepatology doi:10.1111/jgh.14610	Correlation of Barrett's esophagus with colorectal polyps in Japanese patients: A retrospective chart review	Hironobu Takedomi,*, †, ‡ Nanae Tsuruoka,*, †, ‡ Ayako Takamori, § Koichi Miyahara,* Kohei Yamanouchi,*, ‡, Takuya Shimamura,*, ‡ Yo Fujimoto,* Takahiro Noda,* Takuya Matsunaga, †, ‡ Yoshimichi Takara, †, ‡, Furitsu Shimada, †, ‡ Hidenori Hidaka,*, † Hiroyoshi Endo, † Keizo Anzai ‡ and Kazuma Fujimoto ‡

【学会発表】

2018.4.14	第115回内科学会総会	生魚摂食後にShewanella algae肝膿瘍/菌血症を発症した肝内胆管癌の1例	成瀬尚美、宮原貢一、島村拓弥、伊東陽一郎、中山賢一郎、梅口仁美、井手康史、野田隆博
2018.5.10-12	第95回日本消化器内視鏡学会総会	大腸憩室出血に対する結紮止血法はクリップ止血法と比較し入院医療費を低額にする:DPCデータを用いた比	伊東陽一郎1,2,鶴岡ななえ1,藤本一眞1
2018.6.2-5	DDW2018	THE PSYCHOTROPIC AGENT WAS ONE OF THE RISK FACTORS FOR DEVELOPING UPPER GASTROINTESTINAL MUCOSAL INJURIES: A CASE-CONTROL STUDY USING THE LARGE ORGANIZED DATABASE OF CLAIMS IN JAPAN	Fujimoto, Shun[1]; Sugisaki, Nobuyuki[2]; Takara, Yoshimichi[2]; Tsuruoka, Nanae[2]; Sakata, Yasuhisa[2]; Iwakiri, Ryuichi[2]; Fujimoto, Kazuma[2]
2018.6.8-9	第105回日本消化器内視鏡学会九州支部例会	十二指腸上行脚憩室内にPTPが長期停留した1例	中山賢一郎、島村拓弥、伊東陽一郎、宮原貢一、井手康史、野田隆博
2018.6.8-9	第105回日本消化器内視鏡学会九州支部例会	当院における免疫チェックポイント阻害剤による消化管障害の２例	宮原貢一、伊東陽一郎、島村拓弥、中山賢一郎、樋高秀憲、井手康史、　野田隆博
2018.9-27-28	第54回日本胆道学会	良性胆管狭窄に合併した総胆管結石に対しSEMS挿入によって截石が成功した１例	宮原貢一　井手康史
2018.11.9-10	第106回日本消化器内視鏡学会九州支部例会	副腎腫瘍との鑑別が問題となったが、EUS-FNABで診断できた胃GISTの1例	藤本峻、宮原貢一、伊東陽一郎、樋高秀憲、木塚雅之、中山賢一郎、井手康史、野田隆博
2018.11.15-16	第54回日本赤十字医学会総会	上腸間膜静脈腫瘍塞栓が疑われた同時発生進行胃癌・進行大腸癌の1例	平加奈子,伊東陽一郎,成瀬尚美,藤本峻,木塚雅之,樋高秀憲,宮原貢一,井手康史,野田隆博
2018.12.5-8	GASTRO2118	The psychotropic agent was one of the risk factors for developing upper gastrointestinal mucosal inujuries: A case-control study using the large organized database of claims in Japan (apporoximately 3.7 million populations on the	Shun Fujimoto1,2, Nobuyuki Sugisaki2, Yoshimichi Takara2, Nanae Tsuruoka2, Yasuhisa Sakata2, Ryuichi Iwakiri2, Kazuma Fujimoto2

2019.2.1-3	第15回日本消化管学会総会	佐賀県内４施設における免疫チェックポイント阻害薬による腸炎9例の検討	宮原貢一、藤本峻、伊東陽一郎、樋高秀憲、野田隆博　他
2019.2.1-3	第15回日本消化管学会総会	直腸狭窄を呈し原発性直腸癌との鑑別が困難であった前立腺癌直腸転移の1例	藤本峻，　宮原貢一，　伊東陽一郎，　樋高秀憲，　中山賢一郎，野田隆博
2019.2.22-23	第59回日本肺癌学会九州支部学術集会	賀県内４施設における免疫チェックポイント阻害薬による消化管障害11例の検討	宮原貢一、栗原有紀、井上周、梅口仁美

【研究会・その他】

2018.7.17	唐津東松浦消化器研究会	ミニレクチャー：COLD SNARE POLYPECTOMY	野田隆博
2018.7.17	唐津東松浦消化器研究会	症例発表：膀胱がん直腸転移	藤本峻，　宮原貢一，　伊東陽一郎，樋高秀憲，井手康史，野田隆
2018.11.15	佐賀胃腸懇話会	症例提示	樋高秀憲，藤本峻，　伊東陽一郎，宮原貢一，　野田隆博
2018.11.17	院内がん化学療法勉強会	大腸がんの化学療法について	宮原貢一
2018.11.20	唐津東松浦消化器研究会	症例発表：MCIによる大腸炎の症例	伊東陽一郎，藤本峻，　樋高秀憲，宮原貢一，　野田隆博
2019.2.9	第12回　九州・山口胆膵若手の会	当院におけるEPLBDの現状と胆管炎再発に関して	宮原貢一，藤本峻，伊東陽一郎，樋高秀憲，井手康史，野田隆博
2019.3.19	唐津東松浦消化器研究会	ミニレクチャー：急性胆管炎・胆嚢炎　-TG18を中心に	野田隆博
2019.3.19	唐津東松浦消化器研究会	症例：胃GISTに対するLECS	伊東陽一郎，藤本峻，　樋高秀憲，宮原貢一，　野田隆博
2019.3.19	唐津東松浦消化器研究会	症例：転移性大腸癌	藤本峻，　宮原貢一，　伊東陽一郎，樋高秀憲，井手康史，野田隆

【その他】

2018.6.8-9	第111回日本消化器病学会九州支部例会	座長　専攻医発表　大腸３	宮原貢一
2019.2.1-3	第15回日本消化管学会総	座長　病理：大腸-2	野田隆博
2019.2.1-3	第15回日本消化管学会総	座長　症例：胃十二指腸-2	宮原貢一
2019.2.1-3	第15回日本消化管学会総	座長　症例：胃十二指腸-5	樋高秀憲
2019.2.1-3	第15回日本消化管学会総	座長　症例：大腸・直腸・肛門14	伊東陽一郎

呼吸器内科

1.スタッフ紹介（平成 31 年 3 月 31 日現在）

梅口　仁美　　平成 17 年卒　　日本内科学会　認定医・総合内科専門医
日本呼吸器学会　専門医
日本臨床腫瘍学会　がん薬物療法専門医
ICD（インフェクションコントロールドクター）
日本肺癌学会
日本感染症学会
日本緩和医療学会
日本呼吸器内視鏡学会

井上　周　　平成 21 年卒　　日本内科学会　認定医
日本呼吸器学会
日本呼吸器内視鏡学会
日本肺癌学会
ICD（インフェクションコントロールドクター）

栗原　有紀　　平成 25 年卒　　日本内科学会　認定医
日本呼吸器学会

２．臨床業績（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

診療統計

疾患別入院患者数（延べ人数）

疾患区分	患者数
肺感染症	66
肺癌	203
肺癌以外の悪性腫瘍	43
間質性肺炎	43
COPD	18
喘息	20
その他の呼吸不全	35
気胸	30
膿胸	8
気道出血	9
その他	50
計	525

気管支鏡検査（延べ人数）

症例数　125 件

（内訳）

経気管肺生検法 53 件、気管支肺胞洗浄法 12 件、EBUS-TBNA 9 件、EWS 10 件、気管支洗浄 21 件、内腔観察のみ 27 件　その他 10 件

化学療法

(登録レジメン)

ADOC、AMR、Atezolizumab、Bevacizumab、Bev+Atezo、CBDCA+CPT-11、CBDCA+DOC 、 CBDCA+ETP 、 CBDCA+ETP+Atezo 、 CBDCA+GEM 、 CBDCA+GEM+Bev、CBDCA+Pem、CBDCA+Pem+Bev、CBDCA+Pem+Pemblo、CBDCA+PTX 、 CBDCA+PTX+Bev 、 CBDCA+PTX+Bev+Atezo 、 CBDCA+PTX+Pembro 、 CBDCA+S-1 、 CBDCA+VNR 、 CBDCA+nab-PTX 、 CBDCA+nab-PTX+Bev、CBDCA+nab-PTX+Pemblo、CDDP+CPT-11、CDDP+DTX、CDDP+ETP、CDDP+GEM、CDDP+GEM+Bev、CDDP+Pem、CDDP+Pem+Bev、CDDP+S-1、CDDP+VNR、CPT-11、DTX、DTX+Ram、Durvalumab、GEM、NGT、Nivolumab、Pem、Pem+Bev、Pem+Pemblo、Pembrolizumab 、S-1、VNR、nab-PTX、Gefitinib、Erlotinib、Afatinib、Osimertinib、Crizotinib、Alectinib、Pembrolizumab

３．研究業績

＜学会発表＞

第 322 回日本内科学会九州地方会

「肺 MAC 症に合併した Nocardia cyriacigeorgica の１例」

長家聡明（研修医）

第 59 回日本肺癌学会学術集会

「免疫チェックポイント阻害剤の有害事象として消化管粘膜障害を来した２症例」

栗原有紀

第 59 回日本肺癌学会九州支部学術集会

「気管支内腔を鋳型に増大するという稀な進展形式を呈した小細胞肺癌の１例」

栗原有紀

第 81 回日本呼吸器学会・日本結核病学会　九州支部秋季学術講演会

「血痰を主訴に発見された心房細動カテーテルアブレーション後の肺静脈狭窄症の１例」

井上周

第 59 回日本肺癌学会九州支部学術集会
「肺癌との鑑別を要したメトトレキサート関連リンパ増殖性疾患の 1 例」
井上周

第 59 回日本肺癌学会九州支部学術集会
「肺多型癌 11 例の治療経験」
梅口仁美

第 42 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会
「非結核性抗酸菌症による難治性気胸に対して EWS による気管支充填術が有効であった一例」
梅口仁美

第 59 回日本肺癌学会九州支部学術集会
「院内外チーム医療で支えたがん末期患者・家族の意思決定支援」
柿木伸也（ソーシャルワーカー）

第 59 回日本肺癌学会九州支部学術集会
「進行肺癌患者に対する Short Performance Physical Battery を用いた全身状態評価の試み」
伊藤真也（理学療法士）

＜セミナー、講習会受講＞
7 月 21 日・22 日　急性期病棟におけるリハビリテーション医師研修会、井上周
1 月 11 日・12 日　院内感染対策講習会（厚生労働省・日本感染症学会主催）、井上周

4.この 1 年の歩み

平成 30 年度の呼吸器内科は常勤医師 3 名の体制を維持することができました。

外来診療では、前年度に引き続き平日のすべての曜日で新患・定期外来患者さんの対応をおこなっています。これまでも呼吸器外科グループと密に連絡をとりながら診療をおこなってきましたが、本年度からは週に 1 回カンファレンスを定期開催し、手術適応や術後化学療法の適応など、適切な治療の方針やタイミングについて協議をおこなえる体制が整いました。

近年、肺癌に対する薬物療法は目覚ましい進歩を遂げており、本年度は免疫チェックポイント阻害薬と従来の殺細胞性抗がん剤の併用療法が保険適用となりました。当院でも最新の知見に基づいて適切な診療を患者さんに届けられるよう努めております。

血液内科

1.スタッフ紹介（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

副院長　　宮原　正晴　　平成 2 年卒

日本内科学会：認定医・総合内科専門医・指導医
日本血液学会：専門医・指導医
日本造血幹細胞移植学会
日本がん治療認定医機構：がん治療認定医・暫定教育医
日本臨床腫瘍学会：暫定指導医
日本輸血細胞療法学会
日本感染症学会
ICD（インフェクションコントロールドクター）
日本プライマリ・ケア連合学会：認定医
日本医療マネジメント学会
日本老年医学会

副部長　　冨桝　りか　　平成 7 年卒

日本内科学会：認定医・総合内科専門医
日本血液学会：専門医
日本臨床腫瘍学会

医師　　北村　浩晃　　平成 22 年卒

日本内科学会：認定医・総合内科専門医
日本血液学会：専門医
日本臨床腫瘍学会
日本感染症学会
日本輸血細胞療法学会
日本静脈経腸栄養学会
日本がん分子標的治療学会

非常勤医師

平成 30 年 4 月 1 日より

嬉野　博志　　平成 18 年卒

日本内科学会総合内科専門医・指導医
日本血液学会専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本臨床腫瘍学
日本がん分子標的治療学会
日本癌学会

常勤医師 3 名、非常勤医師 1 名で診療して来ております。

2.臨床業績

入院患者内訳（のべ人数）（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

疾患名	患者数
急性骨髄性白血病	２２
慢性骨髄性白血病	1
急性リンパ性白血病	4
骨髄増殖性腫瘍	3
成人 T 細胞白血病リンパ腫	２３
原発性マクログロブリン血症	4
悪性リンパ腫	１６１
多発性骨髄腫	２３
骨髄形成症候群	２７
特発性血小板減少性紫斑病	6
再生不良性貧血	6
その他貧血、感染症など	８０
合計	３６０

新患患者内訳（入院+外来）（平成 30 年 1 月～平成 30 年 12 月）

疾患名	患者数
急性骨髄性白血病	4
慢性骨髄性白血病	5
急性リンパ性白血病	1
骨髄増殖性腫瘍	4
成人 T 細胞白血病リンパ腫	5
悪性リンパ腫	４５
原発性マクログロブリン血症	3
多発性骨髄腫	8
骨髄形成症候群	２０
特発性血小板減少性紫斑病	6
再生不良性貧血	6
その他貧血、感染症など	８０
合計	１９０

３.研究業績

＜学会報告＞

1. 23rd Congress of European Hematology Association2018, 6, 14-17Stockholm
Evaluation of low level detection of major BCR-ABL1 mRNA in chronic myeloid leukemia (DOMEST additional study)
Hiroaki Kitamura,Yoko Tabe, Koji Tsuchiya, Maiko Yuri, Shigeki Misawa, Takashi Horii, Akimichi Ohsaka, Shinya Kimura

2. 第 88 回日本感染症学会西日本地方会学術集会 2018 年 11 月 16-18 日鹿児島
北村浩晃、久保田寧　造血器疾患における中心静脈カテーテル関連血流感染症のサーベイランスと中心静脈カテーテル挿入時の環境リスク因子の検討

3. 胚中心前駆 B 細胞由来混合型リンパ腫と discordant lymphoma を合併した 1 例;
2018 年 10 月発表情報;　第 80 回日本血液学会学術集会, 2018/10/12-14　（大阪）
著者;　西岡 敦二郎, 嬉野 博志, 安藤 寿彦, 木塚 遥菜, 草場 香那, 佐野 晴彦, 板村 英和, 久保田 寧, 小島 研介, 大島 孝一, 木村 晋也

4. DNA メチル化異常を標的とした成人 T 細胞白血病/リンパ腫の新規治療法の可能性;
2018 年 10 月発表情報;　第 80 回日本血液学会学術集会, 2018/10/12-14（大阪）
著者;　渡邉 達郎, 嬉野 博志, 倉橋 祐樹, 山下 聡, 牛島 俊和, 末岡 榮三朗,　木村 晋也

5. 新規経口 DNA 脱メチル化剤 OR-21 の MDS 及び AML 細胞株に対する効果;
2018 年 10 月発表情報;　第 80 回日本血液学会学術集会, 2018/10/12-14（大阪）
著者;　嬉野 博志, 倉橋 祐樹, 渡邉 達郎, 木村 晋也

6. 新規経口 DNA 脱メチル化剤 OR-21 の MDS 及び AML 細胞株に対する効果;
2018 年 09 月発表情報;　第 77 回日本癌学会学術総会, 2018/9/27-29（大阪）
著者;　嬉野博志、渡邉達郎、木村晋也

7. Newly oral DNA methyltransferase inhibitor (OR21) for MDS and AML;
発表情報;　The 9th JSH International Symposium 2018 in Kyoto, 2018/7/27-282018 年 07 月（京都）
著者;　Hiroshi Ureshino, Tatsuro Watanabe, Yuki Kurahashi, Shinya Kimura

8. 新規経口 DNA 脱メチル化剤 OR-21 の効果の検討;　2018 年 05 月（東京）
発表情報;　第 22 回日本がん分子標的治療学会学術集会, 2018/5/16-18
著者;　嬉野　博志、渡邉　達郎、倉橋　祐樹、木村　晋也

＜論文発表＞

1. Epstein-Barr virus-related diffuse large B-cell lymphoma in mogamulizumab-treated adult T-cell lymphoma/leukemia incomplete T-cell reconstitution. Kamachi K, Shindo T, Miyahara M, kitaura K. Kimura S.
2. Deep sequencing of the T cell receptor visualizes reconstitution of T cell immunity in mogamulizumab-treated adult T cell leukemia. Oncoimmunology. 2018; 7(3):e1405204.Shindo T, Kitaura K, Ureshino H, Kamachi K, Miyahara M, Doi K, Watanabe T, Sueoka E, Shin-I T, Suzuki R, Kimura S.
3. Successful Autologous Hematopoietic Stem Cell Transplantation Followed by Bortezomib Maintenance in a Patient with Relapsed CD138-low Multiple Solitary Plasmacytomas Harboring a 17p Deletion. intern Med.2018 15;57(6):855-860 Kitamura H, Kubota Y, Yamaguchi K, Kamachi K, Nishioka A, Yokoo M, Shindo T, Ando T, Kojima K, Kimura S
4. Allelic polymorphisms of KIRs and HLAs predict favorable responses to tyrosine kinase inhibitors in CML; 2018 年 04 月発表情報; Cancer Immunol Res.,2018, 6;6：745-754
   著者; Hiroshi Ureshino, Takero Shindo, Hiroto Kojima, Yasushi Kusunoki, Yuki Miyazaki, Hidenori Tanaka, Hiroh Saji, Atsushi Kawaguchi, Shinya Kimura
5. Rectal MALT lymphoma regression and anti-helicobacter pylori therapy; 2018 年 10 月 発表情報; QJM: An International Journal of Medicine, 111, 10, 737-738 著者; Ito Y, Ureshino H*, Tsuruoka N, Noda
6. Primary Effusion Lymphoma-like Lymphoma with a T-cell Phenotype; 2018 年 04 月発表情報; Annals of Hematology., 97, 4, 717-718
   著者; Takaomi Kobayashi, Daisuke Mori, Hiroshi Ureshino*, Shinichi Kido, Sonoko Ikeda, Shinya Kimura, Alan Kawarai Lefor, Eijo Matsuishi
7. Sustained ventricular tachycardia caused by subacute thyroiditis;2018 年 02 月 発表情報; Intern Med J., 48, 9, 1160-1162
   著者; *Keisuke Narita, Hiroshi Ureshino*, Shigemasa Hashimoto
8. Tocilizumab for severe cytokine-release syndrome after haploidentical donor transplantation in a patient with refractory Epstein-Barr virus-positive diffuse large B-cell lymphoma; 発表情報; Hematological Oncology .2018, 36, 1, 324-3
   著者; Hiroshi Ureshino*, Toshihiko Ando, Haruna Kizuka, Kana Kusaba, Haruhiko Sano, Atsujiro Nishioka, Hidekazu Itamura, Takero Shindo, Yasushi Kubota, Kensuke Kojima, Shinya Kimura

4.この一年の歩み

血液内科では、造血器腫瘍（白血病、悪性リンパ腫など）や造血障害（再生不良性血、骨髄異形性症候群など)、血小板凝固異常症（出血傾向や血栓傾向を生じる疾患）などの専門的診断と治療を行っています。患者さん、ご家族との十分なコミュニケーションの上で、全人的医療の実践を目標に、各疾患の標準的治療を実施してきています。新病院移転後、無菌室 4 床を有し、化学療法、放射線療法、免疫療法、分子標的治療薬、自家末梢血幹細胞移植など実施してきています。血液内科領域では、新規薬剤（分子標的薬・抗体療法薬など）の導入によって、治療性成績向上が得られてきており、新規薬剤の治療の積極的導入を、図っています。また同種幹細胞移植が必要な症例は、移植施設との連携をとり積極的に移植目的の紹介をしています。

地域医療支援病院として地域の連携医療機関から多くの患者さんを紹介いただいており、また県内の他の血液疾患専門診療施設（佐賀大学医学部付属病院、佐賀県立病院好生館）とも医療連携を行い、定期的に情報交換をしながら治療成績向上をめざしています。

【取り扱っている主な疾患】
急性白血病：急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病
慢性白血病：慢性骨髄性白血病、慢性リンパ性白血病
悪性リンパ腫：非ホジキンリンパ腫、ホジキンリンパ腫
成人 T 細胞性白血病・リンパ腫
多発性骨髄腫
骨髄異形成症候群
再生不良性貧血
骨髄増殖性疾患：多血症、本態性血小板血症、骨髄線維症など
貧血：自己免疫性溶血性貧血など
特発性血小板減少性紫斑病
造血幹細胞移植：自己末梢血幹細胞移植
凝固異常症：血友病、フォンビルブランド病など

肝臓内科

1. スタッフ紹介（平成３１年３月３１日現在）

副部長　井手　康史　平成12年卒　日本内科学会総合内科専門医・指導医
日本肝臓学会認定専門医
日本消化器病学会専門医・指導医・支部評議員
がん治療認定医
日本消化器内視鏡学会
日本胆道学会
日本膵臓学会
日本超音波医学会
日本糖尿病学会
日本静脈経腸栄養学会
日本病態栄養学会
JMECCインストラクター
ICLSインストラクター

2. 臨床業績（平成３０年４月～平成３１年３月）

入院患者　172名

【肝癌治療】

経皮的ラジオ波焼灼療法（RFA）	4件
経皮的エタノール注入療法（PEIT）	0件
肝動脈化学塞栓術（TACE）	8件
肝動脈注入療法（TAI）	0件
分子標的治療薬導入	3件
その他化学療法	0件

3. 研究業績（平成３０年４月～平成３１年３月）

（学会、講演、論文等）

1. 唐津東松浦郡肝疾患研究会（4/17）
   薬物性肝障害
   井手康史

2. 唐津糖尿病カンファレンス（6/11）
   SGLT2阻害薬が有効であったT2DM合併NAFLDの２症例
   井手康史
3. 唐津東松浦郡肝疾患研究会（8/9）
   進行肝細胞癌の化学療法
   井手康史
4. 肝がん撲滅運動唐津市民公開講座（10/27）
   生活習慣と脂肪肝　―アルコールと肥満による肝臓病―
   井手康史
5. 唐津肝臓懇話会（11/20）
   当院におけるマヴィレット配合錠使用実績
   井手康史
6. 唐津東松浦郡肝疾患研究会（12/4）
   肝疾患とサルコペニア
   井手康史
7. SASLD研究会（1/19）
   当院におけるNBNC肝細胞癌の背景因子に関する検討
   井手康史

4. この１年のあゆみ

当科ではウイルス性肝炎の治療や肝障害の鑑別診断および治療、肝がんの内科的治療などを主に、各種肝疾患の診断や治療を行っています。

C型肝炎に対する抗ウイルス療法については近年急速な進歩を遂げており、ほとんどすべてのC型慢性肝炎・肝硬変患者のウイルス排除が可能になりました。透析中でも非代償性肝硬変であってもインターフェロンフリーでの抗ウイルス治療が可能となっています。治療待機症例がいなくなり新規の抗ウイルス治療症例数は減少していますが、引き続き抗ウイルス療法と治療後の肝癌スクリーニングを行っています。

ウイルス性肝炎患者のキャリア数減少に伴い、全国的な動向と同様に当院でも肝細胞癌患者は減少しています。一方で脂肪性肝疾患や糖尿病などの生活習慣病やアルコール性肝障害を背景とした肝細胞癌が増多傾向にあります。当院におけるここ５年の肝細胞癌患者のうち、いわゆる非B非C（NBNC）肝癌患者はその半分を占めています。NBNC肝癌患者は定期的な肝癌スクリーニングをされていないことがほとんどであり、発見時には進行していることが多く、また高齢で併存疾患も多い傾向にあります。その

ために手術適応外であることが多く、内科的治療の重要度は高まっていると考えられます。肝癌や肝硬変になる前からの脂肪性肝疾患患者の外来診療の重要性についても同様に高まっており、近隣のクリニックからご紹介いただくことも多くなりました。栄養指導や肝線維化評価などを用いた外来診療に力を入れています。

また、胆膵疾患に対しても、消化器内科と協働で取り組んでいます。ERCPやPTBDなどの手技による閉塞性黄疸の診断や治療、胆道癌・膵癌に対する化学療法などを行っています。

近年は、腹水に対する腹腔―静脈シャント設置術（いわゆるデンバーシャント）や腹水濾過濃縮再静注療法（CART）などの腹水コントロールも積極的に行っています。脳症や静脈瘤に対するバルーン閉塞下逆行性経静脈的門脈塞栓術（B-RTO）も放射線科の協力を得て行っており、肝硬変診療については三次医療機関と遜色ないレベルにあるものと自負しています。

さらに肝胆膵疾患以外にも、上述の腹水コントロールや栄養の中心臓器である肝臓への知識を活かし、STやPCTの一員としてチーム医療に積極的に参加しています。

肝臓内科は平成29年度から一人体制になっており、研究面では十分な活動が行えていませんが、全国赤十字肝疾患ネットワーク共同研究グループの一員として多施設共同臨床研究に協力しています。

今後も肝胆膵領域の診療を通じて県北部の地域医療に貢献していきたいと考えています。

循環器内科

1.スタッフ紹介（平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日）

部長	森　唯史	昭和 63 年卒
		第 1 循環器内科部長
		日本内科学会　専門医
		日本循環器学会　専門医
		日本心血管インターベンション治療学会　専門医・指導医
		日本心臓リハビリテーション学会　指導士
部長	橋本　重正	昭和 62 年卒
		第 2 循環器内科部長
		日本内科学会　専門医
		日本循環器学会　専門医
		日本心血管インターベンション治療学会　認定医
		プライマリケア学会
医師	仲村　尚崇	（平成 31 年 1 月 1 日～）
		日本内科学会　総合内科専門医
		日本循環器学会　循環器専門医
		日本心臓リハビリテーション学会　指導士
		日本心血管インターベンション治療学会　認定医
		日本不整脈心電学会
	古川　陽介	日本内科学会
		日本循環器学会
		日本心血管インターベンション治療学会
	轟木　渉	日本内科学会
		日本循環器学会
		日本医学放射線学会
	有馬　岳史	（～平成 30 年 9 月 30 日）

2.臨床業績（平成 30 年 1 月 1 日～平成 30 年 12 月 31 日）

心臓カテーテル検査	159 件
冠動脈インターベンション	142 件 （うち緊急 56 件）
経皮的中隔心筋焼灼術	0 件

ペースメーカー植え込み術	新規 42 件 交換 14 件
冠動脈 CT 心臓 MRI 心筋シンチ	226 件 811 件 19 件
心エコー	3393 件
ホルター心電図	297 件

3.研究業績

学会・研究会発表

1. 2018.7.28. Premium Hypertension Conference, 東京.「Seasonal and regional variation of home blood pressure」Narita K, Hoshide S, Fujiwara T, et al.

2. 2018.9. 20-23. The 27 th Scientific Meeting of the International society of hypertension 2018, Beijing, China.「Oral communication: Seasonal and regional variation in morning home blood pressure: the J-HOP study」Narita K, Hoshide S, Fujiwara T, et al.

3. 同上学会.「Poster session: Ambulatory blood pressure variability Increased over 19-year follow-up in the clinic on solitary island」Narita K, Eguchi K, Kario K.

4. 2018.11.12. 第一三共製薬 唐津地区勉強会 「PCI における出血性合併症」成田圭佑、森唯史、橋本重正

5. 2019.3.30. 第 83 回日本循環器学会総会. 横浜.「Poster session: Seasonal and regional variation in home blood pressure: the J-HOP study」Narita K, Hoshide S, Kario K.

6. 2018/11/15 ブリストル web 講演 がん診療に循環器内科医はどう関わるか？
副題：腫瘍循環器学（oncocardiology/cardiooncology）そして，がん患者の静脈血栓症
橋本重正

7. 2018/11/18 日本内科学会 第 323 回 九州地方会 ガイドワイヤーによる冠動脈穿孔に続発したペーシング不全の一例 西村優希、鬮木渉、古川陽介、森唯史、橋本重正

論文 2018.4 月―

1. Sustained ventricular tachycardia caused by subacute thyroiditis. Narita K, Ureshino H, Hashimoto S. Intern Med J. 2018; 48+1160-1162.

2. Ambulatory blood pressure variability increased over a 19-year follow-up in a clinic on a solitary island. Narita K, Eguchi K, Kario K. Blood Press Monit. 2018; 23* 283-287.

3. Lowering the systolic blood pressure target in hypertensive patients* current controversies and future outlook. Narita K, Hoshide S, Kario K. Expert Rec Cardiovasc Ther. 2018; 16: 889-895.

総説・書籍　2018 年 4 月―

1. 血圧　2018 年 4 月号　先端医学社　Information Up-to-data　「高齢者の早朝高血圧 : The Minhang study」成田圭佑、苅尾七臣.

2. 臨床検査　2018年7月号　医学書院　「生理検査道場　24時間自由行動下血圧測定　判読手順と異常値メカニズム」成田圭佑、江口和男.

3. 血圧　2018 年 8 月号　先端医学社　Information Up-to-date「アジア人の高血圧治療」成田圭佑、苅尾七臣.

4. 臨床検査　2018年8月号　医学書院　「生理検査道場　24時間自由行動下血圧測定　判読の極意」成田圭佑、江口和男.

がん診療に循環器内科医はどう関わるか？

副題：腫瘍循環器学（oncocardiology/cardiooncology）

そして，がん患者の静脈血栓症

2018/11/15　ブリストル web 講演

小児科

１．小児科診療スタッフ（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

田代　克弥（小児科専門医）
田島　大輔（小児科専門医）
阿部　淳（小児科専門医）
大林　梨津子（小児科専門医）
中山　愛子（小児科専門医）
古川　理恵

２．業績（臨床・研究）（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

田代克弥

就職による移行期医療の選択としてミガーラスタット導入を行った 18 歳男児例. ファブリー病研究会　2019.1.26　福岡市

田島大輔

こどものてんかんの基礎知識. 脳と心と波の会 2018.8.20 武雄市

こどものてんかんの基礎知識.第 2 回唐津てんかんを考える会
2018.9.13 唐津市

後期研修での小児科選択へ寄与する要因の検討.第 121 回日本小児科学会学術集会
2018.4.20-22

ヌシネルセン投与中の脊髄性筋萎縮症 1 型男児例の 8 ヵ月間の経過. 第 60 回日本小児神経学会総会 2018.5.31-6.2 千葉

けいれん発作にて入院した 103 例の検討. 第 52 回日本てんかん学会総会 2018.10.25-7 横浜

中山　愛子

中山愛子、垣内俊彦、松尾宗明 : タクロリムスで寛解維持できず、インフリキシマブにスイッチした難治性潰瘍性大腸炎の小児例.小児科臨床 2018; 71(9):1525-1530.

中山愛子、阿部淳、田代克弥 : 多臓器障害を呈した重症熱性血小板減少症候群の男児例. 小児感染免疫 30(3):239-243, 2018

多臓器障害を呈した重症熱性血小板減少症候群の小児例. 第 54 回日本赤十字社医学会総会 2018.11.15-16

古川（溝端）理恵

真菌性の尿路感染症による続発性偽性低アルドステロン症を繰り返した Prune belly 症候群の一例：日本小児体液研究会誌 Vol.10：57-61,2018

真菌性尿路感染症による続発性 PHA を繰り返した Prune belly 症候群の一例.第 121 回日本小児科学会学術集会 2018.4.20-22

成長ホルモン補充療法中に、低 K 血症、手足の痺れから Gitelman 症候群と診断された一例.第 53 回日本小児腎臓病学会学術集会 2018.6.29 福島

３．この1年のあゆみ

平成 30 年 4 月より前任の辻功介先生に代わり田代克弥が、大林梨津子・古川理恵とともに赴任しました。

平成 28 年の病院移転に伴う診療体制の改変により、従来の外来・病棟と院内併設型の小児急患センターが共存するようになりました。

このセンターは、県内で唯一深夜帯でも小児医による一次診療が受けられます。平日 20 時 - 6 時、土曜日 18 時 - 6 時、休日・日曜日 9 時 - 6 時に開設しています。これには、九州大学・福岡大学・久留米大学・佐賀大学、市内開業医の先生方、自治医大卒業の先生からの多大な支援をいただき、順調に運用されています。患者さんは唐津地区のみならず、伊万里地区からも受診され、地域小児医療の大きな柱となっています。日赤小児科医は、小児急患センターからトリアージを受けた患者さんの受け皿としてバックアップに努めています。具体的には、急患センターからのご相談に対して、迅速に対応して精密検査や入院治療等を行っています。今後も急患センターへ出動していただいている先生方との密な連携の下、一次診療から入院治療まで切れ目のない小児時間外診療を提供できるように努力していきます。

一方、病院小児科は、唐津・東西松浦地区の小児診療の地域拠点であり、二次医療を中心に行っております。地域の先生方から多くの患者さんのご紹介をいただくお陰で、外来患者数・入院患者数ともに前年度比 6%以上の増加がみられています。ご紹介いただいた先生方並びに受診された患者さん及びご家族に、満足いただける医療を提供できるように、日々改善にスタッフ一同努めております。しかし、人数及び施設の規模・設備等の制約があるため、受診された方全てに、当院のみで対応はできません。幸い、佐賀大学をはじめ基幹医療機関との連携は良好であり、まず当院で初期対応としてできうる限りのことを行い、その上で高次医療機関への紹介の流れが確立できています。高次医療機関までは、救急車で 1 時間以上かかりますが、以前と異なり小児も積極的にヘリコプター搬送が可能となりましたので、他の医療機関との距離感が著しく縮まりました。中規模病院の強みであるフットワークの軽さを生かしつつ、より良い小児医療を提供できるように引き続き努めてまいります。

（文責　田代克弥）

外科

1．スタッフ紹介（平成 31 年 3 月 31 日現在）

副院長		日本外科学会　認定医・専門医・指導医
兼医療安全推進センター長	湯ノ谷　誠二	日本消化器外科学会　認定医・専門医・指導医
		日本消化器病学会　専門医
		日本内視鏡外科学会評議員
		日本がん治療認定医機構暫定教育医
		日本がん治療認定医機構がん治療認定医
		日本消化器外科学会認定　消化器がん外科治療認定医
		日本胃癌学会
		日本癌治療学会
		日本腹部救急医学会
		日本緩和医療学会
		日本臨床外科学会
		佐賀大学医学部臨床教授　他
第 1 外科部長	鮫島　隆一郎	日本外科学会認定医・専門医
		日本消化器外科学会専門医
		日本がん治療認定医機構がん治療認定医
		日本消化器外科学会認定消化器がん外科治療認定医
		日本癌治療学会
		日本臨床外科学会
		日本内視鏡外科学会
		日本胃癌学会
		日本静脈経腸栄養学会
第 2 外科部長	井久保　丹	日本外科学会認定医・専門医・指導医
		日本消化器外科学会認定医・専門医・指導医
		日本がん治療認定医機構暫定教育医
		日本がん治療認定医機構がん治療認定医
		日本消化器外科学会認定消化器がん外科治療認定医
		日本癌学会
		日本臨床外科学会
		日本バイオセラピィ学
乳腺外科部長	田渕　正延	日本外科学会認定医・専門医・指導医
		日本乳癌学会認定医・専門医
		日本消化器外科学会認定医・指導医

		日本消化器内視鏡学会専門医
		日本がん治療認定医機構暫定教育医
		日本がん治療認定医機構がん治療認定医
		日本乳癌検診学会評議員
		日本消化器外科学会認定消化器がん外科治療認定医
		NPO 法人日本マンモグラフィ検診精中委認定マンモグラフィ読影医
		日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会
		日本乳腺甲状腺超音波医学会
		日本臨床細胞学会
呼吸器外科部長	小島　勝雄	日本外科学会　外科専門医・認定医
		日本呼吸器外科学会　呼吸器外科専門医
		日本胸部外科学会　認定医
		日本呼吸器内視鏡学会　指導医・専門医
		日本肺癌学会
		日本癌治療学会
		日本呼吸器学会
第 1 外科副部長	神谷　尚彦	日本外科学会専門医
		日本消化器外科学会専門医
		日本がん治療認定医機構がん治療認定医
		日本消化器外科学会認定消化器がん外科治療認定医
第 2 外科副部長 兼医療社会事業部長	酒井　正	日本外科学会認定医・専門医
		日本消化器外科学会
		日本がん治療認定医機構がん治療認定医
外科医師	古賀　浩木	日本外科学会　外科専門医
		日本消化器外科学会　専門医
		日本内視鏡外科学会　技術認定医
		日本がん治療認定医機構がん治療認定医
		日本消化器外科学会認定　消化器がん外科治療認定医
		日本胃癌学会
		日本癌治療学会
		日本肝胆膵外科学会
呼吸器外科医師	森藤　良浩	日本外科学会　外科専門医
		日本消化器外科学会
		日本内視鏡外科学会

		日本臨床外科学会
		日本呼吸器外科学会
		日本胸部外科学会
		日本乳癌学会
		日本呼吸器内視鏡学会
		日本肺癌学会
		日本救急医学会
外科医師	松藤　祥平	日本外科学会　外科専門医
		日本消化器外科学会
		日本内視鏡外科学会

2．臨床業績

外科年間手術症例数（平成 30 年 1 月 1 日～12 月 31 日）

全手術件数	611 例
定期手術	495 例
緊急手術	116 例
食道手術	1 例
胃・十二指腸手術	43 例
胃全摘術	7(3)例
幽門側胃切除術（うち鏡視下）	22（22）例
噴門側胃切除（うち鏡視下）	4（　3）例
胃局所切除（うち鏡視下）	3（　3）例
胃空腸吻合術（うち鏡視下）	2（　2）例
穿孔性潰瘍手術（うち鏡視下）	5（　5）例
その他胃手術	0 例
小腸・虫垂手術	53 例
小腸切除術	13（　6）例
虫垂切除術（うち鏡視下）	38（38）例
その他小腸手術	2 例
結腸・直腸・肛門	98 例
結腸悪性腫瘍手術（うち鏡視下）	53（50）例
人工肛門・腸瘻造設・閉鎖	18 例
その他結腸手術（うち鏡視下）	5(1)例
直腸悪性腫瘍前方切除術（うち鏡視下）	13（13）例
直腸切断術（うち鏡視下）	8（　6）例

肝・胆・膵・脾	128 例
肝切除術亜区域以上（うち鏡視下）	6（ 1）例
肝部分切除術（うち鏡視下）	6（ 3）例
胆嚢摘出術（うち鏡視下）	105（93）例
膵頭十二指腸切除術	2 例
膵体尾部悪性腫瘍手術	2 例
その他肝胆膵手術	4 例
脾臓摘出（うち鏡視下）	3(1)例
乳腺手術	82 例
乳房切除	32 例
乳房温存	39 例
乳腺腫瘤摘出	9 例
その他乳腺手術	2 例
胸部手術	57 例
肺悪性腫瘍手術（うち鏡視下）	36（31）例
肺切除術　（うち鏡視下）	14（13）例
縦隔腫瘍手術　（うち鏡視下）	2（ 2）例
胸膜手術　（うち鏡視下）	5（ 5）例
甲状腺手術	11 例
その他	138 例
汎発性腹膜炎手術	9（ 4）例
癒着剥離術（うち鏡視下）	12(8)例
腹壁ヘルニア手術（うち鏡視下）	10(6)例
鼠径ヘルニア（うち鏡視下）	52(28)例
試験開腹術（うち鏡視下）	3(3)例
その他	52 例
鏡視下手術総計	350 例

3．研究業績（平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日）

【学会発表】

1、田渕正延、池田翔太、酒井　正、宮原正晴、明石道昭：悪性リンパ腫に合併した乳癌の２例　第 26 回日本乳癌学会総会　2018.5.16-18　京都

2、池田翔太、梶原脩平、森藤良浩、神谷尚彦、酒井正、黒木英男、田渕正延、井久保丹、鮫島隆一郎、湯ノ谷誠二：当院における閉塞性大腸癌に対する bridging to surgery としてのステント留置の治療成績　第 73 回日本消化器外科学会総会　2018.7.11-13　鹿児島

３、梶原脩平、酒井正、内川和也、森藤良浩、黒木英男、井久保丹、鮫島隆一郎、田渕正延、湯ノ谷誠二：直腸癌に合併した下腹神経由来と考えられる後腹膜神経鞘腫の一例　第73回日本消化器外科学会総会　2018.7.11-13　鹿児島

４、神谷尚彦：膵切除について　第39回佐賀外科治療フォーラム　2018.7.21　佐賀

５、森藤良浩、黒木英男、松藤祥平、古賀浩木、神谷尚彦、酒井正、小島勝雄、鮫島隆一郎、井久保丹、田渕正延、湯ノ谷誠二：早期に手術を行い良好に経過した特発性食道破裂の一例（食道ビデオ）　第51回日本胸部外科学会九州地方総会　2018.8.23-24　鹿児島

６、Kojima K、Yano M、Okubo K : Examination of the Intersegmental Isolation Method in the Segmental Resection Considering Respiratory Function Preservation　19th World conference on Lung Cancer　2018.9.25　Toronto

７、分島　良、栗原泰幸、小島勝雄：下葉切除後ARDSの治療経過で発症した中葉気管支瘻に対する治療戦略　第71回日本胸部外科学会定期学術集会　2018.10.3-6　東京

８、栗原泰幸、髙﨑千尋、中島康裕、瀬戸克年、小島勝雄：小型肺癌の術前FDG-PET検査SUVmax値と臨床病理学的特徴との関連　第71回日本胸部外科学会定期学術集会　2018.10.3-6　東京

９、松藤祥平、井久保丹、鮫島隆一郎、田渕正延、湯ノ谷誠二：腹腔鏡下膀胱全摘後、経腹的尿管皮膚瘻を巻き込んだイレウスの１例　第80回日本臨床外科学会総会　2018.11.22-24　東京

10、古賀浩木、酒井正、松藤祥平、森藤良浩、神谷尚彦、鮫島隆一郎、湯ノ谷誠二：術前に進展範囲の評価が困難であり、術中迅速病理診断にて結果的に胃全摘を要したType4胃癌の一例　第31回日本内視鏡外科学会　2018.12.6-8 福岡

11、古賀浩木、神谷尚彦、松藤祥平、森藤良浩、酒井正、井久保丹、鮫島隆一郎、田渕正延、湯ノ谷誠二 : 肝原発神経内分泌癌の一例　第40回九州肝臓外科研究会　2019.1.26 福岡

12、森藤良浩、小島勝雄、加藤雅人、栗原有紀、井上周、梅口仁美：局所進行多形癌に対して内科的治療が奏効し、サルベージ手術を施行し得た一例　第59回日本肺癌学会九州支部学術集会　2019.2.22-23　佐賀

13、梅口仁美、栗原有紀、井上周、森藤良浩、小島勝雄：肺多形癌11例の治療経験　第59回日本肺癌学会九州支部学術集会　2019.2.22-23　佐賀

14、栗原有紀、井上周、梅口仁美、森藤良浩、小島勝雄：気管支内腔を鋳型に増大するという稀な進展形式を示した小細胞癌の一例　第59回日本肺癌学会九州支部学術集会　2019.2. 22-23　佐賀

15、小島勝雄、森藤良浩、加藤雅人、栗原有紀、井上周、梅口仁美：肺動脈本幹への広範な浸潤を伴う左上葉肺門部肺癌に対し，自己心膜パッチによる肺動脈形成を伴う左肺上葉切除を施行した１例　第59回日本肺癌学会九州支部学術集会　2019.2.22-23　佐賀

16、Shota Ikeda,Ryuichiro Samejima,Seiji Yunotani、Michiaki Akashi: A case of primary adenosquamous cell carcinoma of the stmach 第 91 回日本胃癌学会総会 2019.2.27-3.1　沼津

【諸学会座長・司会等】

1、座長　神谷尚彦：一般演題　第 25 回佐賀 NST 研究会　2018.6.16　佐賀

2、審査員　湯ノ谷誠二 : Case Report Award　食道　第 51 回日本胸部外科学会九州地方総会　2018．8.23～24　鹿児島（鹿児島市勤労者交流センター）

3、ファシリテーター　湯ノ谷誠二　平成 30 年度佐賀県緩和ケア研修会　2019.10.20　佐賀大学付属病院

4、司会　鮫島隆一郎 :「もっと知りたい！唐津で受けられる最新のがん診療 part2」第 9 回唐津赤十字病院市民公開講座 2018.11.11　唐津赤十字病院佐野講堂

5、座長　湯ノ谷誠二 :「もう一度、見直してみようオピオイドの使い方～新規参入オピオイドも含めて、薬剤の特性を生かした使い方～」河畔病院　緩和ケア科　部長　前里喜一先生　がん患者トータルケアセミナー　2018.11.26　唐津シーサイドホテル

6、座長　小島勝雄：症例 4　第 59 回日本肺癌学会九州支部学術集会　2019.2.23　佐賀

【講演・講義】

1、「緩和ケア研修会開催にあたって」湯ノ谷誠二　唐津赤十字病院緩和ケア研修会（企画責任者、ファシリテーター）2018.8.25-26

2、「もっと知りたい！唐津で受けられる最新のがん診療 part2　肺がんについて」小島勝雄　第 9 回唐津赤十字病院市民公開講座 2018.11.11　唐津赤十字病院佐野講堂

3、「もっと知りたい！唐津で受けられる最新のがん診療 part2　膵がんについて」神谷尚彦　第 9 回唐津赤十字病院市民公開講座 2018.11.11　唐津赤十字病院佐野講堂

4、「グループワーク 1」日本赤十字社第 4 ブロック原子力災害対応基礎研修会　2918.12.1　長浜

5、「e-learning の振り返り　呼吸困難　消火器症状」湯ノ谷誠二　嬉野医療センター緩和ケア研修会　2019.1.26　嬉野（嬉野医療センター）

6、「原発性肺癌に対する区域切除～解剖学的区域切除へのこだわり」(座長によるミニレクチャー)　小島勝雄　第 20 回福岡呼吸器外科手術セミナー　2019.3.1　福岡

【院内講演・講義】

1、「NST とは」　神谷尚彦　平成 30 年度第 1 回 NST 勉強会　2018.7.10

2、「呼吸器疾患の外科治療」　小島勝雄　唐津赤十字病院症例検討会ミニレクチャー　2019.3.26

【院内講演座長・司会等】

１、司会　湯ノ谷誠二：「MRI の医療安全～事故を起こさないために～」放射線技術課　磁気共鳴専門技術者　立川圭彦　先生「放射線の木曽と防護」（原子力災害拠点病院研修）放射線技術課課長　坂井征一郎　先生　平成 30 年度第 1 回医療安全管理研修会 2018.6.29

２、司会　湯ノ谷誠二：「医療の質の確保、医療事故の原因分析と再発防止について」九州大学病院　医療安全管理部、公益財団法人日本医療機能評価機構　後　信　先生　平成 30 年度第 2 回医療安全管理研修会　2018.11.14

３、座長　湯ノ谷誠二：「保険診療について～保険診療に係る法律と保険診療のルール～」is-mix(アイズミック)医療コンサルタント事務所代表　泉　久朗　先生　平成 30 年第 2 回保険診療に関する講習会　2018.12.18

４．この１年の歩み

【人事異動】

・平成 30 年 4 月 1 日赴任
　小島勝雄：武蔵野赤十字病院呼吸器外科より
　古賀浩木：白石共立病院外科より
　松藤祥平：佐賀大学医学部一般・消化器外科より
・平成 31 年 3 月 31 日辞任
　田渕正延：当院乳腺外科顧問（非常勤）へ

【教育】

・臨床研修 2 名（1 年次）
　岸本　晏：平成 30 年 7 月 1 日～平成 30 年 7 月 31 日（指導医　古賀浩木）
　木村萌絵：平成 30 年 12 月 1 日～平成 30 年 12 月 31 日（指導医　古賀浩木）
・佐賀大学医学部医学科 5 年次臨床実習 28 名　学生担当：古賀浩木

消化器・一般外科においては、日本内視鏡外科学会技術認定医の古賀浩木と 6 年目ながら単独で執刀ができる松藤祥平が赴任し、特に鏡視下手術が円滑に施行できた。武蔵野赤十字病院にて呼吸器外科部長を務めていた小島勝雄が呼吸器外科部長として赴任し呼吸外科・気管支鏡部門における臨床と教育の体制が整った。当院乳腺外科の確立に永年尽力した田渕正延乳腺外科部長が本年度末をもって定年退職し、次年度から乳腺外科顧問（非常勤）に任命された。総手術症例数は前年より増加し 600 例を超えた。緊急手術、結腸・乳癌手術、胆嚢摘出術、鼠径ヘルニア手術が増加しており、例年同様に胃癌、特に胃全摘術が減少傾向であった。

整形外科

1.スタッフ紹介

院長	志田原　哲	昭和 51 年卒	日本整形外科学会認定整形外科専門医
部長	生田　光	平成元年卒	日本専門医機構認定整形外科専門医
			日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
			日本整形外科学会脊椎内視鏡下手術技術認定医
			日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医
副部長	北村　貴弘	平成 9 年卒	日本整形外科学会認定整形外科専門医
			日本整形外科学会認定リウマチ医
			日本整形外科学会認定スポーツ医
	増田　圭吾	平成 18 年卒	日本整形外科学会認定整形外科専門医
	堀田　謙介	平成 20 年卒	日本整形外科学会認定整形外科専門医
	矢野　良平	平成 23 年卒	日本整形外科学会認定整形外科専門医
	森　詩乃	平成 28 年卒	
リハビリテーション科部			
部長	仙波　英之	平成元年卒	日本専門医機構認定整形外科専門医

2.臨床実績

手術件数

総件数		731 件
大腿骨近位部骨折		129 件
四肢の骨折・脱臼		173 件
人工関節置換術	股関節	23 件
	膝関節	42 件
関節鏡視下手術	肩関節	18 件
	膝関節	25 件
脊椎手術		127 件
	内視鏡下手術	46 件

3.研究業績

学会発表

1. 生田　光：腰部脊柱管狭窄症に対する除圧術後に改善する腰痛に関連する術前因子 第 47 回日本脊椎脊髄病学会 2018 年 4 月 12 日-15 日（神戸）
2. Ono G：The volumetric change of graft bone for transforaminal lumbar interbody fusion with time. EFORT2018 2018 年 5 月 30 日-6 月 1 日（Barcelona, Spain）
3. Harada T：Predictors of low back pain relief after decompression alone in patients with LSS and clinically significant preoperative low back pain. EFORT2018 2018 年 5 月 30 日-6 月 1 日（Barcelona, Spain）
4. Ikuta K：Minimum 5-year results of microendoscopic laminotomy for lumbar spinal stenosis associated with grade I degenerative spondylolisthesis. EANS2018 2018 年 10 月 21 日-25 日（Brussels, Belgium）
5. Hotta K：Spinal subdural hematoma co-existing with cranial subdural hematoma. EANS2018 2018 年 10 月 21 日-25 日（Brussels, Belgium）
6. 森　詩乃：頚椎椎弓形成術後の隣接椎間障害の再手術症例の経験 第 136 回西日本整形・災害外科学会 2018 年 11 月 23 日-24 日（長崎）
7. 堀田謙介：脆弱性骨盤骨折に対して早期に経皮的骨接合術を行った胃癌患者の 1 例 第 136 回西日本整形・災害外科学会 2018 年 11 月 23 日-24 日（長崎）
8. 梅木　駿：橈骨遠位端骨折に合併した尺骨遠位端骨折における治療成績 第 136 回西日本整形・災害外科学会 2018 年 11 月 23 日-24 日（長崎）
9. 増田圭吾：遠位橈尺関節の変形により生じた示指深指屈筋腱皮下断裂の 1 例 第 136 回西日本整形・災害外科学会 2018 年 11 月 23 日-24 日（長崎）
10. 矢野良平：母指 CM 関節脱臼を伴った大菱形骨粉砕骨折の 1 例　第 136 回西日本整形・災害外科学会 2018 年 11 月 23 日-24 日（長崎）

研究会開催（代表幹事）

1. 佐賀県骨折治療研究会 2018 年 6 月 23 日（唐津市）
2. 第 4 回唐津整形外科医会学術講演会 2018 年 6 月 14 日（唐津市）
3. 第 5 回唐津整形外科医会学術講演会 2019 年 1 月 15 日（唐津市）

論文

1. Ikuta K, et al : Minimally invasive transtubular endoscopic decompression for the L5 radiculopathy induced by lumbosacral extraforaminal lesions. Asian Spine J 2018;12(2):246-255.
2. 堀田謙介, 他 : 肘 terrible triad injury の術後成績 骨折　2018;40(3).

4.この１年の歩み

4 月 1 日より九州大学整形外科教室より矢野良平先生、森詩乃先生が赴任されて新たな 1 年がスタートしました。近年、整形外科の手術件数は右肩上がりで増加してきましたが、今年度は 731 件と前年度からの微減となりました。それにも関わらず、相も変わらず多忙な毎日ですが、スタッフ一同、より良い医療を提供するために日々精進しております。佐賀県北部地区の基幹病院の整形外科として地域医療に貢献できるよう、今後もスタッフ一同、頑張っていきたいと考えています。

脳神経外科

１．スタッフ紹介

部長　　鈴山堅志
副部長　岡本浩昌
医師　　正島弘隆（H29.10.1~H30.9.30）　中城博子（H30.10.1～）
医師　　江橋諒（H30.4.1~H30.9.30）　桃崎明彦（H30.10.1～H31.3.31）

２．臨床業績

入院患者数	542 名
手術件数	148 件
動脈瘤クリッピング術	16 件
動脈瘤塞栓術	12 件
その他の血管内治療	3 件
腫瘍摘出術	5 件
腫瘍生検	2 件
頚動脈内膜剥離術	1 件
頚動脈ステント	13 件
開頭血腫除去術	10 件（内視鏡下 4 例）
水頭症手術	9 件（内視鏡下 1 件）
慢性硬膜下血腫	37 件
血栓回収療法	21 例
その他	19 件

３．研究業績

慢性硬膜下血腫との鑑別が困難であった硬膜下膿瘍の 1 例
正島弘隆　劉軒　岡本浩昌　鈴山堅志
日本神経外傷学会

大理石病に伴う両側内頚動脈狭窄症の 1 例
江橋諒　岡本浩昌　正島弘隆　鈴山堅志
佐賀脳神経外科懇話会

アクセス不良例における再治療 CAS で頸動脈直接穿刺を要した 1 例
江橋諒　鈴山堅志　緒方敦之　正島弘隆　岡本浩昌
BSNET 2018

Rt-PA 投与後に急激な視力障害をきたした 1 例
正島弘隆　岡本浩昌　江橋諒　鈴山堅志
第 77 回日本脳神経外科学会総会

破裂椎骨動脈解離塞栓術後に生じた Opalski 症候群の 1 例
鈴山堅志　桃崎明彦　中城博子　岡本浩昌
佐賀脳神経血管内治療懇話会

急性期脳梗塞との鑑別に苦慮した高血糖に伴う後頭葉てんかんの 1 例
正島弘隆　岡本浩昌　江橋諒　鈴山堅志　阿部竜也
Stroke 2019

４．この１年のあゆみ

脳卒中や頭部外傷などの救急疾患が診療の中心となっておりますことは例年と比較し変化ありません。特に虚血性脳卒中に対する血管内治療（血栓回収療法、頚動脈ステント等）で症例数が増加してきております。まだまだ脳卒中において超急性期受診がなされない症例が数多くあることは大きな課題であり、今後も積極的に情報を発信し治療成績の向上に努めることが重要であろうと考えています。また脳腫瘍手術において 5-ALA による術中蛍光診断が導入され腫瘍の切除における安全性・確実性が向上いたしました。脳腫瘍においても今後更に治療を積極的に展開して参ります。

皮膚科

１．スタッフ紹介（2019 年 3 月 31 日現在）

副部長	井上　寛子	2009 年卒	日本皮膚科学会
			西日本皮膚科学会
			日本乾癬学会
			日本皮膚悪性腫瘍学会
	仲本すみれ	2015 年卒	日本皮膚科学会
			西日本皮膚科学会

２．業務内容

月・火・木・金曜日：午前外来、午後病棟患者処置など
水曜日：手術、ピーリングなど

３．業績

＜症例発表＞

①　V.A.C.ULTA®を使用した 3 例

仲本すみれ[1]、井上寛子[1]、劉　軒[2]、竹之下博正[3]、西平智和[4]、古江増隆[5]
（1．唐津赤十字病院、2．同脳神経外科、3．同糖尿病内科、4．同形成外科、5．九州大）
日本皮膚科学会　第 83 回佐賀地方会

②　DPP-4 阻害薬内服により水疱類天疱瘡を発症した 1 例

仲本すみれ[1]、井上寛子[1]、竹之下博正[2]、夏秋まき子[3]、古江増隆[4]
（1．唐津赤十字病院、2．同糖尿病内科、3．夏秋皮フ科クリニック、4．九州大）
日本皮膚科学会　第 387 回福岡地方会

４．この１年の歩み

今年度も引き続き井上、仲本が担当しました。

外来診療は月、火、木、金曜日の週 4 日午前の外来診療を継続しました。水曜日にはメディカルピーリングを新規導入し、皮膚腫瘍などの手術も行っています。

近隣地域において皮膚科医が常勤の総合病院で入院可能な施設は当院のみですので、熱傷や皮膚腫瘍、その他入院加療が必要な皮膚疾患の患者さんを積極的に受け入れ、地域から頼りにされる皮膚科であり続けるよう日々診療に勤しみたいと思います。また、これからも佐賀大学病院をはじめ、高次医療機関と連携して、治療を行って参ります。

泌尿器科

1.スタッフ紹介（平成 31 年 3 月 31 日現在）

部長　　明利　浩行　平成 2 年卒　　日本泌尿器学会専門医

副部長　佐藤　勇司　平成 8 年卒　　日本泌尿器学会専門医・指導医
日本泌尿器内視鏡学会　腹腔鏡技術認定
日本内視鏡外科学会　腹腔鏡技術認定
日本がん治療認定医

2.臨床業績（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

手術症例内訳

	術式	件数
悪性腫瘍	膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術・その他のもの）	30
	精巣悪性腫瘍手術	1
	腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術	21
	陰茎悪性手術	1
良性腫瘍	腹腔鏡下副腎摘出術	1
	腹腔鏡下腎摘出術	2
	腹腔鏡下腎部分切除術	2
	腹腔鏡下尿膜管摘出術	3
	腹腔鏡下停留精巣手術	1
	経尿道的前立腺切除術（前立腺肥大症）	2
結石	経尿道的尿路結石除去術（その他のもの）	10
	経尿道的尿路結石除去術（レーザーによるもの）	18
	体外衝撃波腎・尿管結石破砕術（ESWL）	10
	膀胱結石摘出術(経尿道的手術)	3
	経皮的尿路結石除去術	7
その他	経尿道的電気凝固術	3
	経尿道的腎盂尿管凝固止血術	3
	経皮的腎（腎盂）瘻造設術	7
	経尿道的尿管ステント留置術	103
	経尿道的尿管狭窄拡張術	1

	術式	件数
	回腸導管造設術	1
	膀胱瘻造設術	6
	尿道狭窄内視鏡手術	5
	前立腺全摘術	1
	膀胱部分切除術	1
	前立腺生検	62
合　　計		311

3．研究業績

【学会発表】

① 腎盂破裂の 2 例

明利浩行、佐藤勇司、西村和重

第 77 回佐賀県泌尿器科懇話会　2018.5.26

② 当院における免疫チェックポイント阻害剤使用の 3 症例の短期成績

佐藤勇司、明利浩行

日本泌尿器科学会　第 84 回　佐賀地方会　2018.9.1

③ 腎出血の 3 例

明利浩行、佐藤勇司、西村和重

第 78 回佐賀県泌尿器科懇話会　2018.10.27

④ 5 年間の TUL 成績と術後合併症の検討

佐藤勇司、明利浩行、藤田亮

第 32 回日本泌尿器内視鏡学会　2018.11.29

⑤ 中規模病院における腹腔鏡手術の導入と成績

佐藤勇司、明利浩行、藤田亮

第 32 回日本泌尿器内視鏡学会　2018.11.29

4.この一年の歩み

平成 30 年度も引き続き泌尿器科は常勤医師 2 名で診療を行いました。佐賀県北部地区の地域医療支援病院として、尿路性器悪性腫瘍、前立腺肥大症、尿路結石、感染症を主に治療しております。昨年同様に結石の治療では、レーザーを用いた内視鏡手術を行っております。また、平成 30 年度より、腎細胞癌、腎盂尿管癌、副腎腫瘍、尿膜管遺残などの疾患に対し、泌尿器腹腔鏡手術を開始しました。平成 30 年度の年間手術総数も増加しております。今後も、地域連携医療機関のニーズの期待に応えられるよう診療を行う所存です。

産婦人科

1. スタッフ紹介

部長　佐護　直人（平成 28 年 4 月 1 日～）
医師　栗原　麻希子（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）
　　大隈　良一（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

2. 臨床業績

入院患者数：405 人
分娩件数：169 件（生産：158 件、経腟：104 件、帝切：65 件、帝切率：38.4%）
手術件数：230 件（予定 173 件：、緊急：57 件）
　　帝王切開術：65 件（予定：39 件、緊急：25 件）
　　子宮全摘術：44 件
　　腹腔鏡手術：27 件（異所性妊娠：6 件、卵巣腫瘍：21 件、子宮摘出：0 件）
　　子宮頚部円錐切除術：27 件

3. 研究業績

学　会：平成 30 年 5 月 13 日　日本産科婦人科学会　第 70 回　学術講演会
　　「婦人科悪性腫瘍患者に対する治療前血栓スクリーニングについての検討」
　　栗原　麻希子
　　平成 30 年 12 月 8 日　日本産婦人科学会　第 219 回　学術研修会
　　「卵巣粘液性腺腫術後に腹膜播種を来した一例」　栗原　麻希子
講　演：なし
論　文：なし
研究会：唐津産婦人科医研修会　毎月第 4 火曜日開催（症例報告等）　幹事　佐護直人
教　育：唐津看護専門学校　看護高等課程　母性看護Ⅱ　佐護直人
　　平成 30 年 11 月 21 日～12 月 19 日（5 コマ）

4. この一年の歩み

平成 30 年度の産婦人科は、産科領域においては、分娩件数は対前年比 18 件増(+12%)でしたが、帝切率は近年の約 50%、前年の 46%から 38%と低下が持続しております。帝切総数は横ばいで、経腟分娩数の増加によります。これは、一昨年度より里帰りを含めた正常妊娠症例の受け入れを再開したことによる自然分娩症例の増加が主因と思われます。婦人科領域におきましては、子宮頚部の異形成および上皮内癌に対す子宮頸部の円錐切除術が、前年同数の 27 例でした。腹腔鏡下手術は 27 例でした。良性卵巣腫瘍（術前診断）が 21 例で、異所性妊娠は半減の 6 例でした。今後とも適応疾患と実施術式の拡大が目標です。

眼科

1.スタッフ紹介

医師　木村　篤仁　　昭和 58 年卒（平成 31 年 3 月に退職）
　　伊崎　亮介　　平成 25 年卒（平成 30 年 3 月に異動、退職）
　　緒方　正虎　　平成 14 年卒（平成 30 年 4 月に赴任）
　　森　貴之　　平成 26 年卒（平成 31 年 3 月に異動、退職）
ORT 視機能訓練士
　　松尾　由貴
　　増田　佳奈

2.平成 30 年度の流れ

3 月 31 日にて伊崎亮介先生が退職、4 月 1 日より福岡大学眼科医局より後任として緒方正虎が赴任いたしました。木村と緒方、森の 3 人医師体制で動く予定でした。しかし健康上の理由から木村医師が徐々に外来、手術を担当することが難しくなり平成 31 年 1 月頃からほとんど 2 人医師体制となりました。昨年の木村医師不在時に始まった福岡大学病院からの木曜外来ヘルプのおかげで、外来の負担を軽減することができました。以上の事があり、マンパワーの都合上、外来・入院・手術等の症例数が減少する事となりました。

手術症例等は、硝子体術者である木村医師の不在で硝子体関連手術は行うことができないため白内障手術が中心となりました。地域性のためか遠視眼で浅前房の方が多く、緑内障発作を起こした、もしくは起こしそうな症例が度々ありました。その対処として白内障手術を行うことがありました。また偽落屑症候群に伴う散瞳不良やチン氏帯脆弱などに伴う難症例も多いと感じました。一般手術としては、硝子体腔注射抗 VEGF 治療が多く、糖尿病に関する黄斑浮腫に対する例、網膜静脈分枝閉塞に関するもの、網膜中心静脈閉塞症に関するもの、加齢黄斑変性に伴うものとなっていて糖尿病に関するものが多く占めていました。レーザー治療に関しては、糖尿病黄斑症に対しての抗 VEGF 治療、ケナコルトテノン嚢下注射等のオプションが出来た為、以前よりレーザー治療の頻度が減った様に思えます。後発白内障後嚢切開に関しては、眼内レンズの進歩から最近の症例に関しては行う必要がなく、必要とする症例としては過去のものとなっています。以上が臨床面での主な流れ・傾向です。

人事面では、伊崎医師の退職後、木村、緒方、森の 3 名にてこの年を過ごしておりましたが、木村医師の健康面のトラブルから徐々にマンパワー的に余裕のない状況となり、研究・研修等は手が回らない一年となりました。

この年は、木村医師が現場復帰されましたが、完全な復調といかなかったことから流動的な一年でした。視機能訓練士 ORT、クラークの大きな異動はありませんでしたが、熟練看護スタッフの退職、新任看護スタッフの異動がありました。外来、手術室、病棟スタッフなどの多くの方々のサポートがあり、大きなトラブルなく過ごす事ができた一年かと思います。

平成 31 年 11 月 13 日

唐津赤十字病院　眼科　副部長　　緒方　正虎

放射線科

１．放射線科スタッフ紹介

部長　　眞武　邦茂　　平成 6 年卒　日本医学放射線学会・診断専門医　指導医
日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医
日本脈管学会　専門医
検診マンモグラフィ読影　認定医
腹部大動脈ステントグラフト　実施医

副部長　高橋　行彦　　平成 14 年卒　日本医学放射線学会・診断専門医　指導医
日本消化器内視鏡学会

岩政　理花　　平成 27 年卒　日本医学放射線学会

２．臨床業績

ＣＴ：13791 件、　ＭＲＩ：5844 件、　ＲＩ：447 件
血管造影：73 件、CT/US ガイド下生検：24 件、放射線治療：167 件、消化管検査：1654 件
マンモグラフィ　1028 件

３．研究業績

学会・研究会発表

1）第 269 回唐津東松浦消化器研究会　平成 30 年 7 月 17 日（火）唐津市
胃軸捻転症の 1 例
唐津赤十字病院　放射線科　岩政　理花

2）第 271 回唐津東松浦消化器研究会　平成 30 年 11 月 20 日（火）唐津市
下血で発症し、IVR 後に待機的手術を行った小腸 AVM の 1 例
唐津赤十字病院　放射線科　岩政　理花

3）第 271 回唐津東松浦消化器研究会　平成 30 年 11 月 20 日（火）唐津市
ミニレクチャー　　『DWIBS(体幹部拡散強調画像)の定量化の試みについて』
唐津赤十字病院　放射線科　　眞武　邦茂
放射線部　　立川　圭彦

4）第 33 回　福岡ＩＶＲカンファレンス 平成 30 年 5 月 25 日　福岡市
「バルーンアシスト TACE にて肝動脈の狭窄を生じた 1 例」
唐津赤十字病院　放射線科　眞武邦茂、高橋行彦、岩政理花

5）第 34 回　福岡ＩＶＲカンファレンス 平成 30 年 7 月 27 日　福岡市
「右腎 AVF に対し、エタノールでの TAE が奏功した 1 例」
唐津赤十字病院　放射線科　眞武邦茂、高橋行彦、岩政理花

6)第 37 回　福岡ＩＶＲカンファレンス 平成 31 年 1 月 25 日　福岡市
膵アーケード瘤に対し、TAEおよび直接穿刺にて止血した一例
唐津赤十字病院　放射線科　眞武邦茂　高橋行彦　岩政理花

7）第 187 回日本医学放射線学会九州地方会　平成 30 年 6 月 23、24 日　熊本市
神経線維腫症Ⅰ型患者に生じた十二指腸多発GISTの一例
唐津赤十字病院　　放射線科　　岩政　理花、眞武 邦茂、　高橋 行彦,
外科　神谷　尚彦
病理診断科　明石　道昭

8）第 188 回日本医学放射線学会九州地方会　平成 31 年 2 月 9,10 日　鹿児島市
経過が追えた薄壁空洞形成肺癌の一例
唐津赤十字病院　放射線科　岩政理花、眞武邦茂、高橋行彦
同　外科　小島勝雄、森藤良浩
同　病理診断科　明石道昭

論文
前村大将、眞武邦茂、高橋行彦、西村和重
鼠径ヘルニアとの鑑別を要した精索脂肪肉腫の一例
臨床放射線　63:1657-1660　平成 30 年 12 月

４．この１年の歩み

人事異動としては、福田医師から岩政医師に交代した。また、放射線治療医の常勤医として赴任していた大嶋かおりが異動となり、元の週3回の非常勤体制に戻った。

新病院への移転に伴い、320列CT、3T MRIを新たに購入し、CT、MRI各2台体制となったが、これらの利用率が高まり、検査件数も上昇傾向である。急患に対する迅速な検査の対応が可能となり、更に地域医療支援病院としての機器整備が充実したものになった。

麻酔科

1.スタッフ紹介

部長	白武　孝久	麻酔科指導医
		日本麻酔科学会会員
		日本麻酔科学会会員
医師	嘉手川　繁登	麻酔科認定医
		日本麻酔科学会会員
医師	林　文子	麻酔科認定医
		日本麻酔科学会会員　日本臨床麻酔学会会員
		日本ペインクリニック学会会員
医師	村山　和哉	平成 30 年 4 月から 9 月まで
		日本麻酔科学会会員
医師	郷原　的	平成 30 年 10 月から平成 31 年 3 月まで
		麻酔科認定医
		日本麻酔科学会会員　日本麻酔科学会会員
非常勤医師	今給黎　佑理	平成 30 年　4 月から 5 月まで
	三原　玲子	平成 30 年　4 月から平成 31 年 3 月まで
	岩下　耕平	平成 30 年　5 月
	安部　伸太郎	平成 30 年　5 月から平成 31 年 1 月まで
	河野　友美	平成 30 年　6 月から平成 30 年 9 月まで
	中森　絵里砂	平成 30 年　9 月から平成 30 年 12 月まで
	丸田　弦	平成 31 年　1 月から平成 30 年 12 月まで
	津田　利	平成 31 年　2 月
	瀬尾　大輔	平成 31 年　2 月から平成 31 年 3 月まで

2.臨床業績（平成 29 年度）

麻酔科担当症例総数	1693 例
全身麻酔	419 例
全身麻酔＋硬、脊、伝	1030 例
硬膜外麻酔	14 例
脊髄くも膜下麻酔	130 例
脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔	46 例
伝達麻酔	38 例
その他	10 例

３．研究業績

学会発表

九州麻酔科学会第 56 回大会　　沖縄コンベンションセンター

高度の換気障害と心不全を有する高齢者の人工骨頭置換術を神経ブロックで管理した症例

発表者　村山　和哉

福岡麻酔研究会　　福岡大学臨床講堂

後腹膜鏡下腎摘出術に対し腰方形筋ブロック併用全身麻酔を行った 5 症例の検討

発表者　嘉手川　繁登

症例報告

麻酔　第 67 巻第 5 号　　克誠堂出版

腹腔鏡下幽門側胃全摘術中の発症した両側気胸の 1 症例

検見﨑　裕

４．この一年の歩み

平成 30 年 3 月をもち、当院に 17 年間勤務された検見﨑裕先生が退職なされた。平成 30 年 4 月より福岡大学麻酔科から派遣医師 1 名を受け入れ常勤医師 4 名体制を維持した。

平成 30 年度の手術麻酔症例総数は 1693 例におよび、昨年度より 156 例増加した。各診療科の奮闘もあるが、整形外科、外科、産婦人科などの緊急手術の受け入れ増加が主な要因であり、新設の歯科口腔外科の貢献もあった。また内視鏡手術の適応増加に伴い手術時間の延長がもたらされ、慢性的な手術室内の人員不足、時間外勤務が強いられ、手術室運用の効率化が求められた。マンパワー不足の対策に、非常勤医師の派遣を前年度と同様に週 3 日（火、木、金）、午後より福岡大学麻酔科に依頼し、待機手術のスムーズな受け入れ、緊急手術への応対も支障なく行えるよう研鑽した。

救急科

1．スタッフ紹介

部長　　中島 厚士
副部長　藤田　亮
　　吉武　邦将

2. 臨床業績

来院時の年間重篤患者数（平成 30 年 1 月～30 年 12 月）

番号	疾病名	基準 （基準を満たすもののみ数えること）	患者数 （人）	退院・転院 （転棟を含む） （人）	死亡 （人）
1	病院外心停止	病院への搬送中に自己心拍が再開した患者及び外来で死亡を確認した患者を含む。	99	9	90
2	重症急性冠症候群	切迫心筋梗塞又は急性心筋梗塞と診断された患者若しくは緊急冠動脈カテーテルによる検査又は治療を行った患者	64	61	3
3	重症大動脈疾患	急性大動脈解離又は大動脈瘤破裂と診断された患者	17	16	1
4	重症脳血管障害	来院時 JCS100 以上であった患者、開頭術、血管内手術を施行された患者又は tPA 療法を施行された患者	91	75	16
5	重症外傷	Max AIS が 3 以上であった患者	219	209	10
		緊急手術が行われた患者	49	46	3
6	指肢切断（四肢もしくは指趾の切断）	四肢もしくは指趾の切断ないし不全切断と診断され、再接合術が実施された患者	0	0	0
7	重症熱傷	Artz の基準により重症とされた患者	1	1	0
8	重症急性中毒	来院時 JCS100 以上であった患者又は血液浄化法を施行された患者	9	8	1
9	重症消化管出血	緊急内視鏡による止血術を行った患者	52	48	4
10	敗血症	感染症によって重篤な臓器障害が引き起こされた患者	12	5	7

11	重症体温異常	熱中症又は偶発性低体温症で臓器不全を呈した患者	0	0	0
12	特殊感染症	ガス壊疽、壊死性筋膜炎、破傷風等と診断された患者	0	0	0
13	重症呼吸不全	呼吸不全により、人工呼吸器を使用した患者（1から１１までを除く。）	26	17	9
14	重症急性心不全	急性心不全により、人工呼吸器を使用した患者又は Swan-Ganz カテーテル、PCPS 若しくは IABP を使用した患者（1から１１までを除く。）	20	19	1
15	重症出血性ショック	24 時間以内に 10 単位以上の輸血が必要であった患者（1から１１までを除く。）	1	1	0
16	重症意識障害	来院時 JCS100 以上の状態が 24 時間以上持続した患者（1から１１までを除く。）	1	0	1
17	重篤な肝不全	肝不全により、血漿交換又は血液浄化療法を施行された患者（1から１１までを除く。）	0	0	0
18	重篤な急性腎不全	急性腎不全により、血液浄化療法を施行された患者（1から１１までを除く。）	1	1	0
19	その他の重症病態	重症膵炎、内分泌クリーゼ、溶血性尿毒症性症候群等に対して持続動注療法、血漿交換又は手術療法を施行された患者（1から１８までを除く。）	48	46	2
		合　計	716	563	153

3. 研究業績

【学会発表】

1）胸背部痛を主訴に受診し、診断に苦慮した破傷風の一例
　長家聡明
　第 21 回日本臨床救急医学会総会　（18 年 5 月　名古屋）

2）急激な循環変動とたこつぼ型心筋症を生じたふぐ毒の一例
　木村萌絵
　第 46 回日本救急医学会総会　（18 年 11 月　横浜）

3）当院における「精神疾患診療体制加算」対象症例の検討
　第 46 回日本救急医学会総会　（18 年 11 月　横浜）

【座長】

第 41 回佐賀救急医学会（18 年 9 月　佐賀）

【消防関係】

佐賀県 MC 作業部会

佐賀県 MC 協議会

救急救命士病院実習指導

救急救命士九州研修所学生実習指導

【ドクターヘリ】

佐賀県ドクターヘリ運航調整委員会

4. この 1 年の歩み

ありがたいことに現在は 3 人体制で業務を行っています。（いつ一人体制になっても不思議ではないのですが）Dr カー出動も数少ないながら時々あります。また、月数回 Dr ヘリ搭乗のため大学へ行き、顔の見える関係を構築しています。

病院全体で急患をみるという素晴らしい風土の中、皆様の邪魔をしないよう、これからもさらに一層診療に励んできたいと思います。

病理診断科

1. スタッフ紹介（平成 31 年 3 月 31 日現在）

病理診断科医師

常勤　　明石　道昭　日本病理学会専門医
日本細胞診学会専門医
死体解剖資格認定医

非常勤　甲斐　敬太　佐賀大学医学部附属病院病理部　准教授
日本病理学会専門医
日本細胞診学会専門医
死体解剖資格認定医

2. 臨床実績

（平成 30 年 1 月～12 月）

組織診断	2774 例
術中迅速診断	133 例
病理解剖	13 例

3. 研究業績

剖検所見会（平成 30 年 1 月～12 月に病理解剖した症例）

平成 30 年

3 月 19 日　進行前立腺癌、特発性腸管壊死、汎発性腹膜炎、イレウスに起因する誤嚥・窒息
4 月 16 日　非閉塞性腸管虚血、慢性閉塞性肺疾患・StageⅣ、前立腺癌
6 月 18 日　類上皮血管内皮腫、閉塞性肺炎、誤嚥性肺炎、拘束性換気障害
7 月 23 日　IPMN 由来浸潤癌、前立腺癌、膵 IPMA（分枝型・胃型）
10 月 22 日　びまん性肺胞障害、器質化肺炎、肺胞性肺炎、UIP 疑い、前立腺癌
11 月 12 日　急性くも膜下出血、浸潤性真菌性血管炎による右内頚動脈破裂、ATL
12 月 10 日　左肺小細胞癌、環軸椎周囲膿瘍、左腸腰筋膿瘍、限局性髄膜炎、細菌性心内膜炎

平成 31 年

1 月 21 日　びまん性肺出血、ARDS 増殖期、肺高血圧症（Grade2>3）、Eisenmenger 症候群、動脈管開存症、右心室肥大、13 トリソミー、肝細胞癌
2 月 18 日　UIP/IPF の急性増悪、右下葉肺癌、陳旧性胸膜炎、肺うっ血・水腫
3 月 18 日　右進行性肺癌、多臓器転移、両肺広範囲好中球浸潤、肺膿瘍、器質化肺炎
4 月 15 日　長期腹膜透析に伴う腹膜変化、右慢性胸膜炎、左肺 DAD・f-NSIP 疑い、慢性心膜炎
8 月 19 日　右下葉肺癌、多臓器転移、肺気腫、喫煙関連間質性肺炎、肺真菌症、MDS

外科病理カンファレンス（平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月）

平成 30 年

4 月 26 日　①進行胆嚢癌の 1 例
②特徴的な気管支内進展を示した肺小細胞癌

5 月 31 日　①広範囲浸潤胃癌の 1 例
②膵頭部と体部に別々に発生した IPMC の 1 例

6 月 28 日　①盲腸壁内粘液貯留による隆起を来した虫垂粘液嚢胞腺腫
②融合遺伝子肺癌にみられやすい組織パターンを呈した肺腺癌

7 月 26 日　①通常型腺癌と大細胞癌の多発肺癌の 1 例
②胃腺扁平上皮癌の 1 例

8 月 30 日　①小腸静脈出血の 1 例
②褐色細胞腫の再発・転移疑いの 1 例

9 月 27 日　①薄壁空洞形成肺癌の再発例
②回盲部を巻き込む粘液癌の 1 例

10 月 25 日　①肺過誤腫の 1 例
②出血性胃癌に対し動脈塞栓術後の 1 例

11 月 28 日　①全周性の平坦状隆起を呈した胆嚢癌

12 月 27 日　①化学療法後、切除を行った肺多形癌
②小腸憩室炎穿通の 1 例

平成 31 年

1 月 31 日　①肝原発 MALT リンパ腫の 1 例
②びまん浸潤型（4 型）胃癌の 1 例

2 月 28 日　①小腸潰瘍に胃粘膜化生を伴った 1 例
②肺葉内肺分画症の 1 例

3 月 28 日　①蛋白栓あるいは粘液塊を伴った IPMA
②アスペルギルス感染を伴う慢性肺炎に微小浸潤腺癌を認めた 1 症例

学会発表、その他

1．日本メディカルイラストレーション学会雑誌　第 1 号発行（編集）
明石道昭（平成 30 年 9 月）

2．第 3 回日本メディカルイラストレーション学会
学術集会（総合司会、座長、作品展示）
明石道昭（平成 30 年 12 月 2 日）

3．第 45 回日本マイクロサージャリー学会　学術集会（教育研修講演）
「外科医とメディカルイラストレーション」
明石道昭（平成 30 年 12 月 6 日）

4. この一年の歩み

新病院に移転後 4 年目となり、組織診、細胞診、術中迅速診断ともに標本数が増加した。平成 30 年 9 月には病院機能評価を受審し、課題と思われる点の指摘はなく良好な評価を得ることができた。平成 30 年当初から組織切片を使用した PD-L1 検査を開始し、12 月から MSI（マイクロサテライト不安定性）検査を開始した。

診断難解症例に対しては適時コンサルトを行い正確な診断に努めた。診断結果の見逃しを防止するために、注意喚起システムを継続して行っている。平成 30 年の病理解剖は 13 件と増加傾向にあり、引き続き医局の先生方に解剖の取得をお願いしていきたい。

形成外科

1. スタッフ紹介（H31.3.31 現在）

常勤　西平　智和　日本形成外科学会専門医、日本創傷外科学会専門医

2. 臨床業績（H30.4~H31.3）

総手術件数　211 件（外来手術　96 件　入院手術　115 件）

学会発表等

- TE 挿入術後の周囲液体貯留にて抜去に至ったが明確な感染等の原因がなかった症例の検討
  第 6 回日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会総会　2018/9/20-9/21
  大阪市
- 三次元画像解析による乳房マウンドの客観評価と整容的乳房再建術
  第 28 回日本シミュレーション外科学会　2018/11/11　東京都

3. この 1 年のあゆみ

当科は平成 29 年 7 月まで福岡大学形成外科からの非常勤医師による毎週水曜日午前中のみの診療でしたが、福岡大学病院形成外科より私が常勤医師として唐津赤十字病院へ赴任することとなり以降は常設の診療科として形成外科疾患全般の診療にあたっております。

常勤化に伴い従来大学病院形成外科での手術が必要と判断され紹介となっていた症例の大半が当院で手術可能となったことに加え、外来日帰りでの小手術に救急症例への手術も対応可能となったことで今年度の年間手術件数は 211 件と前年の 125 件より大幅に増加しております。平成 30 年度は顔面骨の骨折などの顔面外傷から多指症・多合趾症などの先天奇形の手術や皮膚良性・悪性腫瘍の切除・再建手術、瘢痕修正手術に糖尿病性足潰瘍の手術まで多彩な内容の手術を実施できました。また院内各科からの手術依頼や合同手術などにも術日や外来予定など調整して対応させていただき、乳腺外科との連携で行う乳房再建手術も数例実施させていただきました。

形成外科では体表面の形を中心に様々な疾患を扱っておりますので、お困りの症例などなんでもお気軽にご相談いただければと思います。次年度も引き続きよろしくお願い致します。

歯科口腔外科

1. スタッフ紹介（平成 30 年 4 月 1 日～）

部長　　林田　淳之介　歯学博士（九州大学歯学府）
日本口腔外科学会専門医
九州大学歯学部　顎口腔外科 共同研究員

非常勤：新井伸作、坂本泰基、鮒田亜美、鎮守晃（九大病院顎口腔外科）

2. 臨床業績（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

○外来新患数　　1267 名
（院外からの紹介 676 名、院内からの紹介 591 名）

院外からの紹介患者の内訳

・埋伏歯抜歯 264 例、全身疾患患者の抜歯 41 例、BP 関連抜歯 20 例、その他の抜歯 18 例
・顎関節症と脱臼 36 例
・口腔白板症 17 例、口腔扁平苔癬 17 例、口腔がん 17 例、舌痛症 26 例、その他の粘膜疾患 64 例
・顎骨嚢胞・腫瘍摘 54 例、骨隆起 8 例　他
・外傷治療 19 例、顎炎などの炎症 30 例、骨吸収抑制剤関連顎骨壊死 23 例　他

○入院患者数　　12 名

3．この一年の歩みと今後の展望

《診療内容・特徴》

歯科口腔外科は、地域の歯科医師会からのニーズに応えるかたちで、平成 30 年 4 月から新たに開設した科であります。その期待もあってか、同年 4 月から非常に多くの新患患者さんを毎月ご紹介頂くこととなった 1 年でありました。

なかでも親知らずの抜歯依頼が 264 名と非常に多く、次いで白板症や扁平苔癬といった口腔潜在的悪性疾患（口腔前がん病変）などの粘膜疾患の紹介患者が多かったです。また院内紹介患者は約 600 名で、そのうち 90%を超える方が周術期管理依頼でした。また、その患者さんの入院前後には、地域のかかりつけ歯科医院と連携して口腔ケアを実践したりと、病診連携が非常にうまくいきました。

一方、歯科口腔外科の入院症例は 12 名とまだまだ少ない状況でありますが、内容としては、嚢胞・良性腫瘍や外傷の全身麻酔下の手術、歯性感染症や全身疾患を有する患者の抜歯処置の入院加療を行いました。その中で、病棟看護師との連携もずいぶんと良好になってきたので、今後はもう少し症例が増加していくのではと考えています。

この１年間で最も苦労している症例は、顎骨壊死の患者さんです。全身状態が悪い方も多く、洗浄などの保存療法が奏功せずに悪化し、通院期間が長くなっていく症例も散見されました。さらに、超高齢化社会になって久しい今日では、骨吸収抑制剤の使用頻度が増加する一方なので、顎骨壊死の患者さんの増加が予想されます。次年度はもう少し積極的な治療を導入する予定です。

《対象疾患》

口腔とその周辺に症状を呈する全ての疾患を対象としています。ただし、重度の悪性疾患は近隣の大学病院へ紹介するかたちをとっております。

２．薬剤部

薬剤課

１．スタッフ紹介（平成 31 年 3 月 31 日現在）

薬剤部長　野田隆博【第 1 内科部長】

薬剤課長　岩田　和弥（平成 8 年九州大学卒）
日病薬病院薬学認定薬剤師、日本病院薬剤師会認定実務実習指導薬剤師
日本薬剤師研修ｾﾝﾀｰ認定薬剤師、日本薬剤師研修ｾﾝﾀｰ認定実務実習指導薬剤師
日本静脈経腸栄養学会 NST 専門薬剤師、日本ｱﾝﾁﾄﾞｰﾋﾟﾝｸﾞ機構ｽﾎﾟｰﾂﾌｧｰﾏｼｽﾄ

調剤係長　中村　栄子（平成 2 年福岡大学卒）
日病薬病院薬学認定薬剤師、日本病院薬剤師会認定実務実習指導薬剤師
日本薬剤師研修ｾﾝﾀｰ認定実務実習指導薬剤師、糖尿病薬物療法准認定薬剤師
介護支援専門員資格取得薬剤師、佐賀県肝炎ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ

製剤係長　青山　敦子（平成 6 年長崎大学卒）
日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師、日本静脈経腸栄養学会 NST 専門薬剤師
佐賀県肝炎ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ

薬剤部員　木下　智広（平成 19 年九州大学卒　平成 21 年同修士）
日病薬病院薬学認定薬剤師、がん薬物療法認定薬剤師
寺田　麻弥（平成 21 年九州保健福祉大学卒）
日本薬剤師研修ｾﾝﾀｰ認定実務実習指導薬剤師
宮﨑　裕士（平成 18 年京都薬科大学卒）
佐賀県肝炎ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ
坂本亜佐子（平成 18 年九州大学卒）
日病薬病院薬学認定薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師
横田　智也（平成 25 年広島国際大学卒）
日病薬病院薬学認定薬剤師、日本ｱﾝﾁﾄﾞｰﾋﾟﾝｸﾞ機構ｽﾎﾟｰﾂﾌｧｰﾏｼｽﾄ
光瀬佳奈子（平成 25 年長崎国際大学卒）
田渕　友梨（平成 25 年同志社女子大学卒）
日本病院薬剤師会認定薬剤師
柳原　佑美（平成 27 年同志社女子大学卒）
岩﨑　集平（平成 26 年長崎国際大学卒）
青木　理奈（平成 28 年長崎国際大学卒）
鵜池　美希（平成 28 年長崎大学卒）
多幾映里沙（平成 28 年福岡大学卒）
田口　陽平（平成 28 年第一薬科大学卒）
長橋　修平（平成 28 年長崎国際大学卒）

常勤嘱託事務員
川添　淳子　【薬剤部業務補助】
井本　鼓　【薬剤部業務補助】

2．臨床業績　（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

【処方箋枚数】

入　　院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
処　方　箋	5,510	5,916	5,852	5,577	6,088	5,759	5,620	5,912	5,350	6,027	5,391	5,982	68,984
注　射　箋	6,198	5,922	5,240	6,117	6,553	6,021	6,580	6,051	5,453	6,285	5,932	5,943	72,295
麻薬処方箋	179	106	198	111	145	129	158	154	161	150	107	139	1,737
麻薬注射箋	273	257	220	271	360	337	414	405	276	286	311	369	3,779

外　　来	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
処　方　箋	428	453	419	426	459	405	424	417	441	412	403	373	5,060
注　射　箋	1,274	1,483	1,345	1,568	1,651	1,488	2,189	1,796	1,500	1,509	1,398	1,431	18,632
院外処方箋	5,302	5,531	5,366	5,612	6,119	5,257	5,749	5,646	5,809	6,438	5,446	5,625	67,900
院外発行率	92.5%	92.4%	92.8%	92.9%	93.0%	92.8%	93.1%	93.1%	92.9%	94.0%	93.1%	93.8%	93.1%

【調剤技術基本料】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
入院件数	25	24	17	20	20	21	17	22	21	20	22	17	246
外来件数	39	36	31	39	31	26	32	44	63	47	38	34	460

【薬剤情報提供料】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
外来提供件数	45	42	35	46	37	34	38	44	60	54	42	28	505

【持参薬鑑別業務】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
薬剤鑑別依頼人数	367	423	374	448	422	371	436	417	362	454	380	388	4,842
薬剤鑑別依頼数	2,643	3,117	2,681	3,182	3,000	2,530	3,118	3,010	2,512	3,179	2,796	2,734	34,502

【調剤済薬剤支援業務】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
調剤支援実施人数	131	148	125	177	162	101	126	117	120	138	123	104	1,572

【無菌調製業務】

抗癌剤	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
入院調製本数	239	244	225	254	289	220	256	223	237	241	215	247	2,890
外来調製本数	367	467	422	397	440	377	435	391	377	343	353	368	4,737

ＴＰＮ製剤	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
入院調製本数	10	0	0	4	16	43	8	15	8	7	29	19	159
外来調製本数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

その他製剤	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
入院調製本数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外来調製本数	11	22	22	28	11	11	10	20	20	18	15	16	204

【薬剤管理指導業務】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
実施回数	707	682	750	760	854	762	780	775	714	697	735	759	8,975

３．研究業績

【学会発表】

１）持参薬の処方鑑査を用いた糖尿病治療薬適正使用の試み（第２報）
○中村　栄子
第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会　2018.5.25　東京

２）持参薬の処方鑑査を用いた糖尿病治療薬適正使用の試み
○中村　栄子
第７回日本くすりと糖尿病学会学術集会　2018.10.14　愛知

【研修会発表】

１）肺炎について～ガイドラインと当院での治療の実際～
○田渕　友梨
平成 30 年度佐賀県病院薬剤師会感染症研修会　2018.7.14　佐賀

２）急速に症状が悪化する肺がん患者にアファチニブを使用した症例
○鵜池　美希
平成 30 年度日赤薬剤師会九州ブロック薬剤師研修会　2018.7.21　福岡

３）糖尿病ケトアシドーシスを繰り返す患者への関与
○長橋　修平
平成 30 年度日赤薬剤師会九州ブロック薬剤師研修会　2018.7.21　福岡

４）BSC（バランスト・スコアカード）を作ってみよう
○岩田　和弥
平成 30 年度大分地区国立病院薬剤師会薬学研究会　2018.9.1　大分

５）TPN 無菌調製実技
○岩田　和弥
平成 30 年度 TPN 研修会　2018.11.25　唐津

６）日病薬病院薬学認定薬剤師制度について
○岩田　和弥
平成 30 年度佐賀県病院薬剤師会新採用薬剤師及び卒後教育研修会
2018.12.2　嬉野

７）チーム医療と薬剤師の関わり
○岩田　和弥
平成 30 年度佐賀県病院薬剤師会新採用薬剤師及び卒後教育研修会
2018.12.2　嬉野

８）持参薬の処方鑑査を用いた糖尿病治療薬適正使用の試み
○中村　栄子
第 52 回唐津糖尿病臨床カンファレンス　2019.2.26　唐津

９）薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 ～共有すべき事例～
○岩田　和弥
平成 30 年度調剤過誤防止研修会　2019.2.27　唐津

以上

４．この一年の歩み

この一年は下記の内容を中心に取り組み、特に病棟薬剤業務の充実に注力しました。

１）医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進
２）人材の育成・確保
３）病棟薬剤業務の充実

①チーム医療の充実に向けた取り組みに対し、専門の認定薬剤師取得とともに、チーム内における薬剤師存在意義の確立を求め、個人としての向上心を求めました。現在当院では、がん領域、緩和領域、糖尿病領域、栄養療法領域において認定薬剤師が活動しています。

②近年、専門・認定薬剤師の取得・継続が課題となっており、病棟薬剤業務を継続するためにも薬剤師を途切れることなく配置できる体制を整える必要があります。薬剤師の確保への取り組みとしては、薬学部生奨学金制度を平成 24 年度から開始しています。平成 31 年 3 月 31 日現在、3 名の薬学部生（就実大学 1 名、長崎国際大学 1 名、崇城大学 1 名）に奨学金を付与しています。

③平成 30 年度の薬剤部には 3 名の認定実務実習指導薬剤師が在籍しました。薬学部 5 年生に対する長期実務実習（2.5 ヶ月）については、平成 30 年度は 11 名（1 期 5 名、2 期 4 名、3 期 2 名）の学生を受け入れ、実習指導を行いました。

④平成 28 年 11 月から開始していた 8 病棟での薬剤師常駐制を、平成 29 年 6 月より 9 病棟での薬剤師常駐制へと業務拡大しました。これにより全病棟に薬剤師を配置することが出来ました。患者さんに安全かつ安心して薬物療法を受けてもらうために、入院中の服薬指導から退院時服薬指導まで、その内容の充実に努めてきました。退院時指導については、入院中の服用薬剤の確認並びに退院時処方との関連性について説明し、患者さんが居宅においても安心して薬物治療に臨めるように可能な限りの情報提供を行ってきました。

最後に、病院薬剤師は、患者さんだけでなく他の医療スタッフからも様々な期待をされています。その期待に応えるべく、今後も個々のさらなる資質向上を目指していきたいと考えています。

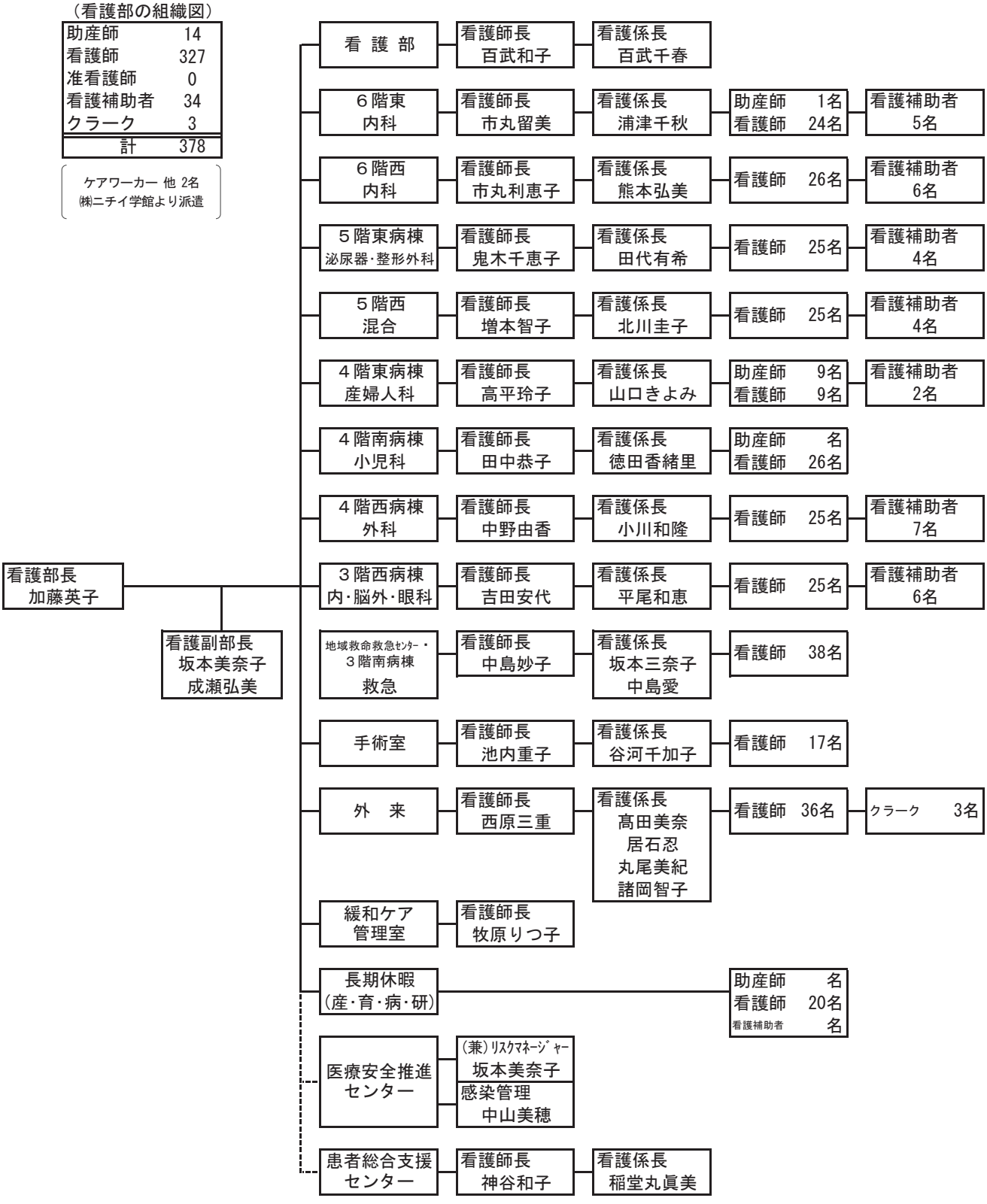
3．看護部

1．スタッフ紹介（平成30年 4月 1日現在）

（看護部の組織図）

助産師	14
看護師	327
准看護師	0
看護補助者	34
クラーク	3
計	378

ケアワーカー 他 2名
㈱ニチイ学館より派遣



2 院内委員会・委員名（看護部）

平成30年度

委員会名＼病棟		開催日	看護師長	係　長	6階東	6階西	5階東	5階西	4階東	4階南	4階西	3階西	3階南	手術室	外来
管理補佐		第2月曜 偶数月16時	吉田安代 ＊ 成瀬弘美	小川和隆	小﨑由美	岡本智史	脇山ゆかり	山口尚栄	滝元照子	濵地智子	朝長正子	伊藤良子	香田陽子	富永久美子	佐藤真美
教育	看護記録	第2火曜	＊ 中島妙子 鬼木千恵子	北川圭子	青木一也	田代萌	中島正重	大谷沙織	宗田美奈子	中嶋美咲	渕上典彦	重野佐代子	牧山三奈子	岩井絵美	仁部由美子
	臨地実習指導	第3火曜	＊ 増本智子	小川和隆	馬場智子	吉富みな美	吉田美帆子	寺岡貴子	松原聖子	井上友香	麻生淳子	中村奈保美			
	教育 （伝達研修）	第2水曜	＊ 市丸利恵子 田中恭子	坂本三奈子 谷河千加子 諸岡智子	真鍋香織	馬場綾子	岩野愛子	羽田恵美	吉田智代	峯ひとみ	牟田稚茶	小浦久美	青木翔子	上野愛	山口瑞貴
	看護研究P	第4水曜	＊ 田中恭子 成瀬弘美 鬼木千恵子	百武千春 髙田美奈 稲堂丸眞美											
	接遇	第3金曜	＊ 西原三重 牧原りつ子	徳田香緒里	波多江千晶	熊本美香	山崎萌子	古川統	久住呂慈	森路恵	諸隈静	伊藤良子	松尾真奈美	波田智香	米倉富美子
業務	感染対策	第1金曜	坂本美奈子	＊ 中山美穂 熊本弘美	伊藤奈津子	田崎里枝	原田久子	水野浩美	堀田恵里	井本弘江	小濱舞	山口尚子	藤岡薫	長﨑剛	小佐井麻美子
	褥瘡対策	第4火曜	＊ 百武和子 池内重子	平尾和恵	田中綾	大川内李佳	鳥羽貢祐	木下万希子	坂井由紀子	宮﨑富貴子	濱本優美	田中里穂	清水紀代美	堤絹枝	岩本恵美
	業務改善 （看護用具）	第1水曜	吉田安代 ＊ 百武和子	山口きよみ 丸尾美紀	井上朋香	山口尚子	松﨑美穂	弥永亜樹子	坂本錦	市丸美恵子	古賀征樹	稲葉明子	山﨑美弥	岩永紗希	白坂美鈴
その他	看護必要度	第4金曜	＊ 市丸留美 中野由香 成瀬弘美	中島愛	中島ゆかり	溝口玲奈	坂本朱美	米倉詩織	原田三保	宮﨑厚子	戸川久美子	松浦栄作	西方美帆		
	退院支援	第4月曜	＊ 神谷和子 西原三重	田代有希 浦津千秋	川口恵子	戸田美鈴	平山沙希	冨田龍之介	廣川晴香	濵本恵美	梅村奈々子	吉弘貴美子	陣内友子		佐々木瑞穂
	緩和ケア リンクナース	第3月曜	＊ 牧原りつ子	居石忍	松下紗季	吉田亜紀子	古賀悠記子	池田久美子	戀塚友深		楠元紗希				居石忍
	看護管理者 育成支援P	随時	＊ 池内重子 神谷和子 成瀬弘美												
	赤十字 看護教育P	第2月曜	＊ 高平玲子 増本智子	稲堂丸眞美 徳田香緒里 小川和隆					滝元照子						
	看護補助者 連絡会	第2金曜 （奇数月14時）	＊ 中島妙子 成瀬弘美	百武千春											
	夜勤検討/PNS プロジェクト	第1火曜 13:30	中島妙子 吉田安代 中野由香 高平玲子												

院内委員会・委員名（病院レベル）

平成30年度

	委員会名＼病棟	開催日	看護副部長 看護師長	係　長	6階東	6階西	5階東	5階西	4階東	4階南	4階西	3階西	3階南	手術室	外来
管理	診療材料審査委員会		加藤英子 中島妙子 池内重子												
	情報システム委員会	第3水曜	成瀬弘美 田中恭子												
	図書管理	必要時		髙田美奈											
	がん診療連携拠点病院運営	第3火曜日	神谷和子 牧原りつ子												
医療安全	リスクマネージメント	第2金曜	坂本美奈子		栗原千賀子	香月あやな	小柳奈美	室節彩香	山下陽子	山本理香	中嶌和美	冨田学	橋本哲平	青木傑	坂本麻衣子
	院内感染対策	第3火曜 毎週水曜ﾗｳﾝﾄﾞ	加藤英子 西原三重	中山美穂 熊本弘美									藤岡薫		
	褥瘡対策委員会	第4月曜 毎月曜ﾗｳﾝﾄﾞ	百武和子			大川内李佳							清水紀代美		
	診療録管理委員会	第3月曜日	増本智子	山口きよみ											
	衛生	第3水曜		中山美穂											
	輸血療法委員会	1/2月	市丸留美										山下真由美 熊本智加		
	がん化学療法レジメン委員会	第4金	市丸留美	丸尾美紀											藤田直子
業務	救急・ICU	第3金曜	中島妙子 西原三重										坂本聡		
	NST	第4火曜	吉田安代		江島沙織		高木杏	池田亜衣	木場順子	松尾瞳	林田ひとみ	岩﨑里恵	進藤靖子		
		毎水曜ﾗｳﾝﾄﾞ						池田亜衣				岩﨑里恵	進藤靖子		
	クリニカルパス	第2水曜	市丸利恵子	北川圭子					池邉美恵子			田中麻美			
	病床運営委員会	必要時	成瀬弘美 神谷和子		市丸留美								中島妙子		西原三重
	手術室運営	第2水曜	池内重子											谷河千加子	
	患者サービス	第3火曜	西原三重	徳田香緒里											
	広報	必要時		百武千春 小川和隆											
	DPCコーディング専門委員会	月1回		田代有希 平尾和恵											
	緩和ケアチーム	毎週火曜16時	牧原りつ子	居石忍	松下紗季	吉田亜紀子	古賀悠記子	池田久美子	戀塚友深		楠元紗希				
	DM委員会	第3水曜	吉田安代	諸岡智子	江島沙織										
	肝炎対策委員会	第3月曜		丸尾美紀		岡本智史			坂井由紀子	徳田香緒里		中村奈保美		谷河千加子	
	口腔ケアチームプロジェクト		増本智子 牧原りつ子								佐伯文子	岩﨑里恵	渡邊伸子		藤田直子

3. 研修業績（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

1）院内看護部研修

No.	日　時	テーマ・内容	講師・担当
1	4月9日	新規採用者看護部オリエンテーション	
2	4月10日～ 4月11日、 4月26日	新規採用者看護技術研修	
3	4月23日	第1回認定看護師会研修会 「口から食べる！～あなたの食事介助は大丈夫？～」	摂食・嚥下障害看護認定看護師 岩﨑里恵
4	5月2日	フィジカルアセスメント研修説明会	
5	5月7日	第2回認定看護師会研修会 「こんな時どうする？事例から学ぼう、放射線治療中のマーキングと皮膚ケア」	がん放射線療法看護認定看護師 佐藤真美
6	5月11日	新採用者1ヶ月研修会	
7	5月16日	新人支援スタッフ研修会Ⅰ	
8	5月23日	課題解決演習	
9	6月15日	新人3ヶ月研修会〈臨床研修のまとめ〉	
10	6月20日	看護倫理Ⅰ研修会	
11	6月21日	看護研究プロジェクト研修会【看護研究計画書作成について】	
12	6月22日	赤十字概論研修「救護員としての赤十字研修」	
13	6月30日	看護診断　NANDA-Ⅰ研修会 「事例から看護診断プロセスを学ぶ」	神奈川歯科大学短期大学看護学部 准教授　棚橋泰之先生
14	7月2日	第3回認定看護師会研修会 「新療養指導ツール　糖尿病療養指導カードシステム～糖尿病教育入院パスへの導入に向けて～	糖尿病看護認定看護師 坂本三奈子・諸岡智子
15	7月18日	伝達研修会Ⅰ	
16	7月19日	課題解決中間フォロー	
17	7月26日	コーチングと人材育成研修Ⅰ	
18	8月3日～ 8月5日	赤十字救急法研修	赤十字救急法指導員　市丸留美、 小川和隆、上瀧達也
19	8月8日	看護倫理Ⅱ研修会	
20	8月22日	急性期看護研修Ⅰ	
21	9月18日～ 10月9日	急性期看護研修Ⅱ	
22	9月26日	新採用者6か月研修「看取りのケア」	緩和ケア認定看護師　牧原りつ子

23	9月27日	コーチングと人材育成研修Ⅱ	
24	10月1日	第4回認定看護師会研修会「せん妄ケアについて学ぼう」	緩和ケア認定看護師　牧原りつ子
25	10月9日	第2回唐津赤十字病院ＮＳＴ勉強会 「嚥下評価法」「ナースの目線で考える栄養管理」	藤野結衣言語聴覚師 進藤靖子看護師、岩﨑里恵看護師
26	10月13日	NANDA-Ⅰ看護診断研修会 「事例から看護診断プロセスを学ぶ」	神奈川歯科大学短期大学看護学部 准教授　棚橋泰之先生
27	10月17日	看護倫理Ⅲ研修会	
28	10月25日	看護の統合と実践実習（聴講実習） 災害看護、感染管理についての講義	感染管理　中山美穂 災害看護　増本智子　徳田香緒里
29	11月5日	第5回認定看護師会研修会 平成30年度第1回唐津赤十字病院認定看護師公開講演会 「インフルエンザをひろげない～私たちにできること～」	感染管理認定看護師　西原三重
30	11月21日	新採用者8ヶ月研修	
31	11月28日	コーチングと人材育成研修Ⅲ	
32	12月3日	第6回認定看護師会研修会 「尿路感染防止のための対策～その尿道留置カテーテルは本当に必要ですか？～」	感染管理認定看護師　中山美穂
33	12月4日	看護研究プロジェクト研修会【看護研究計画書発表会】	
34	12月5日	看護倫理Ⅳ研修会	
35	12月19日	伝達研修会Ⅱ	
36	1月18日	院内看護研究発表会	
37	1月19日	ケーススタディ発表会	
38	1月19日	ＰＮＳ研修会「パートナーシップマインドについて考えよう！」	
39	1月28日	平成30年度第2回唐津赤十字病院認定看護師公開講演会 第7回認定看護師会研修会 「急変する可能性がある患者の特徴を知り急変対応へつなげよう」	救急看護認定看護師　坂本聡
40	2月16日	平成30年度看護部門年間活動目標評価会	
41	2月20日	伝達研修会Ⅲ	
42	2月27日	課題解決演習実践報告会（課題解決発表会）	
43	3月4日	第8回認定看護師会研修会 「ハイフローセラピーの基礎-指示されたら、あなたは対応できますか-」	集中ケア認定看護師　市丸利恵子
44	3月15日	新人12ヶ月研修	

2）院外短期研修

No.	日　時	名　称	参加者
1	4月28日、6月2日、9月29日	日本感染管理ベストプラクティス“ｓａｉｚｅｎ”研究会［JCHO 諫早総合病院］	中山美穂
2	5月9日	佐看協）看護師のクリニカルラダー	増本智子
3	5月16日	佐看協）感染対策の基礎編~知っている！分かっている！でも、出来ている？~	中山美、堀田恵、長﨑、井本弘
4	5月31日	病院機能評価　受審お悩み相談室［リファレンス駅東ビル］	成瀬弘美、増本智子
5	6月9日	佐看協）地域包括ケアにおける新しい連携の取り組み	神谷和子
6	6月12日	佐看協）がん化学療法を受ける患者の看護	浦川、梅村、古賀真
7	6月24日	18重症度、医療・看護必要度評価者　院内指導者研修［三宮研修センター］	市丸留美
8	6月28日	佐看協）基礎から学ぶフィジカルアセスメント	井本弘、原里、林田ひ、田中綾、林田茉、坂本美幸、池田久、米倉詩、大谷、手島、古賀悠、古賀理
9	6月30日	第3回糖尿病看護実践力開発セミナーin 佐賀［佐賀中部病院］	藤原リツ子
10	7月4日	赤十字施設看護管理者・教育者研修会［本社］	加藤英子
11	7月18日～7月20日	がん看護専門分野指導者研修　がん放射線療法看護コース［国立研究開発法人がん研究センター築地キャンパス］	居石忍
12	7月18日	パワーハラスメント対策支援セミナー［福岡県自治会館］	成瀬弘美
13	7月18日	佐看協）心電図Ⅰ~基礎編~	教育委員：水野浩美　井上由、諸隈、楠元、古賀真、藤原、永吉、西山
14	7月21日	ＰＦＭセミナー「高度急性期病院の院内運用の最適化に向けて～入院サポートセンター・手術室運用・入退院支援の事例から～」［トラストシティカンファレンス・丸の内］	加藤英子
15	7月27日	「第16回創傷セミナー」講演会［りふれ］	百武和子
16	7月31日	平成30年度　赤十字医療施設運営にかかる研修会［ベルサール御成門タワー］	加藤英子
17	8月5日	実習施設担当者研修会［まつら荘］	増本智、馬場智、吉富、寺岡、井上友
18	8月8日	佐看協）フィジカルアセスメント応用編~視て、聴いて、触れてみて~	倉光、原里、林田ひ、松浦、稲葉、多幾、古賀理、原郁、井本弘、野上、田代萌、進藤嘉
19	8月18日	第28回佐賀実践フットケア研究会実技研修会［㈱アステム佐賀支店］	藤原リツ子
20	8月23日	佐賀県医師会医療安全対策（院内感染防止対策）医療従事者研修会［佐賀市文化会館］	坂本美奈、西原、中山美
21	8月25日	佐賀県訪問看護サポートセンター研修	田中恭子

22	8月28日	佐看協）「看護補助者の活用推進のための看護管理者研修 改訂版2018」～ヘルスケア提供システムにおける連携強化を実現するために～	市丸留美、中野由香
23	8月29日	佐看協）心電図Ⅱ~不整脈編~	井上由、諸隈、楠元、古賀真、永吉、進藤嘉、西山、藤原
24	9月2日	赤十字健康生活支援講習指導員養成講習事前研修会［佐賀県支部］	鬼木千恵子
25	9月20日	佐看協）呼吸不全患者の病態に合わせた看護	西山友佳子
26	9月22日～9月23日	第6回佐賀がんリハビリテーション研修会［佐賀大学医学部附属病院］	岩野愛子
27	9月27日	佐看協）知っておきたい統計学の基礎	田中綾、林田茉依
28	10月8日、10月15日、10月26日	佐賀県看護職員認知症対応力向上研修	平尾和恵
29	10月7日～10月8日、10月14日～10月15日	赤十字健康生活支援講習指導員養成講習［佐賀県支部］	鬼木千恵子
30	10月14日	第2回九州・沖縄地区助産師職能委員会合同研修会ｉｎ熊本2018「災害にそなえるために明日から出来ることを考えよう」	高平、山下陽、吉田智、池邉、島本
31	10月16日	佐看協）急変時のフィジカルアセスメント	冨田龍、石﨑、堀田由、川添、荒木
32	10月28日	第22回日本手術看護学会九州地区佐賀分会研修会［佐賀大学］	西田、松原ゆ、岩井、井本勇
33	11月7日	医療安全に関するワークショップ［福岡国際会議場］	坂本美奈子
34	11月16日	第4回日赤佐賀県支部管内施設合同広報研修会［佐賀県赤十字血液センター］	百武千春、中山美穂
35	11月28日	第8回日赤看護部長・副学校長塾［本社］	加藤英子
36	11月29日	赤十字医療施設看護部長会研修会［本社］	加藤英子
37	11月29日～11月30日	九州ブロック医療安全推進担当者研修［熊本］	坂本美奈、市丸利、中野
38	12月1日	第2回佐賀県看護協会・佐賀県看護連盟合同研修会	百武千春
39	12月6日～12月7日、12月19日	佐看協）新人看護職員研修　教育担当者研修会	徳田香緒里
40	12月16日	第10回業務工程図・医療事故情報収集等事業研修会［東京］	坂本美奈子
41	12月22日	赤十字医療施設九州ブロック看護管理者研修会［ＪＲ博多シティ］	加藤、成瀬、熊本弘、鬼木、北川圭、山口き、田中恭、小川、吉田安、坂本三、谷河、西原
42	1月19日～1月20日	赤十字健康生活支援講習新任指導員研修会［佐賀県支部］	鬼木千恵子

43	1月24日～1月25日	平成30年度第2回「病院看護師のための認知症対応力向上研修会」［福岡ＴＫＰガーデンシティ］	浦津千秋
44	2月7日	佐看協）その人らしい最期を迎えるために	梅村奈々子
45	2月10日	ＶＴＥ医療安全セミナー2019in 福岡［ＪＲ博多シティ］	坂本美奈子
46	2月16日	佐看連）唐津支部研修会［虹ノ松原ホテル］	古賀真、篠崎、池田久、弥永
47	2月16日～2月18日	平成30年度第2回全国赤十字救護班研修会［日本赤十字社兵庫県支部］	諸岡智子
48	2月22日	三役合同経営セミナー［ベルサール御成門タワー］	加藤英子
49	2月22日～2月23日	医療安全管理養成研修第17回集合研修［東京］	吉田安代
50	2月28日	医療事故調査制度管理者・実務者セミナー［ホテル日航福岡］	坂本美奈子
51	3月8日	唐津東松浦地区自殺対策研修会［唐津総合庁舎］	中島妙子
52	3月19日	佐賀県肝疾患対策事業に係る説明会及び肝炎専門医療従事者研修会［佐賀大学医学部］	丸尾美紀
53	3月23日	第29回佐賀実践フットケア研究会実技研修会［㈱アステム佐賀支店］	藤原リツ子

3）院外長期研修

No.	期　間	名　称	氏　名
1	7月30日～9月21日	認定看護管理者教育課程サードレベル［熊本県立大学］	成瀬弘美

4）学　会

No.	期　間	名　称	氏　名
1	5月24日～5月26日	第61回糖尿病年次学術集会［東京国際フォーラム］	吉田のぞみ
2	5月25日～5月26日	第7回日本感染管理ネットワーク学会学術集会［仙台国際センター］	西原三重、中山美穂
3	6月14日	第25回日本緩和医療学会セミナー［神戸ポートピアホテル］	牧原りつ子
4	6月15日～6月16日	第23回日本緩和医療学会学術大会［神戸ポートピアホテル・神戸国際会議場・神戸国際展示場］	牧原りつ子
5	7月2日	第20回医療材料マネジメント研究会シンポジウム［東京医科歯科大学］	長﨑剛
6	7月13日～7月14日	第10回日本下肢救済・足病学会学術集会［ロイトン札幌］	吉田のぞみ
7	7月27日～7月28日	第49回日本看護学会~在宅看護~学術集会［佐賀市文化会館］	加藤、百武千、佐藤、富永、青木翔、水野、平尾、田中綾、堀田美、中山正重、滝元、梅村、西山、市丸美恵、楠元 ポスター発表：牧原りつ子 7/28 座長：神谷和子

8	7月28日～7月29日	第6回糖尿病療養指導学術集会 ［国立京都国際会館］	ファシリテーター：諸岡智子 坂本三奈子
9	8月9日～8月10日	第49回日本看護学会～看護管理～学術集会 ［仙台国際センター］	増本智子、居石忍
10	8月16日～8月17日	第49回日本看護学会～看護教育～学術集会 ［広島国際会議場］	青木翔子、岩野愛子
11	8月24日～8月25日	第22回日本看護管理学会学術集会［神戸］	坂本美奈子
12	9月7日～9月8日	第49回日本看護学会～急性期看護～学術集会 ［大分］	坂本美咲、諸隈静
13	9月20日～9月21日	第49回日本看護学会～ヘルスプロモーション～学術集会 ［岡山］	徳田香緒里
14	9月22日～9月24日	第23回日本糖尿病教育・看護学会学術集会 ［茨城］	諸岡智子
15	9月27日～9月28日	第49回日本看護学会～慢性期看護～学術集会 ［静岡］	弥永亜樹子、梅野恵子
16	10月11日～10月13日	日本放射線腫瘍学会第31回学術大会 ［国立京都国際会館］	佐藤真美
17	10月18日～10月20日	第56回日本癌治療学会学術集会 ［パシフィコ横浜］	藤田直子
18	11月24日～11月25日	第13回医療の質・安全学会学術集会 ［名古屋国際会議場］	坂本美奈子
19	2月22日～2月23日	第34回日本環境感染学会［神戸］	中山美穂
20	3月10日	第37回佐賀県看護研究学会 ［ゆめぷらっと小城］	加藤、成瀬、百武千、西原、 米倉詩、坂本美幸、冨田龍

5）救護班要員研修

No.	期　間	名　称	氏　名
1	2月17日、2月23日	平成30年度佐賀地区原子力災害医療ネットワーク構築支援事業　原子力災害医療基礎研修	山下拓哉（2/17）、 谷口友梨（2/23）
2	3月1日	佐賀県原子力災害医療専門研修	

6）訓　練

No.	期　間	名　称	氏　名
1	12月2日～12月3日	九州八県支部合同災害救護訓練［佐賀市］	熊本弘、川口、松尾瞳
2	12月3日	九州八県支部合同災害救護訓練［佐賀市］	小川和隆、岡本智史
3	2月2日	佐賀県原子力防災訓練［唐津赤十字病院 佐賀県緊急時医療施設］　参加機関：唐津赤十字病院、長崎大学、唐津市消防本部、九州電力	田代有希、渕上典彦、 青木傑

7）救護員派遣

No.	派遣日時	救護名（派遣名）	派遣場所	氏名
1	4月29日	有田陶器市	有田町	局田里子
2	7月15日	第66回九州花火大会	西の浜	堀田恵里、冨田龍之介
3	7月19日～7月22日	平成30年7月豪雨	広島県安芸郡坂町	諸岡智子、諸隈静、中尾利恵子
4	9月2日	第71回松浦地区青年相撲大会	唐津市体育の森公園相撲場	馬場智子
5	1月27日	第72回東西松浦駅伝大会		富永久美子
6	2月10日	第59回唐津10マイルロードレース大会	唐津市内	吉田美帆子
7	3月24日	さが桜マラソン2019		松尾瞳、坂本美咲
8	3月24日	虹ノ松原カップ西日本選抜小学生駅伝競走	虹の松原内	吉富みな美

8）講師派遣

No.	派遣日時	派遣名	氏名
1	4月11日	新人看護職員等集合研修事業　新人看護職員多施設合同研修会	岩﨑里恵
2	5月30日	ストーマケア研修会［㈱ホリスター西日本営業所］	百武和子
3	6月9日	佐賀フルフル勉強会［メートプラザ佐賀］	百武和子
4	6月25日～6月26日	佐看協）認定看護管理者教育課程ファーストレベル講義「グループマネジメント」	加藤英子
5	7月11日	いのちの教育［虹の松原学園］	山口きよみ
6	7月12日～7月13日	第2回糖尿病性腎症重症化予防プログラム研究会［北海道］	諸岡智子
7	7月19日、7月26日	唐津看護専門学校講義「成人看護学方法論Ⅰ」	百武和子
8	7月27日	薬剤の投与管理とリスクマネジメント［久留米大学］	藤田直子
9	7月31日	佐看協）「摂食・嚥下障害のある患者の看護~正しい知識で誤嚥を防ごう~」	岩﨑里恵
10	8月4日	第35回九州ＣＡＰＤ検討会［福岡中小企業振興センター］	吉田安代（座長）
11	10月12日	佐賀県肝炎医療コーディネータースキルアップ研修会［小城市教育委員会生涯学習センター］	丸尾美紀、谷河千加子（ディスカッション時アドバイザー）
12	11月10日	第16回佐賀県感染管理ネットワーク研修会［佐賀大学］	中山美穂
13	11月13日、11月20日、11月27日	唐津看護専門学校講義「看護マネジメント」	加藤英子
14	11月13日	キャリアアップ支援専門研修会「介護従事者に必要な知識~オストメイトの方への支援~［佐賀県社会福祉士会館］	百武和子

15	11月15日	いのちの教育［肥前中学校］	山口きよみ
16	11月17日～ 11月18日	佐看協）佐賀県がん看護研修会	牧原りつ子
17	12月1日	いのちの教育［七山小中学校］	田中恭子
18	12月14日	卒業生・在校生交流会［緑生館］	朽木奈津美
19	12月19日	佐看協）新人看護職員研修　教育担当者研修会	坂本美奈子
20	1月16日～ 1月17日	佐看協）新人看護職員研修　教育担当者研修会	坂本美奈子
21	2月15日	唐津東松浦・伊万里地区褥瘡創傷ケア検討会［まつら荘］	百武和子
22	3月8日～ 3月9日	第30回九州ストーマリハビリテーション講習会 ［福岡大学セミナーハウス］	百武和子
23	3月23日	ダンサックシンプルケアセミナー2019ｉｎ佐賀［りふれ］	百武和子、堀田悦子
24	3月23日	第29回佐賀実践フットケア研究会実技研修会 ［㈱アステム佐賀支店］	吉田のぞみ

9）院外活動

No.	日　時	名　称	参加者
1	4月25日	座談会「地域医療連携で取り組む糖尿病重症化予防」 ［唐津ロイヤルホテル］	諸岡智子
2	5月10日	看護事業功労者知事感謝状受賞［佐賀県庁］	増本智子
3	5月21日	第13回佐賀県合同輸血療養委員会［佐賀県庁］	熊本智加
4	5月27日	第46回フローレンス・ナイチンゲール記章受章記念講演 ［ソラリア西鉄ホテル］	加藤英子
5	6月5日	佐看協）新人のための心電図研修会	水野浩美（教育委員）
6	7月6日	唐津市内高等学校訪問［唐津東・唐津西］	加藤英子
7	8月29日	第1回唐津市地域包括支援センター運営協議会［唐津市役所］	加藤英子
8	8月31日	第1回佐賀県臓器移植普及会議［佐賀メディカルセンタービル］	中島妙子
9	9月14日	看護師の特定行為研修に関する説明会［九州厚生局］	増本智子
10	9月22日	赤十字健康生活支援講習指導員養成講習［佐賀県支部］	鬼木千恵子
11	11月26日	赤十字施設九州ブロック看護師キャリア開発ラダー推進者連絡会議 ［大分県支部］	増本智子
12	2月21日	赤十字病院合同キャリア相談会［日本赤十字九州国際看護大学］	成瀬弘美、船木佳奈実
13	3月20日	マイナビ看護学生就職セミナー合同病院説明会［福岡国際センター］	成瀬弘美、渡部彩葵

１０）そ の 他

No.	日　時	名　称
1	4月4日	看護学生病院見学・説明会　参加：12名
2	4月21日	看護学生病院見学・説明会　参加：19名
3	5月16日	看護の日イベント
4	6月2日	看護学生病院見学・説明会　参加：15名
5	6月23日	平成31年度看護師採用試験（推薦）
6	7月17日	平成31年度看護師・助産師採用試験：一次
7	7月31日	ふれあい看護体験　参加：県内高校生 11名
8	8月8日	平成31年度看護師・助産師採用試験：二次
9	9月12日～9月13日	病院機能評価訪問審査受審
10	9月18日～9月21日	赤十字医療施設九州ブロック中間管理者（看護師長）研修受け入れ［長崎原爆･沖縄･今津･諫早より］

４．１年間のあゆみ

今年度も病院BSCに沿って活動した。

PFMの実践体制の確立をするために、各部署で導入しやすい疾患を選び、多職種との話し合いや情報共有し介入項目や方法を試行し症例数を増やした。

平成30年は、診療報酬の改定年であり、その対応として、6月から認知症ケア加算2を、10月に入院前支援看護師を1名配置し11月から入院前支援加算が算定できるように体制を整えた。入退院支援Ⅱから1へ、入院基本料も急性期一般入院基本料1へ、重症度医療看護必要度の評価区分もⅠからⅡへ変更となった。他にも、摂食療法加算・ハイリスク分娩管理加算・小児科緊急入院に対する退院支援加算・小児入院加算4から3・乳腺炎重症化予防加算など算定ができるようになった。

夜間の看護補助者の配置を3階西病棟から5階東西病棟へ移行し夜間の業務の体制を変更した。8月に重点支援病院の指定を受けたことで、経営改善の意識が高まり、全職員が健全経営に向けて取り組んだ。

9月病院機能評価受審するために昨年に引き続き準備を行った。身体拘束マニュアルの改訂・整備やマニュアルの周知や遵守、多職種でのカンファレンス開催、説明と同意の立ち合いなど全員で取り組むことができた。結果1項目のC評価があったが、書類提出で合格となった。

前年度、労働基準監督署からの指摘を受け出退勤システムが11月から導入となった。

前年に引き続き、業務改善や、時間管理を行うことで、働きやすい職場環境への取り組みを行った。

7月19日には西日本豪雨に対し、救護班1班が広島県に派遣され活動を行った。

今後も、安定した経営と質の高い医療の提供ができるよう、体制の構築が重要である。

４．医療技術部

栄養課

1. スタッフ紹介（平成 31 年 3 月 31 日現在）

栄養課長（兼係長）　池田　敦子
管理栄養士　高崎　桂子
管理栄養士　近藤　まゆ子
管理栄養士　伊東　優
調理師　井上　正彦
調理師　北村　一政
調理師　三好　滋人

LEOC 委託 30 名（調理責任者　1 名　管理栄養士　1 名　栄養士　3 名　調理師　4 名
調理員　12 名　食器洗浄員　9 名）

2. 臨床業績（平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日）

栄養指導件数　564 件（入院患者 397 件　外来患者 167 件）
病棟訪問　298 名
栄養管理委員会　合計　2 回開催

3. 研究業績（平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日）

研修会等

2018.4　Diabetes Update Seminar in唐津
　　30年度第1回ストップ糖尿病連絡会議
2018.5　2018年度診療報酬・介護報酬同時改定研修会
2018.6　佐賀 NST 研修会
　　ストップ糖尿病対策会議
2018.7　栄養士会唐津支部研修会
2018.8　佐賀県栄養士会生涯教育
2018.9　佐賀県栄養士会生涯教育
2018.10　佐賀県栄養士会生涯教育
　　ストップ糖尿病連絡会議
2018.11　佐賀県栄養士会生涯教育
　　学術講演会 in 唐津～糖尿病重症化を考える会
　　日本健康・栄養システム学会　第 16 回九州地方会 in SAGA
2018.12　植物油研修会

2019.1　ステップアップメディカル教育研修
　　糖尿病腎症連絡会
2019.2　第 52 回唐津糖尿病臨床カンファレンス
　　唐津東松浦地域「ストップ糖尿病」対策会議
　　在宅医療・介護連携推進　多職種研修会
2019.3　佐賀県栄養士会医療事業部研修会

4. この 1 年の歩み

献立では LEOC の調理責任者及び栄養士と毎月 1 回、献立ミーティングを継続して開催し改善を行ってきました。栄養指導は入院の高血圧症の栄養指導患者数を増やすことを目標に進めました。また、栄養課通信「ビタミン」の配信にて栄養指導要件の周知及び主治医へカルテ掲示板での栄養指導提案を行いました。前年度の 425 件から 564 件に伸び、指導件数の増加に繋げることができました。特別食加算では特別食加算率を上げる為、加算漏れがないように病棟担当栄養士で確認作業をしてきました。平成 31 年 3 月 7 日に入院中の患者 152 名にベッドサイドにて聞き取りのアンケート調査を実施しました。栄養管理委員会ではアンケート調査についての報告をしました。入退院支援に向けては栄養課の体制、問題点を話し合い、PFM 対象疾患に対し介入項目と方法を決め介入しました。食事支援加算についてはシステムの構築、体制作りが必要で、地域がん診療連携拠点病院運営委員会にて今後、患者の症状緩和に関する目標（短期・長期）を設定することとなりました。コスト削減では食器の破損数減に取り組みました。また、節電の啓蒙を図り改善に努めました。

臨床工学技術課

1. スタッフ紹介(平成 31 年 3 月 31 日現在)

臨床工学技術課長　加勢田　達矢
臨床工学技術係長　小池　昭男
臨床工学技士　藤岡　涼
臨床工学技士　井上　悦宏
臨床工学技士　牧　佑樹

【認定および資格取得】
- MDIC 認定士　5 名
- 第 2 種 ME 技術者　3 名
- 第 2 種電気工事士免許状　1 名
- 3 学会合同呼吸療法認定士　1 名
- 透析技術認定士　1 名

2. 参加委員会

救急 ICU 委員会・情報システム委員会・リスクマネージメント検討会・医療安全小委員会・医療機器安全管理委員会・医療ガス安全管理委員会・透析機器安全管理委員会

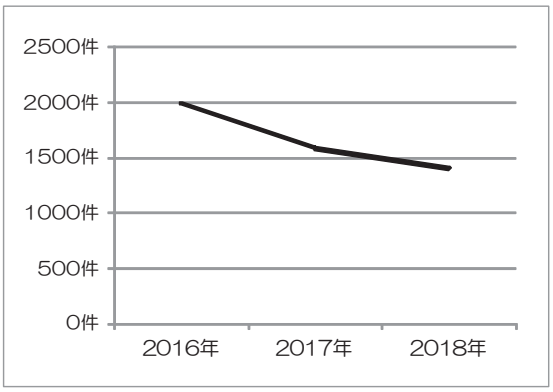
3. 透析室業務実績

透析勤務 人員配置　2 名〔 時間外休日は、1 名　呼出待機体制 〕
ベッド数　9 台 ＋ 個室　1 台〔 多用途透析用監視装置 9 台, 個人用透析装置 1 台 , 血液浄化用装置 CHDF 装置 1 台 〕

透析件数は、若干減少している。
透析以外の血液浄化センター外での治療件数については、症例ありきのところがあるため、全体の件数としては減少しているが、施行中、臨床工学技士 1 名がこれに終了までつくこととなる。PCPS が前年度の 2.3 倍、腹水濾過濃縮再静注療法が前年度の約 2.4 倍の増加に対応している。
このような治療が行われる場合は、ME センター勤務者が応援に出て対応しているが、同日同時間帯に、複数重なることがあるため、その時は ME センターの業務を一時ストップさせこれにあたっている。

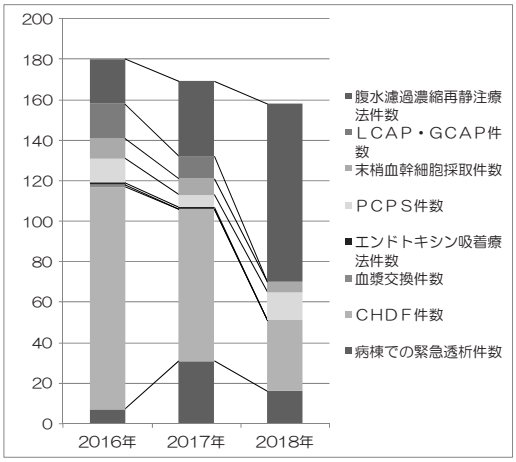
【透析件数】

	2016年	2017年	2018年
透析室での施行件数	1990件	1586件	1409件



【血液透析室以外での治療件数】

	2016年	2017年	2018年
病棟での緊急透析件数	7	31	16
CHDF件数	110	75	35
血漿交換件数	1	0	0
エンドトキシン吸着療法件数	1	1	0
PCPS件数	12	6	14
末梢血幹細胞採取件数	10	8	5
LCAP・GCAP件数	17	11	0
腹水濾過濃縮再静注療法件数	22	37	88
総件数	201	169	158



4. ME センター業務実績

ME センター勤務人員配置　3 名　業務内容

(1) 管理機器数：

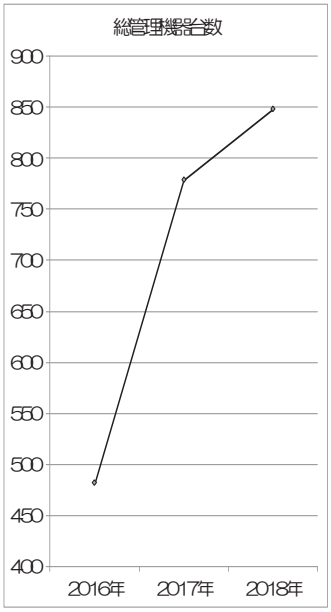
下記 ME 機器の保守点検業務を行っている。

全体の管理機器総数は、平成 30 年 3 月 31 日現在にて前年度の 69 台増加し 848 台となっている。

ME 機器の内訳は右記のとおりである。

【管理機器台数】

	2016年	2017年	2018年
輸液ポンプ	88	88	97
シリンジポンプ	57	57	67
PCA機能付き型シリンジポンプ	5	5	5
経腸栄養ポンプ	26	26	26
低圧持続吸引器	13	13	21
人工呼吸器	12	12	12
深部静脈血栓症予防装置	15	15	15
末梢血管細径超音波装置	1	1	1
チューブシーラー	1	1	1
Mガードルスタンド	1	97	116
バックバルブマスク	78	78	79
AED	9	12	13
除細動器	8	8	8
PCPS関連機器	5	5	5
急速輸血・輸液加温装置	1	1	1
医用テレメータ	4	13	15
ベッドサイドモニタ	53	53	55
送液機	63	63	63
搬送用人工呼吸器	4	4	2
体温管理システム	1	1	1
分娩監視装置	4	4	6
搬送用保育器	1	1	1
透析関連機器	19	19	21
温閘器	0	198	208
ハイフローセラピー	0	0	3
点滴機器	4	4	6
総管理機器数	473	779	848



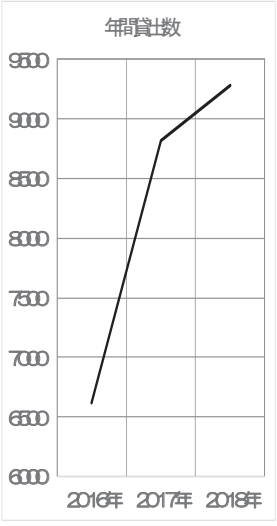
(2) 中央管理機器の貸出状況

貸出件数は、前年度より 462 件増加の 9281 件となっている。

管理機器の種類と台数の増加に伴い、保守点検件数も 3012 件増加し、14612 件と右肩上がりになっており、現在これに 3 名で対応している。

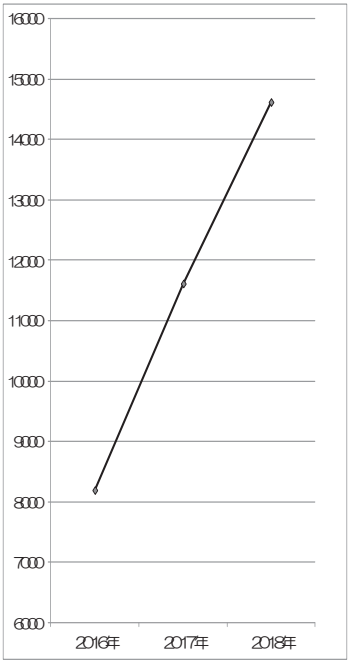
【機器別貸出件数】

	2016年	2017年	2018年
輸液ポンプ	3251	3880	4290
シリンジポンプ	2044	2408	2308
PCA型シリンジポンプ	86	92	122
経腸栄養ポンプ	301	292	265
低圧持続吸引器	204	200	287
バックバルブマスク	495	616	600
人工呼吸器	179	238	267
血液浄化装置	317	567	725
医用テレメータ	35	73	75
ベッドサイドモニタ	101	208	163
送液機	130	250	179
合計	6612	8819	9281



【保守点検件数】

	2016年	2017年	2018年
輸液ポンプ	3350	3945	4236
シリンジポンプ	2237	2418	2346
PCA型シリンジポンプ	98	95	132
経腸栄養ポンプ	338	278	265
低圧持続吸引器	245	244	349
人工呼吸器	236	341	432
バックバルブマスク	451	545	518
ハイフローセラピー	0	16	48
除細動器	89	103	132
AED	112	154	158
末梢血管細径超音波装置	17	12	14
医用テレメータ		199	259
ベッドサイドモニター	691	531	544
送液機		233	173
血液浄化装置	12	12	12
体温管理システム	12	12	13
急速輸血・輸液加温システム	12	14	19
PCPS	12	16	16
冷温庫	16	12	15
分娩監視装置	48	72	75
深部静脈血栓予防装置	217	560	752
閉鎖式保育器	0	11	23
温閘器	0	1777	3966
透析関連機器	0	0	120
合計	8193	11600	14612



5. 1年の歩み

4月12日　福岡腹膜透析カンファレンスに、井上・牧参加
4月14日　第8回日本赤十字社臨床工学技士会研修会　(2日間) に、藤岡参加
4月21日　DCS-100NX保守管理研修会に、井上参加
4月26日　HIBINO勉強会に、牧参加
5月11日　新人ナース研修会（輸液・シリンジの安全取り扱いについて）を加勢田・小池・牧が開催
5月29日　2018年佐賀モニタ講習会に、牧参加
6月19日　ウリアデック web講演会に、井上・牧参加
6月28日　日本光電モニタ取り扱い勉強会を加勢田・小池・井上・牧が開催
6月29日　第63回日本透析医学会（3日間）に藤岡参加
6月30日　HIBINO勉強会に、井上・牧参加
7月7日　透析療法従事者研修会（2日間）に、井上参加
7月8日　腹膜透析 ナースカレッジに、牧参加
7月12日　第84回佐賀県人工透析懇話会に、藤岡・井上・牧参加
7月15日　佐賀県臨床工学技士会に、藤岡・井上・牧参加
7月16日　医療機器安全基礎講習会に小池・藤岡・井上・牧参加
7月18日　平成30年度西日本豪雨災害における救護活動〔広島（22日まで)〕に、井上参加
8月20日　透析室勉強会「診療報酬改訂について」に、小池・藤岡・井上・牧参加
8月23日　HIBINO勉強会に、牧参加
8月24日　3学会合同呼吸療法認定講習会(2日間)に、井上参加
8月29日　第1回急変時対応シミュレーションに、牧参加
8月30日　シャント勉強会に、牧参加
10月12日　メラサキューム　メンテナンス講習会に、藤岡参加
10月13日　メラサキューム　メンテナンス講習会に、井上参加
10月18日　第8回HIBINO 勉強会(災害事例から対策を考える）に、井上参加
10月18日　三和化学講演会 腎臓と高尿酸血症を考える会に、加勢田・小池・藤岡・牧参加
10月25日　TOP－A600 メンテナンス講習会に、加勢田・小池・牧参加
10月30日　TOP－A600 メンテナンス講習会に、藤岡・井上参加
11月6日　唐津地区　糖尿病勉強会に、牧参加
11月10日　第9回　九州・沖縄ブロック研修会(2日間) に、藤岡・牧参加
11月13日　医療現場で安心・安全に電波を利用するための説明会に、藤岡・井上・牧参加
12月1日　第3回呼吸セミナーin福岡に、井上・牧参加
12月6日　HD室勉強会に、小池・藤岡・井上・牧参加
2月1日　ME機器管理システム更新
2月16日　佐賀県臨床工学技士会 代表者会議・施設見学・新年会を井上・牧実施(運営)

2 月 19 日　　豚肺　wet lab に、藤岡・井上・牧参加
3 月 01 日　　モニタ心電図の基礎に、小池・藤岡・井上・牧参加

上記のようなセミナー講習会等に参加しながら、保守点検技術の習得・臨床工学技士としてのスキルアップを行うとともに、業務拡大を行ってきた。医療機器の安全で効率的な運用を目的に、臨床工学技術課主催の勉強会を継続して開催している。透析室業務もＭＥセンター業務も資料のとおり、業務繁忙となっているが、臨床工学技術課関与の加算の取得および算定を実現しつつ、更なる医療安全に寄与して行きたと考える。

検査技術課

1. スタッフ（検査技術課）平成 31 年 3 月 31 現在

医療技術部長　　仙波英之
医療技術部技師長　　平田一英
臨床検査技師　　永石信二（課長）　尾形正也（係長）　川内保彦（係長）
成村和子（係長）　井手理恵（係長）
鬼木孝弘　宮原美幸　井上慎介　峯悠太郎
高田知佳　鬮田有紗　鶴田志穂　徳田英理子
吉田萌子　赤星栄基　横尾亜矢子　木下政憲

【認定及び資格取得一覧】

永石　信二：国際・国内細胞学会認定細胞検査士
日本超音波医学会認定　超音波検査士（循環器）
消化器内視鏡学会認定内視鏡技師
特定化学物質作業主任者
特別管理産業廃棄物管理責任者

尾形　正也：国際・国内細胞学会認定細胞検査士
日本超音波医学会認定　超音波検査師（消化器、体表）
認定病理検査技師
日本消化器内視鏡学会認定内視鏡技師
２級臨床検査士（病理学）
特定化学物質作業主任

川内　保彦：日本超音波医学会認定　超音波検査士（消化器、体表）
日本消化器内視鏡学会認定内視鏡技師
微生物検査技師、感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT）
２級臨床検査士（血液学）

成村　和子：日本超音波医学会認定　超音波検査士（循環器、体表、
血管、検診）

鬼木　孝弘：日本超音波医学会認定　超音波検査士（消化器、体表）
日本消化器内視鏡学会認定内視鏡技師

宮原　美幸：心電図認定技師

井上　慎介：佐賀糖尿病療養指導士　日本糖尿病療養指導士
国内細胞学会認定細胞検査士
微生物検査技師、感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT）

峯　悠太郎：日本超音波医学会認定　超音波検査士（循環器、血管）
２級臨床検査士（呼吸生理学）

鬮田　有紗：国際・国内細胞学会認定細胞検査士
佐賀糖尿病療養指導士
高田　知佳：２級臨床検査士（病理学）
日本超音波医学会認定　超音波検査士（消化器、体表臓器）
特定化学物質作業主任
鶴田　志穂：２級臨床検査士（血液学）佐賀糖尿病療養指導士
日本糖尿病療養指導士
徳田英理子：２級臨床検査士（循環生理学）
日本超音波医学会認定　超音波検査士（循環器）
吉田　萌子：２級臨床検査士（血液学）
赤星　栄基：緊急臨床検査技士

2. 研究業績

1）第 67 回日本臨床検査学会（H30.5.12-13）
・演題：グラム染色で迅速な診断に至った肺 ノカルジアの一例
○井上慎介　吉田萌子　川内保彦

2）九州ブロック臨床検査技師研修会
・演題：右房内に発生したユーイング肉腫の一例
○峯悠太郎、徳田英理子　成村和子　永石信二

3）日本臨床検査学会（H30.11.16）
・演題：固定に苦慮した *campylobacter　fetus* による敗血症の一例
○川内保彦　井上慎介　吉田萌子

4）日本臨床細胞学会佐賀支部地方会（H31.2.16）
・演題：「胸水のセルブロックによる免疫染色が有用であった類上皮血管内皮腫の一例」
○鬮田有紗　井上慎介　髙田知佳　尾形正也　永石信二
明石道昭

5）その他活動
・佐賀県臨床検査技師会理事　宮原美幸
・佐賀県臨床細胞学会佐賀支部事務局　永石信二

3. この一年の歩み

平成 30 年 9 月の機能評価に向けて全員で一丸となって課題に取り組んだ。機能評価では従来のマニュアルの修正、新規のマニュアル作成および環境づくりを行った結果、指摘事項はなかった。また、医療法改正に伴い臨床検査品質保証制度が 12 月 1 日施行された為、各部署で標準作業書・作業日誌・試薬台帳の作成の協議を行った。

検体検査では管理する分析装置や取扱試薬が多く、日々の作業日誌の記録など業務は増えたが、精度管理の面では充実した。精度確保のため品質保証について厳しくなる中、2019年 4 月には日本臨床検査技師会の精度保証施設認証の認定を取得することができた。また免疫チェックポイント阻害剤の増加に伴い、血中コルチゾールを 5 月に院内検査に導入した。

細菌検査では、平成 28 年 8 月の新病院移転後、CRE のアウトブレークも外部委員より終息宣言が出されたが、外来 follow の患者や新規の患者から時々検出されるため引き続き病棟の環境培養や入院時のスクリーニング検査の継続をしている。小児救急の迅速検査の増加により、インフルエンザ検査件数は例年の 3 倍程度に増加し、細菌検査技師の人員不足が指摘されたため、技師の育成と当番業務の対応に取り組んだ。その結果、血液培養陽性の検体において休日もグラム染色の報告が出来るようになり ICT、AST 活動に大きく貢献していると思われ、耐性菌の検出率ではJANISの集計においても減少が見られた。また、全国レベルの学会で臨床の先生方のご指導のもと 2 例の発表を行う事ができた。

病理検査では前年度よりさらに件数が増加しブロック数は 1 万を超えるようになった。生検に対し切除症例の比率が増し、標本ブロック数やプレパラート枚数の増加につながったものと思われる。癌遺伝子治療もめまぐるしく進歩し、多くの固形癌が対象となり検体採取から固定、生組織の凍結保存がさらに重要となっている。このためほぼ全例を技師が出向き処理にあたっている。外部精度管理の一環として、日本病理精度保証機構の染色およびフォトサーベイに参加しいずれも適正評価を受けている。また、日本臨床検査技師会認定病理検査技師の資格取得を目指し研修会へ派遣した。

生理検査では、外来の検査件数の増加や人間ドックのオプション項目としてエコー検査が追加されたことで超音波検査件数は 10,000 件/年を突破した。12 月には下肢の血管が糖尿病や動脈硬化の影響により細くなり血流がいきにくくなる下肢虚血状態の重症度の評価に用いられる皮膚潅流圧測定検査（SPP）の装置が新規導入された。生理検査において測定法や注意点など勉強会を重ね実施に至った。

検査全体の件数も 1,355,000 件と昨年度を上回り過去最高となったが、試薬に関しては精度管理や運用の見直しにより、購入額は昨年を 8%、金額にして約 800 万円低減化できた。精度保証制度の法令化で更に厳しさが増す中、品質管理に努め検査の精度と院内における役割を高められるよう努力していきたい。

放射線技術課

1. スタッフ紹介（平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月在籍）

医療技術部長	仙波　英之			
医療技術部技師長	平田　一英			
放射線技術課長	坂井　征一郎			
放射線技術課係長	江口　教久	牧原　靖司		
診療放射線技師	千綿　直也	服部　重雄	江頭　紀史	槇　康司
	立川　圭彦	池田　健人	吉海　ひかる	三浦　有貴
	東　和樹	肱下　真子	横山　功一	
受付	藤原　征司	中山　みのり	江口　洋人	小峰　真弥

2. 業務件数

業務数の推移

	MRI	CT	ポータブル	治療	血管造影	心カテ	マンモ	RI	骨密度	歯科撮影	共同利用
26年度	4253	10852	6322	148	157	372	831	552			369
27年度	4373	11647	6208	143	166	320	881	419			314
28年度	4646	11534	5813	70	144	272	863	375	164		281
29年度	5069	12927	5437	156	195	280	885	446	341		352
30年度	5848	13861	4766	152	205	300	1045	455	606	932	709

3. 認定関連

放射線治療専門放射線技師	1 名
放射線治療品質管理士	1 名
核磁気共鳴専門技術者	1 名
検診マンモグラフィー撮影認定診療放射線技師	3 名
医用画像情報管理士	1 名
放射線管理士	2 名
放射線取扱主任者 1 種	3 名

4. 講演、研究実績

講演

・唐津赤十字病院医療安全講習会『MRI の医療安全』　立川　圭彦

・唐津赤十字病院医療安全講習会『放射線の基礎と防護』　坂井　征一郎

・佐賀県放射線技師会　リフレッシュセミナー　『MRI　アーチファクト，
撮影技術、症例検討』　立川　圭彦
・唐津東松浦消化器勉強会『MRI の最新撮像―がん診療の新たな展開―』　立川　圭彦

研究
・佐賀県放射線技師学術大会『3.0T における T2W　mDIXON TSE
での腕神経叢描出の検討』　立川　圭彦
・佐賀県放射線技師学術大会『大動脈弓部領域における
REACT を用いた Black Blood の検討』　槇　康児
・日本赤十字診療放射線技師会九州ブロック研修会『大動脈弓部領域における
REACT を用いた Black Blood 撮像の検討』　立川　圭彦
・MR研究会『大動脈領域における PSIR-REACT の有用性』　立川　圭彦
・MR研究会『3.0T DWIBS Direct Coronal における脂肪抑制の検討』　槇　康児

5．この一年の歩み

新病院移転から 3 年目を迎え、各検査順調に検査数を伸ばした。特に骨密度測定は院内へのアピール等もあり検査数を大幅に伸ばした。また、4 月の口腔外科開設に伴い、歯科用コーンビム CT 付きパノラマ撮影装置を導入稼働させた。5 月には 14 番透視室に C アーム型透視装置を導入した。10 月にトモシンセス付きマンモ撮影装置を導入、より精密なマンモ撮影が可能になった。装置導入に伴い技師によるレポートも書くようになった。

研究、講演等の実績も前年度より多くの実績を上げることができた。本年度は MRI での研究であったが、今後は他部門での研究も期待したい。

リハビリテーション技術課

1. スタッフ紹介（平成 31 年 3 月 31 日現在）

部長：　仙波　英之

課長：　麻生　昭秀

係長：　小倉　智朗

理学療法士：　田港　智恵美　　小峠　直之　　安河内　祐太

永石　隼也　　松本　維也　　伊藤　真也　　古賀　理沙

作業療法士：　吉富　竜一　　横山　拓也　　田口　智彩

言語聴覚士：　安河内　真澄　　藤野　結衣　　松尾　沙知

マッサージ師：　姉川　勝正

2. 臨床業績

総得点　14,412,325 点　（平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月）

前年度より 972,392 点　107%増

年間件数

	平成 29 年度	平成 30 年度	理学療法	作業療法	言語療法
脳血管疾患	320	434	421	397	375
廃用症候群	211	313	300	19	78
運動器疾患	651	710	571	163	
呼吸器疾患	217	208	206	42	
がん疾患	189	145	117	38	2
心大疾患	172	207	207	9	
摂食機能	25	23			23
計	1785	2040	1822	668	478

3．資格

・専門理学療法士（運動器）　　小峠　直之 PT

・認定理学療法士（運動器）　　安河内　祐太 PT

・認定理学療法士（脳卒中）　　田港　智恵美 PT　伊藤　真也 PT　安河内　祐太 PT

・認定理学療法士（循環）　　伊藤　真也 PT

・3 学会合同呼吸療法認定士　　伊藤　真也 PT

・血管診療技師　　伊藤　真也 PT

・地域包括推進リーダー　麻生昭秀 PT　小倉智朗 PT

4. 業績

・九州理学療法士・作業療法士合同学会 2018　2018.10.13-14
「術後偽関節による歩行時痛の保存療法から手術療法に至った症例」
安河内　祐太 PT

・第 58 回日本肺癌学会学術集会　2018.11.29-12.1
「化学療法による食欲低下の時期も適切な運動療法により筋力・筋量維持ができ PS 改善を認めた肺癌の 1 症例」　伊藤　真也 PT

・第 6 回日本理学療法運動器学会　2018.12.15-16　小峠　直之 PT　安河内　祐太 PT
・第 12 回身体運動的アプローチ研究会　2019.01.22　小峠　直之 PT
・第 27 回佐賀県理学療法士学会　2019.02.17
座長　小峠　直之 PT　伊藤　真也 PT　永石　隼也 PT　安河内　祐太 PT
・第 59 回日本肺癌学会九州支部学術集会　2019.02.22-23
「進行肺癌患者に対する Short Performance Physical Battery を用いた全身状態評価の試み」　伊藤　真也 PT

5. この 1 年のあゆみ

前年度 3 月に 1 名の退職、今年は PT、ST にそれぞれ 1 名の増員があり、理学療法士 9 名、作業療法士 3 名、言語聴覚士 3 名、マッサージ師 1 名の計 16 名で急性期リハビリテーションの提供を行ってきました。

今年は土曜日出勤も半日から全日に変更し、より早期の介入や継続性の対応をおこなってきました。また、前年度より開始した退院支援カンファレンス参加も定着し、病棟との連携も強化され、新たな患者の発掘もでき、より充実した介入ができるようになりました。また、内部疾患領域ではパスの見直しにも関わり、早期よりリハビリ開始することで在院日数の軽減にも貢献できました。

今後も病棟との連携を密にし、チーム医療の一員として質の高いリハビリテーションの提供が図れるよう、日々精進していきたいと思います。

5．医療安全推進センター

1. スタッフ紹介（平成 31 年 3 月 31 日現在）

医療安全推進センター長（副院長）		湯ノ谷誠二（医療安全管理責任者・兼任）
医療安全管理者	（看護副部長）	坂本美奈子（専従）

2. 委員会

医療安全管理委員会	毎月 1 回	各部長（副部長）以上、医局長
医療安全専門小委員会	毎週 1 回	医療安全管理責任者、診療部、看護部、薬剤部 医療技術部、医療社会事業部、医療安全管理者
リスクマネジメント検討会	毎月 1 回	各部署リスクマネージャー
事例検討会	必要時	
医療事故調査委員会	必要時	

3. 活動実績

【委員会】

- 医療安全管理委員会　　計 12 回　開催
- 医療安全専門小委員会　　計 46 回　開催
- リスクマネジメント検討会　　計 12 回　開催
- 事例検討会　　計　9 回　開催
- 院内医療事故調査委員会　　開催なし

【研修会開催】

月　日	研修内容	講　師	対象・参加人数
平成 30 年 4 月 3 日 10 日	平成 30 年度診療部・新採用者 医療安全に関するオリエンテーション	坂本美奈子	新採用医師 11 名
平成 30 年 4 月 4 日	平成 30 年度新規採用職員研修「医療安全管理」	坂本美奈子	新採用者　25 名
平成 30 年 4 月 9 日	平成 30 年度看護部オリエンテーション 「医療安全」	坂本美奈子	新採用看護師 16 名
平成 30 年 4 月 13 日	医療安全管理研修会 （リスクマネジメント検討会）	坂本美奈子	リスクマネジメント委員　23 名
平成 30 年 4 月 26 日	平成 30 年度新役職者への医療安全管理研修会	坂本美奈子	新役職者　6 名
平成 30 年 5 月 11 日	事例分析について（リスクマネジメント検討会）	坂本美奈子	リスクマネジメント委員　22 名
平成 30 年 6 月 29 日	第 1 回医療安全管理研修会 ・「MRI の医療安全～事故を起こさないために」 ・「放射線の基礎と防護」	放射線技術課 立川　圭彦 坂井征一郎	全職員　382 名
平成 30 年 7 月 9 日	「みんなで慣れよう！AED」	吉武　邦将 小川　和隆 坂本　聡	新規採用者・前年度中途採用者 26 名

平成 30 年 7 月 10 日 12、18、20、23 日	第 1 回医療安全管理研修会　追加集合研修 （ＤＶＤ視聴）①～⑤		273 名
平成 30 年 8 月 6 日	復帰者職場適応支援「医療安全」研修	坂本美奈子	育休復帰者 （看護師）2 名
平成 30 年 11 月 16 日	看護補助者医療安全研修会	坂本美奈子	
平成 30 年 11 月 14 日	第 2 回医療安全管理研修会 講演「医療の質の確保、医療事故の原因分析と再発防止について」	九州大学病院 医療安全管理部 教授・部長 後　信	全職員　313 名 院外参加者　3 名
平成 30 年 11 月 22 日 11 月 26 日	第 2 回医療安全管理研修会　追加集合研修 （ＤＶＤ視聴）①～②		128 名
平成 30 年 11 月 27 日	復帰者職場適応支援　「医療安全」研修	坂本美奈子	育休復帰者 （看護師）3 名
平成 30 年 12 月 5 日 12 月 7 日	第 2 回医療安全管理研修会　追加集合研修 （ＤＶＤ視聴）③～④		131 名
平成 30 年 12 月 10 日	第 2 回急変時対応シミュレーション（5 階西）	坂本　聡	全職員　54 名
平成 30 年 12 月 12 日	第 2 回医療安全管理研修会　追加集合研修 （ＤＶＤ視聴）⑤		45 名
平成 31 年 2 月 5 日	平成 30 年度医薬品安全管理研修会 「麻薬の取り扱いについて」	薬剤課長 岩田　和弥	50 名
平成 31 年 2 月 8 日	第 3 回急変時対応シミュレーション（4 階東）	坂本　聡 谷口 友梨	全職員　71 名
平成 31 年 2 月 12 日	復帰者職場適応支援「医療安全」研修	坂本美奈子	育休復帰者 （看護師）3 名
平成 31 年 3 月 5 日	RRS 導入説明会	湯ノ谷誠二	全職員
平成 31 年 3 月 13 日	第 4 回急変時対応シミュレーション（外来）	坂本　聡	全職員　45 名
平成 31 年 3 月 22 日	RRS 導入に関する研修会①	坂本　聡	全職員　61 名
平成 31 年 3 月 29 日	RRS 導入に関する研修会②	坂本　聡	全職員　70 名

【院外での研修受講】

月　日	研修会名	出席者	場所
平成 30 年 5 月 24 日 ～25 日	日本赤十字社医療安全管理者養成研修集合研修	永石　信二	日本赤十字本社
平成 30 年 6 月 17 日	医療安全倫理・モラル研修会 2018	坂本美奈子	東京
平成 30 年 7 月 16 日	平成 30 年度 医療機器安全基礎講習会・ 第 40 回 ME 技術講習会	小池　昭男 藤岡　涼 井上　悦宏 牧　佑樹	福岡 FFB ホール
平成 30 年 8 月 23 日	佐賀県医師会 医療安全対策（院内感染防止対策）医療従事者研修会	入江富美夫 坂本美奈子	佐賀市文化会館

平成 30 年 6 月 22 日 ～23 日	一般社団法人日本病院会 平成30年度医療安全管理者養成講習会（第 1 クール）	森　唯史 生田　光	ベルサール神保町アネックス
平成 30 年 8 月 31 日 ～9 月 1 日	一般社団法人日本病院会 平成30年度医療安全管理者養成講習会（第 2 クール）	森　唯史 生田　光	AP 東京八重洲通り
平成 30 年 10 月 29 日	平成 30 年度医療安全管理者交流会	坂本美奈子	佐賀県看護協会
平成 30 年 11 月 29 日 ～30 日	平成 30 年度 九州ブロック医療安全推進担当者研修会	中村　栄子 市丸利恵子 中野　由香 坂本美奈子	ホテル 熊本テルサ
平成 30 年 11 月 7 日	平成 30 年度 九州・沖縄地区医療安全に関するワークショップ	湯ノ谷誠二 入江富美夫 坂本美奈子	福岡国際会議場
平成 30 年 11 月 23 日	“いのちをまもるパートナーズ” 医療安全全国フォーラム 2018	坂本美奈子	名古屋 国際会議場
平成 30 年 11 月 24 日 ～25 日	第 13 回医療の質・安全学会学術集会	坂本美奈子	名古屋 国際会議場
平成 30 年 11 月 30 日 ～12 月 1 日	一般社団法人日本病院会 平成30年度医療安全管理者養成講習会（第 3 クール）	森　唯史 生田　光	品川フロントビル会議室
平成 30 年 12 月 16 日	第 10 回 業務工程図・医療事故情報収集等事業研修会	湯ノ谷誠二 岩田　和弥 坂本美奈子	東京 日本医療機能評価機構ホール
平成 31 年 1 月 10 日	VTE 医療安全セミナー	坂本美奈子	JR 博多シティ
平成 31 年 2 月 18 日	医療事故調査制度「管理者・実務者セミナー」	湯ノ谷誠二	ホテルグランヴィア岡山
平成 31 年 2 月 22 日 ～23 日	日本赤十字社 医療安全管理者養成研修 （第 17 回集合研修）	吉田　安代	日本赤十字本社
平成 31 年 2 月 28 日	医療事故調査制度「管理者・実務者セミナー」	坂本美奈子	ホテル日航福岡

【院外への会議出席】

月　日	会議名	出席者	場所
平成 30 年 5 月 30 日	平成 30 年度 第 1 回医療・看護安全推進委員会	坂本美奈子	佐賀県看護協会
平成 30 年 6 月 15 日	平成 29 年度 医療事故・紛争担当者会議	入江富美夫	日本赤十字本社
平成 30 年 6 月 22 日	平成 30 年度 第 1 回九州ブロック医療安全管理者会議	坂本美奈子	福岡赤十字病院
平成 30 年 7 月 30 日	平成 30 年度 第 2 回医療・看護安全推進委員会	坂本美奈子	佐賀県看護協会
平成 30 年 7 月 31 日	平成 30 年度 医療安全管理室長会議	湯ノ谷誠二	日本赤十字本社
平成 30 年 8 月 27 日	平成 30 年度 第 3 回医療・看護安全推進委員会	坂本美奈子	佐賀県看護協会
平成 30 年 9 月 27 日	平成 30 年度 第 2 回九州ブロック医療安全管理者会議	坂本美奈子	日本赤十字本社
平成 30 年 9 月 28 日	平成 30 年度 医療安全管理者会議	坂本美奈子	日本赤十字本社
平成 30 年 10 月 1 日	平成 30 年度 第 4 回医療・看護安全推進委員会	坂本美奈子	佐賀県看護協会
平成 30 年 10 月 29 日	平成 30 年度 第 5 回医療・看護安全推進委員会	坂本美奈子	佐賀県看護協会

平成 30 年 11 月 21 日	平成 30 年度医療安全対策地域連携 相互評価 （佐賀県医療センター好生館へ訪問評価実施）	湯ノ谷誠二 岩田　和弥 入江富美夫 坂本美奈子	佐賀県医療センター好生館
平成 30 年 11 月 28 日	平成 30 年度医療安全対策地域連携 相互評価 （佐賀県医療センター好生館より訪問評価）	湯ノ谷誠二 岩田　和弥 入江富美夫 坂本美奈子	唐津赤十字病院
平成 31 年 3 月 1 日	平成 30 年度 第 6 回医療・看護安全推進委員会	坂本美奈子	佐賀県看護協会
平成 31 年 3 月 7 日	平成 30 年度医療安全地対策地域連携　評価 医療法人松籟会 河畔病院へ訪問評価実施	湯ノ谷誠二 岩田　和弥 入江富美夫 坂本美奈子	河畔病院

4. この 1 年の歩み

今年度は、9 月に病院機能評価受審を控えた年でもあり、当院の医療安全体制を再構築する重要な年と位置づけ活動を推進した。

前年度より、病院機能評価受審を機会に、医療安全マニュアルの改訂、新たなマニュアルの作成など現状把握と体制の見直しを進めた。9 月 12～13 日の受審の結果、医療安全では誤認防止対策についてが B 評価であったため、手術部位のマーキングに関するマニュアルを作成し 2 月より運用を開始した。

インシデントレポート報告数は、前年度ようやく 1000 件以上を達成することができ、今年度は病院 BSC の目標の一つにインシデントレポート報告数の年間目標値を 1200 件/年以上と掲げていただき、全部署で報告数増加に取り組んだ。報告数は 1688 件に達し前年度の約 1.7 倍に増加し、0～1 レベルは 1169 件（69.3%）、特に 0 レベルの報告数は前年度の 2.7 倍に増加した。転倒転落報告数は 243 件で、3b 以上のアクデントは 17 件（7.0%）、前年度（185 件中 5 件、2.7%）より増加した結果となり、有害事象発生防止のため更なる取り組みが必要である。

平成 28 年 10 月に発生した医療事故に関して、当初より院内医療事故調査委員会の開催を重ね、事故調査報告書の作成等に取り組み、5 月 31 日に報告書を提出した。医療事故調査制度に関わる死亡患者報告について、より確実な体制構築のため 5 月 1 日より死亡患者報告ワークフローシステムを導入した。

また、当院においても RRS(Rapid Response System：院内急変対応システム)導入に取り組み、10 月に RRS 立ち上げ導入プロジェクトチームを結成し、当院での導入体制について検討した。その結果を「唐津赤十字病院 RRS 体制について」にまとめ、救急看護認定看護師による研修会を実施し、次年度 4 月 1 日からの開始を目標に導入準備に取り組んだ。

更に、今年度の診療報酬改定により新設された医療安全対策地域連携加算 1 の取得を目指し、佐賀県医療センター好生館、医療法人松籟会河畔病院との連携に取り組んだ。好生館と当院間での相互評価を 11 月に実施し、当院から河畔病院への訪問評価を 3 月に実施した。

今後も患者、家族の立場で医療のリスクを考え、医療安全への取り組みを通して医療の質向上と信頼できる医療が提供できる病院を目指し、全職員で活動を推進していく。

【平成 30 年度　インシデント・アクシデント報告】

・インシデント・アクシデント報告件数

レベル	アクシデント	インシデント	合計
報告件数	60	1628	1688

・内容別報告件数

内容 項目	指示 伝達	薬剤 輸血	治療 処置	医療用具 ﾁｭｰﾌﾞ類	検査	療養上 の世話	転倒 転落	給食 栄養	その他
件数	130	493	154	276	140	77	243	53	122

・職種別報告件数

職種	医師	看護師	薬剤師	検査 技師	放射線 技師	栄養士 調理師	リハビ リ職	臨床工 学技士	事務	その他
件数	109	1374	33	27	28	17	6	53	12	29

【平成 30 年度 「広めよう！深めよう！安全対策」作成】

	部　署	事　例
6 月	薬剤部	「抗血栓作用のある」エパデールを中止せず手術延期
	6 階西	麻薬の誤投与
7 月	5 階西	中止薬の誤投与
8 月	救命救急センター	薬剤誤投与
	5 階東	術後患者の自己血 2 単位未実施
9 月	4 階西	内服薬の未投与
	リハビリテーション技術課	歩行時における左小趾からの出血
	外来	サーフロー留置針の抜針忘れ
10 月	栄養課	カーボカウントの患者さんへ献立表と違う食事を提供した
	4 階東	抗生剤の指示確認不足
12 月	手術室	術野での滅菌期限切れ物品の使用
	放射線技術課	放射性医薬品の発注ミスによる検査延期
	6 階東	バンコマイシンの過少投与
1 月	3 階西	薬袋からの取り忘れによる薬の与薬忘れ
2 月	臨床工学技術課	シリンジポンプ設定確認不足
	4 階南	セフメタゾール Na の過剰投与

6．感染管理室

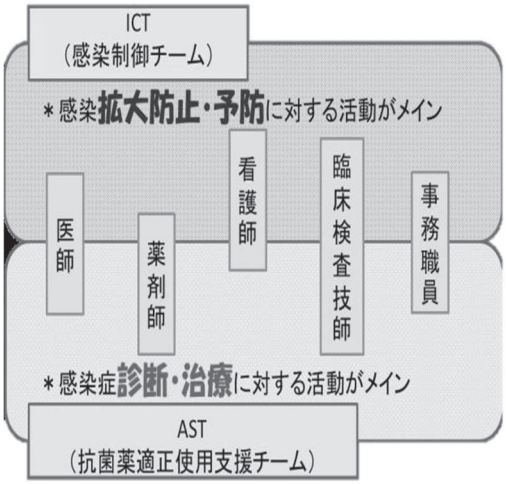
1．スタッフ紹介（平成 31 年 3 月 31 日現在）

感染管理室

室長（副院長）	宮原　正晴
臨床検査技師	川内　保彦
感染管理認定看護師（看護係長）	中山　美穂

院内感染対策チーム/抗菌薬適正使用支援チーム（ICT/AST）

副院長	宮原　正晴（ICT/AST 兼）
小児医師	阿部　淳（ICT/AST 兼）
内科医師	井上　周（ICT/AST 兼）
薬剤師	横田　智也（ICT/AST 兼）
	田渕　友梨（ICT/AST 兼）
	多幾　映里沙（ICT/AST 兼）
臨床検査技師	川内　保彦（ICT/AST 兼）
	井上　慎介（ICT 兼）
感染管理認定看護師	西原　三重（ICT/AST 兼）
	中山　美穂（ICT/AST 専任）
看護係長	熊本　弘美（ICT 兼）



2．委員会

院内感染対策委員会	毎月 1 回
臨時院内感染対策委員会	必要時
看護部感染対策委員会	毎月 1 回
衛生委員会	毎月 1 回

3．活動実績

院内感染対策委員会	計 12 回開催
ICT ラウンド/AST カンファレンス	週 1 回　計 50 回開催
滅菌物ラウンド	毎月 1 回/第 2 火曜日(委託業者同行)
感染防止対策加算 1 に係る相互評価	年 1 回(書類調査・訪問評価)

【院内研修会】

月　日	研修内容	講師	対象・参加人数
平成 30 年 4 月 4 日	感染管理 「感染対策の基本」 感染症法の届出及び 当院における耐性菌の検出状況	感染管理認定看護師 中山　美穂 臨床検査技師 川内　保彦	新規採用者 参加人数 25 名
平成 30 年 5 月 21 日	公開講演会 今日からできる感染管理～主役はあなた～	株式会社 SRL 学術担当 山中　喜代治　先生	医療従事者 参加人数 430 名
平成 30 年 10 月 10 日	ほほえみサロン がん治療法中の感染予防とインフルエンザワクチンの接種について	感染管理認定看護師 中山　美穂	がん患者・家族 参加人数
平成 30 年 11 月 19 日	公開講演会 AMR 対策について	AMR ﾘﾌｧﾚﾝｽｾﾝﾀｰ 藤友　結実子　先生	医療従事者 参加人数 340 名

【看護部対象の研修会】

月日	テーマ	対象、参加人数
平成 30 年 4 月 9 日	感染管理 感染対策の基本	看護部新規採用者 参加人数 16 名
平成 30 年 5 月 11 日	e-ラーニング スタンダードプリコーション(標準予防策)と経路別予防策 ～医療従事者に必須の感染対策の基礎～	リンクナース 参加人数 13 名
平成 30 年 8 月～適宜開催	感染管理 感染対策の基本	看護部復職者 参加人数 8 名(3 回実施)
平成 30 年 12 月 3 日	認定看護師会研修 尿路感染防止のための対策 ～その尿道留置カテーテルは本当に必要ですか？～	看護師 参加人数 21 名
平成 31 年 1 月 11 日～	ケアワーカー勉強会 破棄物の管理について	看護補助者・CW 参加人数 31 名(3 回実施)

【院内感染防止対策会議】　～5 病院参加～

月　日	会議の内容	開催場所
平成 30 年 5 月 21 日	各施設の MRSA 等薬剤耐性菌・微生物検出状況報告 麻疹対応について	唐津赤十字病院
平成 30 年 8 月 20 日	各施設の MRSA 等薬剤耐性菌・微生物検出状況報告 CRE 観戦による追加的医療資源量の推計について	唐津赤十字病院
平成 30 年 11 月 19 日	各施設の MRSA 等薬剤耐性菌・微生物検出状況報告 風疹患者発生に伴う注意喚起について	唐津赤十字病院
平成 31 年 2 月 18 日	各施設の MRSA 等薬剤耐性菌・微生物検出状況報告 風疹抗体検査・ワクチン接種の助成について	唐津赤十字病院

【院外研修会】

月　日	研修内容	講師	対象・参加人数
平成 30 年 6 月 29 日	平成 30 年度　感染管理室長会議 CRE アウトブレイク対策の振り返り	感染管理室 宮原　正晴	赤十字感染管理者 参加人数 73 名
平成 30 年 10 月 25 日	聴講実習 感染管理	感染管理認定看護師 中山　美穂	看護学生 参加人数 70 名
平成 30 年 11 月 10 日	佐賀県感染管理ネットワーク研修 急性期施設の耐性菌対策 ～CRE アウトブレイクからの学び～	感染管理認定看護師 中山　美穂	県内医療従事者

【感染対策評価】

月　日	内容	開催場所
平成 31 年 1 月 15 日	マニュアル等、書類による事前評価	済生会唐津病院
平成 31 年 1 月 23 日	感染防止対策地域連携加算チェック項目表を用いたラウンドによる評価	済生会唐津病院
平成 31 年 2 月 12 日	マニュアル等、書類による事前評価	唐津赤十字病院
平成 31 年 2 月 20 日	感染防止対策地域連携加算チェック項目表を用いたラウンドによる評価	唐津赤十字病院

【学会・研修会参加】

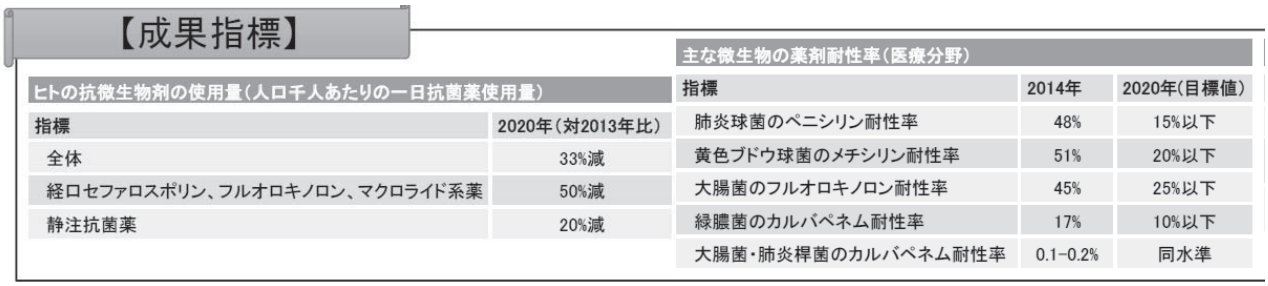
月　日	内容・開催場所	参加者
平成 30 年 6 月 29 日	平成 30 年度　感染管理室長会議 日本赤十字社本社	感染管理室 宮原　正晴
平成 30 年 8 月 23 日	佐賀県医師会医療安全対策（院内感染防止対策） 医療従事者研修 佐賀市文化会館	感染管理室 宮原　正晴 中山　美穂　他 3 名
平成 30 年 8 月 31 日	九州ブロックエイズ拠点病院出張研修会 佐賀県医療センター好生館	感染管理認定看護師 中山　美穂
平成 30 年 12 月 4 日	平成 30 年度　感染管理ネットワーク研修会 日本赤十字社本社	薬剤師　多幾　映里沙 看護師　藤岡　薫 臨床検査技師 徳田　英理子
平成 31 年 1 月 11・12 日	平成 30 年度　院内感染対策講習会 神戸国際会議場	医師 井上　周
平成 31 年 1 月 17・18 日	平成 30 年度　感染管理担当者会議 日本赤十字社本社	感染管理室 中山　美穂
平成 31 年 3 月 12 日	平成 30 年度 唐津東松浦地域感染症対策ネットワーク会議 唐津保健福祉事務所	感染管理室 宮原　正晴 中山　美穂
平成 31 年 3 月 14 日	平成 30 年度　エイズ対策連絡協議会 佐賀県庁	感染管理認定看護師 中山　美穂

4. この 1 年の歩み

平成 30 年度は、9 月に病院機能評価を受審し、「2.1.9 医療関連感染を制御するための活動を実践している」という項目において、感染性廃棄物の取り扱いについて不十分な点が見られるとして評価 C となり、マニュアルの見直し、職員への周知及び遵守を徹底するよう指摘を受けた。改善の取り組みを行い、改善報告の提出による追加の書類審査で無事に認定となったが、指摘を受けたことで、問題点が発見され改善活動に繋がり、病院として組織的に感染管理活動を実践してくれる職員の協力を力強く感じ、管理体制の構築ならびに、感染対策のへの組織風土の醸成に向けて継続的かつ組織的に活動を推進する年となった。

また、抗菌薬の不適切な使用を背景として、薬剤耐性菌が世界的に増加する一方、新たな抗菌薬の開発は減少傾向にあり、国際社会でも大きな課題として、2015(平成 27)年 5 月の世界保健総会で、薬剤耐性(AMR)に関するグローバル・アクション・プランが採択され、加盟各国は 2 年以内に薬剤耐性に関する国家行動計画を策定することが求められた。2016(平成 28)年 4 月、日本における AMR 対策アクションプランの医療分野における成果指標が提示されている≪図 1・表 1≫。

≪図 1　AMR 対策アクションプラン　成果指標≫



*主な微生物の薬剤耐性率：対象微生物検体中の耐性検体分離率(例；MRSA/S.aureus)

≪表 1　AMR 対策アクションプラン　成果指標　当院との比較≫

指標	2014 年全国 (平成 26 年)	2014 年当院	2020 年(目標値) (令和 2 年)
肺炎球菌のペニシリン耐性率	48%	25%	15%以下
黄色ブドウ球菌のメチシリン耐性率	51%	61%	20%以下
大腸菌のフルオロキノロン耐性率	45%	44%	25%以下
緑膿菌のカルバペネム耐性率	17%	11%	10%以下
大腸菌・肺炎球菌のカルバペネム耐性率	0.1-0.2%	0.2%	同水準

当院の入院患者における、耐性菌分離率*は≪表 2≫のように推移し、CRE は監視培養による検出が継続しているが、多剤耐性緑膿菌（MDRP)、多剤耐性アシネトバクター(MDRA)、バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)などの検出はなく、フルオロキノロン耐性大腸菌が多い傾向にある≪図 2≫。

≪表 2　耐性菌分離率(%)推移　平成 26～30 年度≫　*耐性菌分離率=分離患者数/検体提出患者数

	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)	0.33	0.21	0.36	0.36	0.57
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)	10.96	5.70	6.31	6.34	5.79
フルオロキノロン耐性大腸菌	8.02	11.83	11.89	6.16	6.17
カルバペネム耐性緑膿菌	0.87	0.72	0.52	0.48	0.64
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)	0.33	2.55	2.74	1.21	0.64
第 3 世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌	1.07	1.49	0.67	0.42	0.25
第 3 世代セファロスポリン耐性大腸菌	1.27	3.32	2.84	1.21	2.16

(院内感染対策サーベイランス事業：JANIS 集計引用)

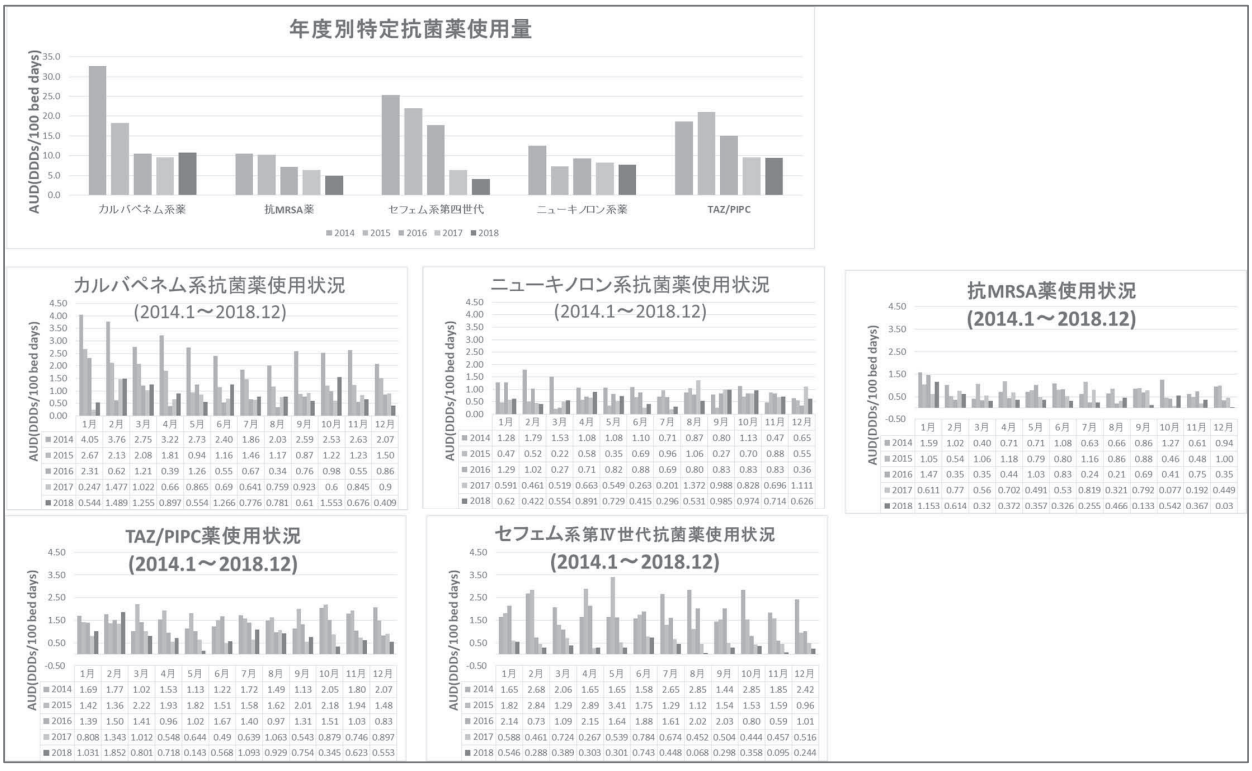
≪図 2　耐性菌分離率全国比較　平成 29(2017)・30(2018)年度≫

	自施設過去12ヶ月の分離率＋§	全体の分離率(2016年)¶	集計対象医療機関の分離率(2016年)と自施設過去12ヶ月の分離率の比較	自施設過去12ヶ月の分離率＋§	全体の分離率(2017年)¶	集計対象医療機関の分離率(2017年)と自施設過去12ヶ月の分離率の比較
検体提出患者数*						
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)	6.34%	6.25%	0.78 6.18 38.41	5.79%	6.19%	1.09 6.16 53.04
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)	0.00%	0.00%	0.00	0.00%	0.00%	0.00
バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)	0.00%	0.02%	0.00 0.00 2.75	0.00%	0.03%	0.00 0.00 1.53
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)	0.36%	0.58%	0.00 0.39 9.42	0.57%	0.53%	0.00 0.37 8.44
多剤耐性緑膿菌(MDRP)	0.00%	0.06%	0.00 0.00 4.72	0.00%	0.05%	0.00 0.00 3.44
多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)	0.00%	0.01%	0.00 0.00 2.47	0.00%	0.00%	0.00 0.00 2.71
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)	1.21%	0.29%	0.00 0.15 5.11	0.64%	0.28%	0.00 0.13 4.98
カルバペネム耐性緑膿菌	0.48%	0.80%	0.00 0.63 15.23	0.64%	0.74%	0.00 0.56 30.91
第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌	0.42%	0.36%	0.00 0.18 11.54	0.25%	0.37%	0.00 0.20 8.66
第三世代セファロスポリン耐性大腸菌	1.21%	2.14%	0.00 2.04 22.98	2.16%	2.29%	0.00 2.21 23.26
フルオロキノロン耐性大腸菌	6.16%	3.84%	0.00 3.95 31.84	6.17%	4.09%	0.00 4.24 32.93

(院内感染対策サーベイランス事業：JANIS 還元情報 改編)

平成 27 年 5 月のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)アウトブレイクを経験し、院内感染対策チーム(ICT)で抗菌薬適正使用について活動は行っていたが、平成 30 年の診療報酬改定において抗菌薬適正使用支援加算が新設され、ICT 兼任で平成 30 年 4 月に抗菌薬適正支援チーム(AST)を立ち上げ、「適切な抗菌薬」を「必要な場合に限り」、「適切な量と期間」使用することを徹底するための活動を展開している。年度別特定抗菌薬使用量は≪図 3≫のように推移し、カルバペネム系薬の使用は血液内科もあることで変動はあるが、著明に減少しているのが見て取れる。

≪図 3　年度別特定抗菌薬使用量推移・各特定抗菌薬使用状況≫



ICT から AST として活動するにあたり、介入症例を血液培養陽性・特定抗菌薬長期使用患者と明確にして、4 月～12 月の血液培養陽性 189 件、特定抗菌薬使用者延べ 227 名に介入し、菌血症、カンジダ眼内炎への早期対応・抗菌薬適正使用や選択に繋がっている。また、医師が回診記録を残すことで、活動が可視化され AST 活動の認知にも繋がっていると考える。

次年度も活動内容が算定条件から逸脱しないように、各部署の協力と理解を得て、積極的に活発な活動を行っていきたい。そして今後も抗菌薬適正使用にむけてより積極的に介入していくことで、院内のみならず地域の医療機関へ抗菌薬の適正使用に向けた啓蒙に繋げ、モデル行動を示していけるのでないかと考える。

7.教育研修推進センター

1.スタッフ紹介（平成 31 年 3 月 31 日現在）

責任者	センター長	橋本　重正
配属職員	医療社会事業課長	入江　富美夫
〃	医療社会事業課主事	上瀧　達也

2．業務内容（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

1）研修医に関すること

（1）臨床研修（基幹型・協力型）病院の関係書類作成

① REIS 入力　4 月 30 日までに必須（九州厚生局提出）

平成 29 年度の実績、平成 30 年度指導体制などの入力

・唐津赤十字病院の情報・実績

・協力病院（松籟病院・虹と海のホスピタル）の情報・実績

・協力施設（唐津市民病院きたはた・脇山内科・久保田産婦人科麻酔科病院・唐津市馬渡島診療所・唐津市小川島診療所・唐津市加唐島診療所・佐賀県赤十字血液センター）の情報・実績

② 九州厚生局・佐賀大学・九州大学・日本赤十字社へ研修の実績等の書類作成・提出

③ EPOC 画面への研修医登録と指導医割付

（2）医師臨床研修マッチング参加を申込スケジュールに沿って申し込み実施

・初期研修医 応募受付・面接試験準備

4 名の面接実施

（3）次年度研修医募集のプレゼンテーション参加

・九州大学医学部　初期研修プログラム説明会（橋本部長・入江・上瀧）

・レジナビフェア　臨床研修説明会（橋本部長・入江・上瀧）

・佐賀大学医学部　初期臨床研修プログラム説明会（橋本部長）

（4）2 年次研修医の院外研修に関する契約

・佐賀大学医学部付属病院・松籟会病院・馬渡島診療所・唐津民病院きたはた
佐賀県赤十字血液センター

（5）研修医勉強会（1 回／2 週間）企画・準備等

（6）研修医の評価　EPOC 評価入力の依頼及び確認

（7）指導医養成ワークショップ受講に関する手続き

（8）臨床研修委員会開催（院内・院外合同 1 回）

（9）病院見学者（18 名）の受付・対応

・佐賀大学 14 名・九州大学 2 名・久留米大学 1 名・長崎大学 1 名

2）臨床研修の企画・実施に関すること

（1）地域枠入学生特別プログラム実習（１年生２名、３日間）受け入れ計画・準備

3）施設認定申請手続きに関すること

日本専門医機構　専門研修プログラム連携施設認定申請書の作成補助（九州大学・佐賀大学）

4）院内の教育研修に関すること

（1）職員研修委員会開催（新任管理者研修会、秋期接遇研修会）

（2）新採用者研修会企画、準備、進行、終了後のアンケート集計

3．この一年のあゆみ

教育研修推進センターの業務内容は上述のように多岐にわたります。

まず、初期臨床研修に関して報告します。当院は、言うまでもなく佐賀県北における急性期医療の分担という重要な役割を担っておりますが、初期臨床研修においても基幹型施設（1 年次 4 名）および協力型施設（同 5 名）となっています。当院での臨床研修を盛んにすることは、県内で医師を養成するといった意味合いからも大事ですし、研修医の存在が病院全体に良い刺激を与え、院内の活性化に繋がるという点でも重要です。

初期研修医増員に関しては、各種研修説明会に橋本、入江・上瀧が出席し、当院における研修の特徴を説明しました。この際には、研修医にも協力頂きました。今後も皆様のご意見を参考に当院の良さをアピールする機会を増やしたいと思います。

今後とも院内各分野、各職にご助言、ご支援をよろしくお願いします。

8．救命救急管理センター

1．スタッフ紹介　（平成 31 年 3 月 31 日現在）

センター長	中島　厚士（兼）
医療社会事業課長	入江　富美夫（兼）
医療社会事業課主事	上瀧　達也（兼）

2．業務内容

1）救急・ICU 委員会開催　　毎月 1 回（第 3 金曜日）

2）救命救急センター入院台帳、ER　Data　Base 入力

・救命救急センターの充実段階調査報告

（救命救急センターの状況、充実段階評価、年間重篤患者数　等）

・小児救急医療体制の現状調査報告

3）会議の連絡調整

・佐賀県医療機関情報・救急医療情報システム（９９さがネット）

・佐賀県メディカルコントロール関係

・長崎県ドクターヘリ症例検討部会

・日本赤十字社救急医療担当者会議

4）救急救命士との話し合い開催

5）AHA－BLS コース、ACLS 研修等の受講案内

3．この一年の歩み

地域救命救急センター開設から、今年で 10 年目となり、佐賀県の救命救急センターは、重度熱傷対応を備えた佐賀県立病院好生館と佐賀大学医学部附属病院、地域型の NHO 嬉野医療センターと当院の 4 病院があります。平成 29 年度実績に基づく平成 30 年度救急救命センター充実度段階評価は、４病院ともに A 評価を頂きました。

救命救急センターを管理していくうえでの課題は、ベッドコントロールです。当院は地域医療支援病院の機能もあり、ご紹介のあった方々は、是が非もなく受入れるべきであろうと考えております。しかし、後方（一般）病床が空かないと、救命センターの安定した患者さん達が移動できず、救命センターが満床かそれに近い状態となれば、安心して急患の受入が出来なくなります。皆様のご理解・ご協力で救急医療が成り立っております。

また、当院医師と唐津市消防の救急救命を交えての意見交換会を開き、地域での救急医療のあり方について考える機会を頂きました。日頃のご協力に感謝いたすと共に、地域の中で救命救急センターの役割を十分果たしていく所存でございます。今後とも、お力添えいただきますようお願い申し上げます。

９．がん医療推進センター

１．スタッフ紹介（平成 31 年 3 月 31 日現在）

センター長：第一外科部長　鮫島　隆一郎（兼）
看　護　師：牧原　りつ子（兼）神谷　和子（兼）　稲堂丸　眞美（兼）
事　　務：内田　敦子（兼）　堤　多磨子（兼）
社会福祉士：岩田　亜衣（兼）　肘井　和樹（兼）　柿木　伸也（兼）　松尾　あすみ（兼）
心理相談員：古館　麻美子

２．業務内容

１）委員会開催

・ がん診療連携拠点病院運営委員会　　12　回
・ がん化学療法委員会　　10　回

がん化学療法レジメン審査承認数

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
0	1	0	0	0	2	2	0	1	0	0	4	10

２）院内がん登録状況（経営企画・情報課　参照）

３）講演会、研修会等の開催について

● 市民公開講座

月日	場所	内容	参加人数
平成 30 年 11 月 11 日（日）	唐津赤十字病院 佐野講堂	テーマ：「もっと知りたい！唐津で受けられる最新のがん診療Ｐａｒｔ２」 司会：唐津赤十字病院 　がん医療推進センター長　鮫島　隆一郎 講演Ⅰ「肺がんについて」呼吸器外科部長　小島勝雄 講演Ⅱ「膵がんについて」第１外科副部長　神谷尚彦 講演Ⅲ「口腔がんについて」歯科口腔外科部長　林田淳之介	計 173 名

● 緩和ケア研修会（対象：医師を中心とした院内・院外医療従事者）

月日	場所	内容	参加人数
平成 30 年 8 月 25 日(土)・ 26 日(日)	唐津赤十字病院 佐野講堂	厚生労働省のがん対策推進基本計画において「すべてのがん診療に携わる医師が研修等により、緩和ケアについての基本的な知識を習得する」ことを目標とすることが閣議決定された。これを受け、地域がん診療連携拠点病院として緩和ケア研修会を実施したものである。	受講者　26 名 院内医師　8 名 院外医師　6 名 院内医師以外 9 名 院外医師以外 3 名

● 特別講演会（対象：院内・院外医師）

月日	場所	内容	参加人数
平成 30 年 6 月 5 日（火）	唐津赤十字病院 佐野講堂	「泌尿器科癌の診断と最新治療」 佐賀大学医学部　泌尿器科 教授　野口満　先生	院内 57 名 院外 22 名 計 79 名

● 公開講演会（対象：院内・院外医療従事者）

月日	場所	内容	参加人数
平成 31 年 2 月 1 日（金）	唐津赤十字病院 佐野講堂	「ここまで進んだがん薬物療法～免疫療法の光と影～」 帝京大学医学部附属病院腫瘍内科 病院教授　関順彦先生	院内 59 名 院外 39 名 計 98 名

● 緩和ケア勉強会（対象：院内・院外医療従事者）

月日	場所	内容	参加人数
平成 31 年 2 月 25 日（月）	唐津赤十字病院 佐野講堂	「疼痛コントロールに難渋しＡＤＬが低下した患者の想いに寄り添った退院支援～多職種で『家に帰れる』という希望を支える～」 泌尿器科部長明利浩行 5階東病棟看護師古賀悠記子 「難治性がん疼痛に対する『クモ膜下鎮痛法』について～終末期がん患者の在宅看取りができた事例～」 医療法人松籟会河畔病院 緩和ケア部長　前里喜一先生	院内 51 名 院外 36 名 計 87 名

4）がん地域連携パス

● 運用件数

		がんパス別運用件数						
	運用総数	胃がん	大腸がん	食道がん	肝がん	乳がん	肺がん	前立腺がん
平成 28 年度	19	9	7	0	2	0	0	1
平成 29 年度	53	23	26	0	2	1	0	1
平成 30 年度	20	7	9	0	1	1	0	2

5）緩和ケア

● 緩和ケア外来：　週 2 回　火曜日(13:00～16:00)、金曜日(9:00～13:00)

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
緩和外来受診者のべ数/年	94	172	94

● 緩和ケアチーム

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
緩和ケアチーム 新規依頼件数 /年	94	107	114

・緩和ケアチームカンファレンス：49 回(火曜日 1 回/週 開催)

・緩和ケアチームラウンド件数： 977 件（2 回/週 火曜日、金曜日）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11 月	12月	1 月	2 月	3 月	合計
平成29年度	59	47	53	53	68	81	114	94	80	70	68	85	872
平成30年度	92	46	79	77	83	81	126	77	77	65	77	97	977

6）がん相談支援センター

● がん相談とがん以外相談延べ人数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11 月	12月	1 月	2 月	3 月	合計
がん相談	138	119	125	121	170	132	159	138	206	120	182	166	1,776 (20%)
がん以外相談	466	512	530	505	638	444	578	661	623	672	694	779	7,102 (80%)
合計	604	631	655	626	808	576	737	799	829	792	876	945	8,878

7）がん患者サロン「ほほえみサロン」（毎月第 2 水曜日、13：00～14：30）

	平成３０年度活動内容	参加人数
4 月	知って安心！ 医療用麻薬は怖くない！ ＊ほほえみガーデン お花の手入れ	8
5 月	知って安心！ 『セカンドオピニオン』の上手な利用方法	5
6 月	アロマ・ハンドマッサージでリラックス	１５
7 月	認定看護師からのお話 シリーズ①「抗がん剤治療について」	１１
8 月	ここが知りたい！ がん治療中の食事「なごみ食」の紹介とご自宅で出来る食事の工夫	１３
9 月	知って安心！ 転ばぬ先の杖 ロコモ体操	9
10 月	認定看護師からのお話 シリーズ② 「がん治療中の感染予防とインフルエンザワクチンの接種について」	１４
11 月	認定看護師からのお話 シリーズ③「スキンケアについて」 ＊ほほえみガーデン お花の手入れ	7
12 月	認定看護師からのお話 シリーズ④ 「放射線治療について」	7
1 月	ここが知りたい！ 治療中の外観ケア 元気に見えるメイクのコツ！ ～脱毛ケアのあれこれ～	9
2 月	ここが知りたい！ 腫瘍マーカーってなに？～検査値の見かたについて	１４
3 月	教えて！ 治療と職業生活の両立支援について	１２

３．この一年のあゆみ

がんパス運用件数は 20 件で、前年度 53 件から大幅に減少した。がん診療連携拠点病院運営委員会にて検討し、パス対象患者のピックアップや外来担当医への事前アナウンスを強化していくこととした。

市民公開講座は、テーマ「もっと知りたい！唐津で受けられる最新のがん診療 Part 2」とし、当院の医師が市民に分かりやすくがん診療を伝えることができ、173 名の参加者がありアンケート結果からも好評であった。佐賀県健康増進課の協力を得て、がん予防、がん健診推進を PR することができた。

がん患者会「ほほえみの会」は、平成 30 年 1 月から名称をがん患者サロン「ほほえみサロン」と変更し、開催日を第 2 土曜日から第 2 水曜日（13 時～14 時 30 分）へ変更し開催している。効果的なポスター作成と入院患者さんへの声掛けなどを強化し、参加総数は平成 28 年度 43 名、平成 29 年度は 67 名、平成 30 年度は 124 名と大幅な増加を認めている。

がん患者の苦痛のスクリーニング「生活のしやすさの質問票」は、これまでは外来のみで実施していたが、入院患者にも導入することができた。緩和ケアチームへの新規介入依頼も増加した。早期からの緩和ケアの導入と入院から退院後の生活も見据えた、緩和ケアの質の向上に努めている。

10. 患者総合支援センター

1．スタッフ紹介（平成 31 年 3 月 31 日現在）

患者総合支援センター室長：放射線科部長　眞武　邦茂（兼）
看　護　師：神谷　和子（兼）　牧原　りつ子（兼）　稲堂丸　眞美（兼）
事　　務：内田　敦子（兼）　堤　多磨子（兼）
社会福祉士：岩田　亜衣（兼）　肘井　和樹（兼）　柿木　伸也（兼）　松尾　あすみ（兼）
事務(嘱託)：菊池　順子　　中嶋　香織（兼）　日高　純子（兼）　　古藤　真理子

2．業務内容

1）紹介率、逆紹介率　（紹介率 65%以上逆紹介率 40%以上）

	紹介率	逆紹介率
平成 28 年度	83.9%	64.1%
平成 29 年度	84.7%	58.4%
平成 30 年度	81.3%	59.5%

2）医療機器共同利用数、共同病床利用数

・医療機器共同利用数

	CT	MRI	RI	血管造影	治療	超音波	その他	合計
平成 28 年度	92	78	111	5	34	7	4	331
平成 29 年度	133	91	128	2	60	7	3	424
平成 30 年度	274	276	159	1	57	12	6	785

・共同病床利用数

	共同病床利用患者数	利用日数
平成 28 年度	8	68
平成 29 年度	10	194
平成 30 年度	9	103

} 1 人の患者が入退院を繰り返された

3）研修会開催

・紹介症例報告会

開催日	内容	参加人数
平成 30 年 5 月 29 日（火）	地域医療支援病院紹介症例報告会 ◆紹介症例報告　　0 件 ◆トピックス 演題：「脆弱性骨盤骨折と肩関節腱板断裂について」 演者：唐津赤十字病院　整形外科　堀田　謙介　先生 座長：唐津赤十字病院　副院長　宮原　正晴	院内 59 名 院外　7 名 計 66 名
平成 30 年 7 月 24 日(火)	地域医療支援病院紹介症例報告会 ◆紹介症例報告　　1 件 ◆トピックス 演題：「学校心臓検診の役割とその貢献」 演者：唐津赤十字病院　小児科部長　田代克弥　先生 座長：唐津赤十字病院　副院長　宮原　正晴	院内 40 名 院外 11 名 計 51 名
平成 30 年 9 月 25 日(火)	地域医療支援病院紹介症例報告会 ◆紹介症例報告　　2 件 ◆トピックス 演題：「加齢と眼科疾患」 演者：　唐津赤十字病院　眼科医師　緒方正虎　先生 座長：唐津赤十字病院　放射線科部長　眞武　邦茂	院内 37 名 院外 12 名 計 49 名
平成 30 年 11 月 27 日(火)	地域医療支援病院特別講演会 【特別講演】 演題：「痛みとしびれの漢方治療」 演者：平田ペインクリニック　平田道彦　先生 座長：唐津赤十字病院　院長　志田原　哲	院内 48 名 院外 25 名 計 73 名
平成 31 年 1 月 29 日(火) シーサイドホテル「虹の間」	地域医療支援病院特別講演会 【特別講演】 演題：「ＩＶＲ（画像下治療）の最近の動向」 演者：九州大学大学院医学研究院 先進画像診断・低侵襲治療学共同研究部門 教授　浅山　良樹　先生 座長：唐津赤十字病院　放射線科部長 患者総合支援センター長　　眞武　邦茂	院内 23 名 院外　4 名 計 27 名
平成 31 年 3 月 26 日(火)	地域医療支援病院紹介症例報告会 ◆紹介症例報告　　2 件 ◆トピックス 演題：「化学療法施行中の進行肺癌患者に対するリハビリテーション」 演者：唐津赤十字病院 リハビリテーション技術課 伊藤真也 先生 演題：「呼吸器外科手術・最新の動向と当科における術式選択」 演者：唐津赤十字病院　呼吸器外科部長　小島　勝雄　先生 座長：唐津赤十字病院　副院長　宮原　正晴	院内 38 名 院外　5 名 計 43 名

・ＰＦＭ研修会

平成 30 年 5 月 30 日(水)	「ＰＦＭの概要及び導入について」 事務部長　池田隆雄 「ＰＦＭ院内伝達研修」 患者総合支援センター師長　牧原りつ子	院内 137 名
平成 31 年 1 月 25 日	「急性期病院の入退院支援」 看護部主導の病床管理システム・外来から始める入退院支援 慈恵医大付属柏病院　前看護部長　柳澤美津代先生	院内 137 名

4）救急患者数

	救急用又は患者輸送用自動車により搬入した救急患者の数	左記以外の救急患者の数	計
平成 28 年度	1,979 人（1,208 人）	5,350 人（ 776 人）	7,329 人(1,984 人)
平成 29 年度	2,200 人（1,249 人）	14,668 人(890 人)	16,868 人(2,139 人)
平成 30 年度	2,097 人（1,256 人）	14,331 人(1,093 人)	16,428 人(2,349 人)

（　　）内は、それぞれの患者数のうち入院を要した患者数を示す

5）地域連携

・ 佐賀県診療録地域連携システム利用状況

	登録医療機関数	登録者数
平成 28 年度	31	77
平成 29 年度	45	381
平成 30 年度	57	423

6）委員会開催

・ 地域医療支援病院委員会　　1 回　（書面での実績報告 1 回　　計 2 回/年）

・ 病床運営委員会　　なし

7）相談業務

ケース人数

ケースの区分	実人数
年度実人数	1,868 人

年度延べ人数

ケースの区分	延人数
年度延人数	8,885 人

新規ケースの紹介経路

区分	実件数
医師	721 件
看護職	658 件
院内職員	39 件
本人	74 件
家族・親戚縁者	76 件
院外関係機関	360 件
近隣者・知人	0 件
ソーシャルワーカー	165 件
合計	2,093 件

介入の時期

区分	実人数
受診	54 人
外来継続	308 人
入院時	390 人
入院継続	441 人
退院期	853 人
その他	47 人
合計	2,093 人

援助方法

方法		延件数
面接	本人	1,962 件
	家族・親戚縁者	1,447 件
電話	本人	37 件
	家族・親戚縁者	784 件
訪問	家族・親戚縁者	1 件
	その他	2 件
同行・同伴・代行		1 件
文書・FAX		1,014 件
情報収集		862 件
院内協議・院内カンファレンス		7,304 件
院外協議・院外カンファレンス		6,082 件
合同カンファレンス		29 件
合計		19,525 件

相談援助内容

内容	延件数
家族関係に関すること	398 件
在宅介護・地域生活に関すること	2,461 件
療養生活に関すること	1,730 件
経済的問題に関すること	518 件
就労・職場環境に関すること	39 件
就学・教育環境に関すること	9 件
虐待・暴力・人権に関わること	30 件
受診・受療に関すること	402 件
転院に関すること	4,006 件
他施設利用に関すること	889 件
心理・情緒的問題に関すること	42 件
他福祉関係法利用に関すること	1,173 件
その他	2 件
合計	11,699 件

8）退院支援

・退院支援加算２の算定件数、退院調整看護師、MSW と共に、各病棟に週１回出向き退院支援カンファレンスを実施。カンファレンス所要時間 30 分～1 時間。

H28 年度　退院支援加算 2　算定件数	717 件/　年
H29 年度　〃　〃	1188 件/　年
H30 年度　入退院支援加算 2　入退院支援加算 1	931 件/　年　939 件/　年

(H30 年度は 11 月より入退院支援加算 1 取得)

３．この一年のあゆみ

平成 30 年度は、更なる連携の強化と医療の質の向上をめざすというビジョンが掲げられた。病院全体で、地域救命救急センターとして救急車からの要請は断らない、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院として開業医からの紹介は断らないこととして取り組み、平成 30 年度の紹介率 81.3%、逆紹介率 59.5%と地域医療支援病院としての承認要件は達成できた。院内広報誌「患者総合支援センターだより」に、不応需事例を掲載し、受け入れ不可事例の情報を院内職員へ発信し共有した。救急医療提供実績は、平成 29 年度 16.868 人から平成 30 年度 16.428 人と 440 人減っていた。

佐賀県診療録地域連携システムピカピカリンクは、平成 30 年度までの累計数は、連携機関 57 施設と前年度より 9 施設増となり、登録患者数 1,338 名であった。平成 30 年度の登録患者数は 423 名で、前年度より 42 名増加した。現在、当院の開示情報は処方、注射、検体検査、放射線画像、サマリービューに限られている。令和元年度は佐賀県より ICT 医療連携推進事業費として開示情報拡充補助が、正式に決定すれば開示情報拡大の予定である。さらなる利用推進と連携医療機関とのスムーズな連携に努めていく。

佐賀県北部医療圏では、「退院支援ルール」の運用から 3 年目となり、院内の退院支援の更なる強化を目標に掲げ、ケアマネジャーや他職種との退院前カンファレンスを行い情報共有し、退院後も自宅で安心して生活できることを目指した。病棟看護師とも協働し、退院支援加算 2 算定件数は平成 29 年度 1,188 件、平成 30 年 11 月より入院支援加算 1 を取得できた。平成 30 年度の実績数は 1,870 件と実績を上げることができた。

平成 30 年度は、相談延人数が 8,885 人で前年度から大きく増加している。相談援助調整内容別では、「在宅介護・地域生活に関すること」「転院に関すること」「他施設利用に関すること」が全体の約 6 割を占め、なかでも「在宅介護・地域生活に関すること」の相談援助調整件数は、昨年度から約 3 倍に増加した。

社会福祉士増員や入院前支援担当者配置により、入退院支援体制を強化し、入院前から退院後の生活を見据えた支援に取り組み、院内外多職種での退院前カンファレンスも積極的に行うことができている。令和元年度は、入退院支援を強化し患者・家族が安心して過ごすことができるよう取り組んでいく。

11. 疾病予防センター

1．スタッフ紹介（平成 31 年 3 月 31 日現在）

疾病予防センター長　　茨木　一夫
主事　　林　三樹子
常勤嘱託事務員　　平松　佳子

○平成 30 年度　健診及び人間ドック受診者数

健　診	人　数	人間ドック	人　数
船員生活習慣病 予防健診	31 名	1 泊 2 日人間ドック	63 名
事業所健診	13 名	1 泊 2 日人間ドック ＋脳ドック	15 名
被爆者定期健診	1 名	日帰り人間ドック	281 名
被爆者がん健診	0 名	日帰り人間ドック ＋脳ドック	94 名
被爆者 2 世健診	5 名	JR 日帰り人間ドック	10 名
じん肺・石綿健診	26 名	一日ドック	197 名
その他健診	6 名	脳ドック	19 名
合　計	82 名	合　計	679 名

人間ドック平成 30・29・27 年度比較

人間ドック種類	H30 年度		H29 年度		H27 年度		H30-H27	
	人数	収入	人数	収入	人数	収入	人数	収入
1 泊 2 日＋脳ドック	63	5,443,200	47	4,060,800	48	4,147,200	15	1,296,000
1 泊 2 日人間ドック	15	962,400	6	384,960	25	1,604,000	(10)	(641,600)
脳ドック	19	743,280	28	1,095,360	23	899,760	(4)	(156,480)
日帰りドック＋脳ドック	59	3,816,720	45	2,916,000	14	907,200	45	2,909,520
日帰りドック＋脳ドック＋前立腺がん	23	1,550,810	12	815,880	12	815,880	11	734,930
日帰りドック＋脳ドック＋乳・子宮がん	7	527,170	9	677,790	0	0	7	527,170
日帰りドック＋脳ドック＋乳がん	5	354,910	5	358,150	9	644,670	(4)	(289,760)
日帰りドック	189	7,076,160	114	4,309,200	57	2,154,600	132	4,921,560
日帰りドック＋前立腺がん	39	1,591,050	18	737,820	16	655,840	23	935,210
日帰りドック＋乳・子宮がん	26	1,248,500	25	1,207,750	10	483,100	16	765,400
日帰りドック＋乳がん	23	1,026,490	13	580,190	6	267,780	17	758,710
日帰りドック＋子宮がん	4	163,220	4	165,920	3	124,440	1	38,780
ＪＲ日帰りドック	9	406,350	12	541,800	5	225,750	4	180,600
JR 日帰りドック＋乳・子宮がん	1	55,660	2	111,320	1	55,660	0	0
JR 日帰りドック＋乳がん	0	0	0	0	0	0	0	0
JR 日帰りドック＋子宮がん	0	0	0	0	1	48,830	(1)	(48,830)
一日ドック	108	4,347,216	79	3,120,974	62	2,449,372	46	1,897,844
一日ドック＋女性Ａ	0	0	0	0	39	1,950,624	(39)	(1,950,624)
一日ドック＋女性Ｂ	50	2,354,100	20	926,720	8	370,688	42	1,983,412
一日ドック＋女性Ｃ	30	1,317,960	41	1,770,626	6	259,116	24	1,058,844
一日ドック(眼底カメラなし)	9	390,978	5	213,480	0	0	9	390,978
「MRＩ・MRAオプション」		783,000		567,000		259,200		523,800
人間ドックオプション		2,085,870		1,731,250				2,085,870
合　　計	679	36,245,044	485	26,292,990	345	18,323,710	334	17,921,334

※　受診者　334 名　増

※　収入　17，921，334 円　増

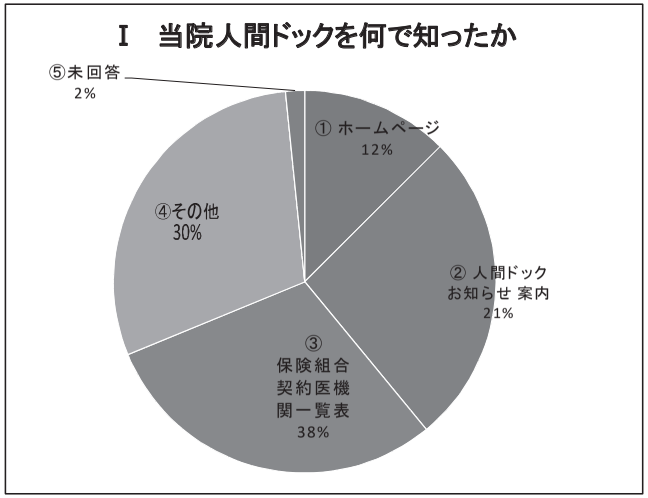
※平成 28 年度は、病院移転により一定期間実施していないため、平成 27 年度と比較

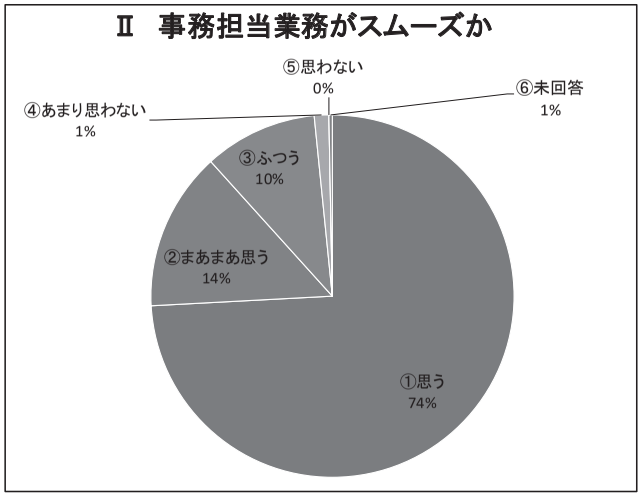
人間ドックアンケート集計表（平成 30 年度）

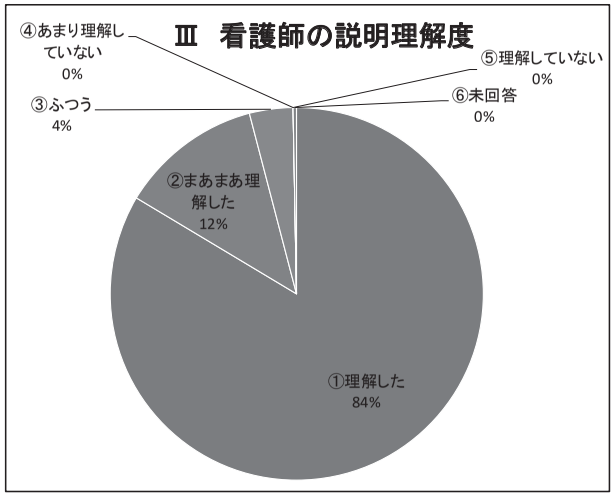
615 名回答者 /679 名受診者

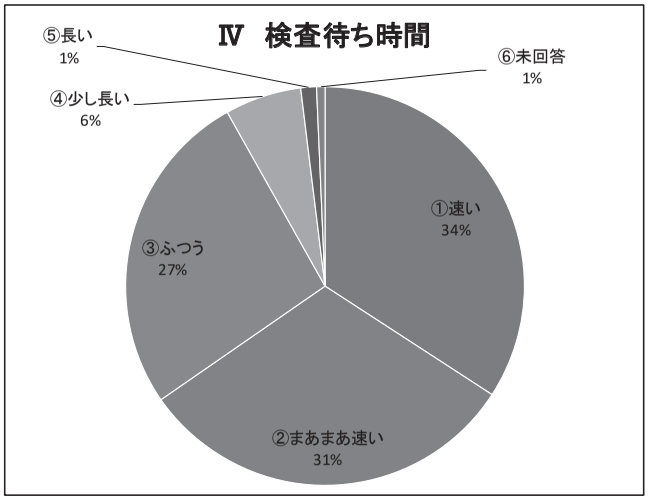
Ⅰ	○ 弊院の人間ドックを何で、お知りになりましたか。						
	① ホームページ	②人間ドックお知らせ案内	③保険組合契約医療機関一覧表	④その他		⑤未回答	計
	77	163	183	182		10	615
Ⅱ	○ 人間ドック事務担当業務の流れについて、スムーズだと思われましたか。						
	①思う	②まあまあ思う	③ふつう	④あまり思わない	⑤思わない	⑤未回答	計
	456	87	62	8		2	615
Ⅲ	○看護師の説明は、よく理解されましたか。						
	①理解した	②まあまあ理解した	③ふつう	④あまり理解していない	⑤理解していない	⑤未回答	計
	514	76	23			2	615
Ⅳ	○ 検査待ち時間は、どうでしたか。						
	①速い	②まあまあ速い	③ふつう	④少し長い	⑤長い	⑤未回答	計
	210	192	163	38	8	4	615
Ⅴ	○ 検査スタッフの対応は、どうでしたか。						
	①大変良い	②まあまあ良い	③ふつう	④あまり良くない	⑤良くない	⑤未回答	計
	427	153	32	2	1		615
Ⅵ	○ 人間ドックの検査項目は満足されましたか。						
	①大変満足	②まあまあ満足	③ふつう	④あまり満足しない	⑤満足しない	⑤未回答	計
	309	237	61	1		7	615
Ⅶ	○医師の人間ドック検査結果説明について、満足されましたか。						
	① 大変満足	②まあまあ満足	③ふつう	④あまり満足しない	⑤満足しない	⑤未回答	計
	402	175	36	1		1	615
Ⅷ	○ 医師の人間ドック検査結果説明について、理解されましたか。						
	①理解した	②まあまあ理解した	③ふつう	④あまり理解していない	⑤理解していない	⑤未回答	計
	466	135	13			1	615
Ⅸ	○ 人間ドックの院内の食事はいかかでしたか。						
	①大変美味しい	②まあまあ美味しい	③ふつう	④あまり美味しくない	⑤美味しくない	⑤未回答	計
	75	63	41	4		432	615

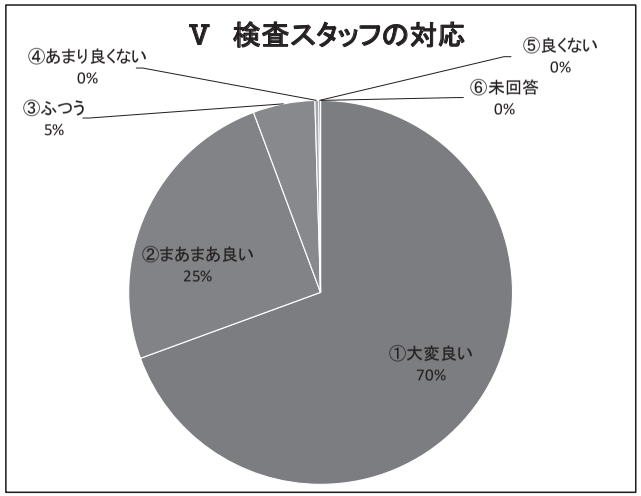
人間ドックアンケート集計円グラフ（平成30年度） アンケート協力者615名/679名受診者

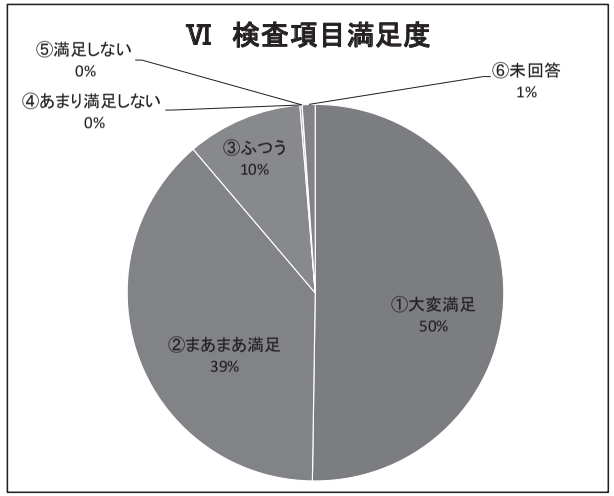


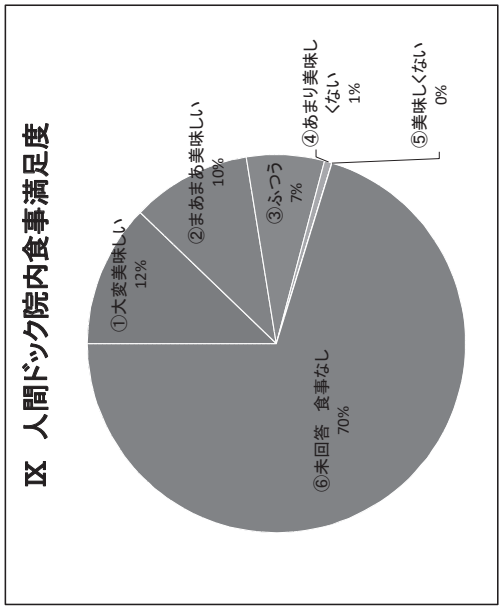


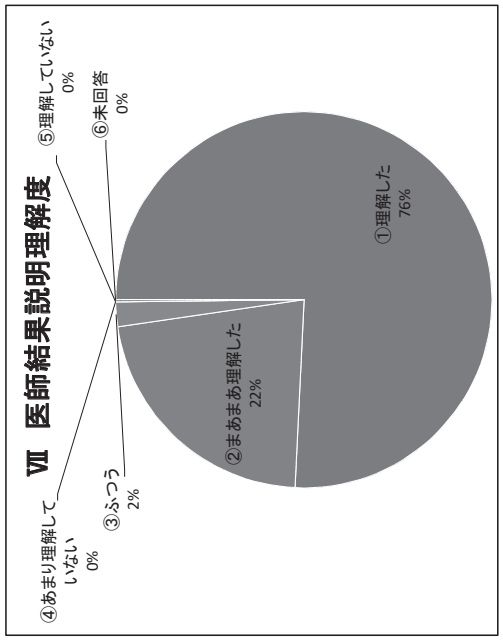


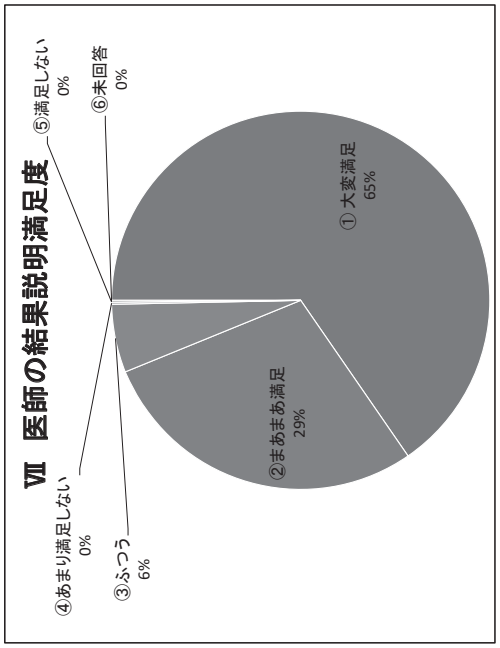







Ⅸ 人間ドック院内食事満足度
①大変美味しい 12%
②まあまあ美味しい 10%
③ふつう 7%
④あまり美味しくない 1%
⑤美味しくない 0%
⑥未回答 食事なし 70%


Ⅶ 医師結果説明理解度
①理解した 76%
②まあまあ理解した 22%
③ふつう 2%
④あまり理解していない 0%
⑤理解していない 0%
⑥未回答 0%


Ⅶ 医師の結果説明満足度
① 大変満足 65%
②まあまあ満足 29%
③ふつう 6%
④あまり満足しない 0%
⑤満足しない 0%
⑥未回答 0%

12. 経営対策室

１．スタッフ紹介（平成 31 年 3 月 31 日現在）

室長（兼務）　　宮原　正晴（本務 副院長）
係長（兼務）　　髙嵜　一郎（本務 事務部係長）
主　　事　　結城　健
主　　事　　福本　望

２．この一年の動き

【委員会開催・参加】

≪開催≫

・手術室運営委員会　3 回

開催日：平成 30 年 4 月 26 日、〃 7 月 11 日、〃 10 月 10 日

原則として 3 ヵ月に 1 度開催することとなり、議題がない場合は不開催とした。

・運営協議会（平成 30 年 6 月 4 日・平成 31 年 1 月 30 日）　2 回

【病院機能評価事業への取組み】

昨年度より公益財団法人 日本医療機能評価機構の運営する病院機能評価事業の受審を目指し、病院 BSC に盛り込んで準備を進めてきた。

準備に際しては、4 領域 89 項目の審査項目に対して、領域別に領域責任者、項目別に責任者（担当者）を設け、①自己評価、②領域責任者による再評価、③幹部による再評価という一連を 3 度繰り返すことで、各々が業務の課題を精査し改善活動に努めた。

平成 30 年 9 月 12 日、13 日に訪問審査を迎え、最終的には平成 31 年 2 月 1 日付で認定を受けた。今回認定を受けたのは区分「一般病院 2、3rdG：Ver.2.0」で、認定期間は 5 年となる。5 年を経過するまでに更新審査を受審する必要があり、3 年目となる 2021 年 2 月には「期中の確認」として、書面審査を受ける必要がある。経営対策室としては、病院全体に継続的な業務改善活動を促進するよう働きかけていくことが求められる。

【ＢＳＣに関する取組み】

平成 26 年度より本格導入した病院 BSC の運用も 5 年目を迎えた。各部署 BSC 提出後に院長ヒアリングを実施し、病院幹部との BSC を通じたコミュニケーションを図った。平成 30 年度は病院機能評価受審準備もあり、下半期の院長ヒアリングは実施できなかった。次年度は下半期の院長ヒアリングに代えて、BSC スコアカードに関する意見交換会を開催する計画である。

また、11 月 24 日に福井県済生会病院で開催された「日本医療バランスト・スコアカード

研究学会第 16 回学術総会」にて口述発表を行った。発表者は経営対策室 福本主事で、発表演題は「BSC 実践病院が第三者評価を受ける意義について――病院機能評価の受審を終えて――」として発表を行った。発表ののち、学会誌へ掲載するため、研究ノートとして書き著し、HBSC 学会誌第 16 巻第 1 号に掲載される（平成 31 年 8 月発行予定）。

【重点支援病院の指定について】

平成 30 年 7 月に日本赤十字社によって重点支援病院の指定を受けた。支援病院の選定基準は日本赤十字社医療施設規則第 4 条「日赤の医療施設は、常に健全かつ適正な経営管理を保持するとともに、その設置目的が達成されるように運営されなければならない」に基づき制定されており、下記のいずれかに該当する場合、支援病院の指定を受ける。

①業務活動キャッシュフロー3 年平均に基づく要収益返済借入期間がマイナスである医療施設

②業務活動キャッシュフロー3 年平均に基づく要収益返済借入期間 20 年以上且つ、修正流動比率が 100%未満又は自己資本比率が 10%未満である医療施設

③上記①②によらず、社会環境等の変化により、急激に収支が悪化している医療施設

さらに、支援病院の内、下記のいずれかに該当する医療施設は重点支援病院の指定を受ける。

①業務活動キャッシュフロー3 年平均に基づく要収益返済借入期間がマイナスである医療施設

②前年度比で借入金が増額している医療施設

③要収益返済借入金が 50 億円以上である医療施設

上記の指定を受けた場合、支援病院および重点支援病院は本社へ経営健全化計画の提出を義務付けられ、医療実績・経営状況等の報告を毎月行う必要がある。さらに、職員への説明会を病院主導で実施し、全職員が健全経営に向けて取り組むこととされる。この職員への説明会については、すでに平成 30 年 8 月 31 日に実施している。

加えて、重点支援病院では借入金が増額となる借入れ、1 億円を超える物品購入や営繕等の設備投資、職員採用計画の 3 点について本社経営会議における審議を必要とする。

今後、当院は本社から経営改善に向けた業務支援を受けながら、経営改善に取り組んでいくことになる。そもそも、今回、重点支援病院の指定を受ける要因としては、以下の 3 点――①移転時の患者制限による医業収益の減少、②固定資産取得による減価償却費の増加、③人員増加による人件費の増加――が挙げられる。

経営改善に向けて、新入院患者数の増加、平均在院日数の短縮による収益増、人件費の抑制、コスト削減による費用減を進めていく。

13. 広報推進室

1．スタッフ紹介（平成 31 年 3 月 31 日現在）

室長　貞松 徳美（本務　事務副部長）
主事　堤 多磨子（本務　患者総合支援センター 主事）
〃　飯盛 慶一（本務 総務課 主事）
〃　石橋 耕一（本務　医事課 主事）
〃　川内 かな子（本務　会計課 主事）
〃　結城 健（本務　経営対策室 主事）

2．この１年の歩み

平成 25 年 4 月 1 日に設置された「広報推進室」も 6 年目を迎えた。
主な業務としては、以下の 4 点。

① 院外広報誌「みらい」の継続的な発行
季刊誌として年 4 回発行した。新病院の情報をトピックスとして毎号に連載し、地域の方々に新病院の情報をお知らせすることができた。

② ホームページの更新
ホームページの総合的な運営・管理を行っている。

③ 三施設合同広報委員会への参画
支部・血液センター・病院の三施設合同の広報委員会も軌道に乗り、委員会を毎月各施設持ち回りで開催した。
主な活動は、三施設合同のフェイスブックの運営、各施設が行うイベントに他施設も参加する合同イベントの開催、職員を対象とした「赤十字写真コンテスト」などを実施した。

④ 患者総合支援センターとの連携強化
「日赤からつ」と「みらい」を同時期に発行し、各医療機関、県庁等へ配布した。
「日赤からつ」については季刊発行を止めて、次年度より年 1 回の発行とする予定である。

3．今後の課題

・新病院のさらなる広報
・ホームページの内容充実
・新病院開院後のイベントの検討

14. 事務部

事務部長　　池田　隆雄
事務副部長　　貞松　徳美
参事　　岩本　幸敏

総務課

1．スタッフ紹介　（平成 31 年 3 月 31 日現在）

総務課長　　徳田　孝久

【総務係・人事係】

総務係長兼運転手	松本　英成
人事係長	髙嵜　里香
主事兼運転手	飯盛　慶一
主事兼運転手	足立　拓海
主事（本社研修）	大松　万佐也
嘱　託	中原　恵利子
〃	岩切　泰司
〃　（運転手）	内田　正
〃　（医局秘書）	吉富　聡美
〃　（医局秘書）	古賀　広美
〃　（看護管理センター）	山崎　朝美
〃　（医療安全管理室）	馬場　結子

2．この１年の動き

【会　議】

診療管理会議	12 回	幹部会議（定例）	12 回
管理会議	12 回	薬事審議会	5 回

【委員会】

医療安全管理委員会	12 回	広報委員会	4 回
クリニカルパス委員会	12 回	患者サービス委員会	12 回
予算管理委員会	1 回	衛生委員会	12 回
救急・ＩＣＵ委員会	12 回	災害対策委員会	2 回
院内感染対策委員会	12 回	リスクマネジメント検討会	12 回
褥瘡対策委員会	6 回	医療ガス安全管理委員会	1 回
保険請求委員会	12 回	栄養管理委員会	3 回

がん化学療法委員会　12 回　　がん診療連携拠点病院運営委員会 12 回
輸血療法委員会　5 回
情報システム委員会　12 回

【その他】
メンタルヘルス（産業医：第 1 木曜）12 回、（臨床心理士：第 3 金曜）12 回
計 24 回

【令和元年度採用選考会】
○看護師（一次）　日時　平成 30 年　7 月 17 日　10:00
（二次）　日時　平成 30 年　8 月 8 日　10:00
○臨床検査技師　日時　平成 30 年 10 月 31 日　10:00
○診療放射線技師　日時　平成 31 年　1 月 23 日　9:15（採用なし）
平成 31 年　3 月 13 日　10:00
○薬剤師　日時　平成 31 年　3 月 13 日　10:00

【訓　練】
防火訓練
第 1 回（昼間想定）
消防避難訓練
実施日時　平成 30 年 11 月 20 日（火）14：00～14:20
実施場所　2Ｆ給湯室からの出火

第 2 回（昼間想定）
消防避難訓練
実施日時　平成 31 年 3 月 4 日（日）9:55～10:25
実施場所　4 階デイルーム出火

3．その他

永年勤続本社表彰伝達式　日時　平成 30 年 5 月 14 日（月）16:30
場所　佐野講堂
開院 60 周年記念式典　日時　平成 30 年 10 月 16 日（火）18:30
場所　シーサイドホテル
九州ブロック赤十字病院職員親善スポーツ大会　日時　平成 30 年 5 月 20 日（日）
場所　熊本市（熊本健康管理センター主催）
全国赤十字病院職員親善スポーツ大会　日時　平成 30 年 10 月 27 日～28 日（土日）
場所　松山市（松山赤十字病院主催）

会計課

1．スタッフ紹介（平成 31 年 3 月 31 日現在）

会計課長	飯島　新吾	用度係長	大森　崇生
営繕係長	田中　利昌	経理係長	林田　美奈子
主　　事	大串　博輝	主　　事	川内　かな子
嘱　　託	井本　二三夫	嘱　　託	松尾　貴和子
臨　　時	緒方　優子		

2．この１年の歩み

（1）経理関係

医業収益については、入院外来共に前年度と比較して診療単価と患者数が増加したことから、入院が 2 億 3,000 万円の増収、外来が 2 億 6,500 万円の増収となった。

また、人間ドックなどの保健予防活動収益も増加し、医業収益全体としては 5 億 1,200 万円の増収となった。

医業費用については、医業収益の増加に伴い材料費が 1 億 4,600 万円増加、職員数の増加により給与費が 1 億 2,900 万円の増加、新病院建設の際に増大した減価償却費の経年的減少等により設備関係費が 1 億 700 万円の減少、前年度に新病院建設補助金の消費税仕入控除税額返還による高額な支出があったことにより経費は 1 億 4,100 万円の減少となり、医業費用全体としては 2,400 万円程増加した。

その結果、医業収支はおよそ 7 億 9,200 万円の赤字、全体収支では 1 億 3,200 万円の赤字を計上した。

収益的収入及び支出　　単位：百万円

医業収益（A）		8，503	医業費用（B）		9，295
	入院関係	5，992		材料費	2，316
	外来関係	2，316		給与費	4，657
	その他	195		その他	2，322
その他の収益		866	その他の費用		206
収入合計（C）		9，369	費用合計（D）		9，501
医業収支　（A）－（B）					－792
当期純利益　（C）－（D）					－132

（2）用度関係

新病院移設時に新しく更新した医療機器については順調に稼働しているが、旧病院から移設してきた使用年数の長い医療機器については修理不能なものが殆どであり、医療機器の更新にて対応した。

また、予算計上の機器については、医療用画像情報システム(PACS)、画像参照高精細モニター、乳房デジタルＸ線装置、関節鏡視下システム等の更新を行い、泌尿器科の鏡視下手術については症例単価払い方式賃借契約(VPP)にて更新した。

今年度は高額医療機器・勤怠管理システムの予算分と別に修理不能による機器整備が必要となったことから、医療機器整備総額は１億４，６４９万円であった。

機器名称		数	機器名称		数
1	Ｘ線ＴＶ撮影装置システム	1	9	マルチガスユニット	1
2	関節鏡	1	10	マターナルＳＩモニター	1
3	乳房用デジタルX線装置	1	11	エネルギーチェッカー	1
4	物質併用電気手術器ＶＩＯ３	1	12	ベットサイドモニター	1
5	レーザー血流系　PAD4000	1	13	高精細モニター　一式　更新	1
6	脳外科硬性鏡スコープ	1	14	放射線画像管理システム更新	1
7	運動負荷心電図測定装置	1	15	ＭＥ管理システム更新	1
8	フローアナライザーPF300	1	16	勤怠管理システム	1

（3）営繕関係

新病院開院から３年が経過したところだが、院内の空調・機器設備等についてのメンテナンスが必要となった。

眼科外来、放射線科外来、リハビリ等でファンコイルの通信不良によりメーカー保証の範囲内で対応をおこなっている。

施設内の歩道やコンクリートのひび割れ及び機械室等での雨の振り込みが確認されたため、施工業者保証の範囲内で数か所の修理を行った。

医事課

1. スタッフ紹介（平成 31 年 3 月 31 日現在）

医事課長兼医事係長	米倉　稔喜	
主　　事	石橋　耕一	
主　　事	有馬　悠太郎	
嘱　　託	髙木　博美	
委　　託	外来業務（ニチイ）	15 名
	入院業務（ニチイ）	10 名
	ＤＰＣ業務（ニチイ）	1 名

2. この 1 年の歩み

平成 30 年度においては、4 月には地域の一般歯科では対応が困難である専門性の高い歯科口腔外科領域に対応するため「歯科口腔外科」を開設し、地域の歯科診療所等と連携し紹介患者の治療を行うことができるよう整備しました。

また、5 月には日本語でのやり取りに不安のある外国人の方々が来院された際に電話による通訳のサポートが行えるよう「多言語電話通訳サービス」を開始しました。これにより指定のコールセンターへ電話することで 15 言語の通訳サービスを 24 時間 365 日利用できるようになりました。

診療報酬改定に伴う DPC 制度の見直しでは医療機関群の名称変更が行われ、Ⅲ群に位置していた当院は「DPC 標準病院群」に変更となり、2012 年度から実施されていた暫定調整係数の基礎係数と機能評価係数Ⅱへの置き換えが予定通り完了されたことにより、評価の比重が大きくなる機能評価係数Ⅱの再整理が実施されました。

病床機能報告制度においては、昨年度同様に地域救命救急センターの 16 床を「高度急性期」、残りの 288 床を「急性期」として報告しました。

3. 施設基準の取得状況（主なもの）

（1）基本診療料

【医科】

・栄養サポートチーム加算（再取得）	（平成 30 年 5 月 1 日）
・ハイリスク分娩管理加算	（平成 30 年 5 月 1 日）
・認知症ケア加算 2	（平成 30 年 6 月 1 日）
・小児入院医療管理料 3	（平成 30 年 10 月 1 日）
・後発医薬品使用体制加算 1	（平成 30 年 11 月 1 日）

【歯科】

・歯科点数表の初診料の注１に規定する施設基準　（平成 30 年 4 月 1 日）
・歯科外来診療環境体制加算１　（平成 30 年 10 月 1 日）

（２）特掲診療料

【医科】

・人工腎臓（慢性維持透析を行った場合１）　（平成 30 年 4 月 1 日）
・導入期加算１　（平成 30 年 4 月 1 日）
・悪性腫瘍病理組織標本加算　（平成 30 年 5 月 1 日）
・緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））　（平成 30 年 5 月 1 日）
・緑内障手術（水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）　（平成 30 年 5 月 1 日）
・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術（一連につき）（MRIによるもの）　（平成 30 年 5 月 1 日）
・食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）　（平成 30 年 9 月 1 日）
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的閉塞術　（平成 30 年 9 月 1 日）
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術　（平成 30 年 9 月 1 日）
・乳腺炎重症化予防・ケア指導料　（平成 30 年 11 月 1 日）
・ハイリスク妊産婦連携指導料１　（平成 30 年 11 月 1 日）

【歯科】

・歯科疾患管理料の注１１に規定する総合医療管理加算及び歯科治療時管理料　（平成 30 年 5 月 1 日）
・クラウンブリッジ維持管理料　（平成 30 年 6 月 1 日）
・歯科口腔リハビリテーション料２　（平成 30 年 6 月 1 日）
・上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る）（歯科）　（平成 30 年 6 月 1 日）
・下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る）（歯科）　（平成 30 年 6 月 1 日）

4. DPC 係数の推移

	29.4 以降	29.6 以降	29.10 以降	30.4 以降	30.11 以降
基礎係数（Ⅲ群）	1.0296	1.0296	1.0296		
〃　（DPC 標準病院群）				1.0314	1.0314
暫定調整係数	0.0215	0.0215	0.0215		
機能評価係数Ⅰ	0.2480	0.2555	0.2604	0.3065	0.3079
機能評価係数Ⅱ	0.0705	0.0705	0.0705	0.1134	0.1134
合計係数	1.3696	1.3771	1.3820	1.4513	1.4527

5. その他（研修会等）

①	佐賀県医師会による「自賠責保険研修会」	平成 30 年 5 月 19 日
②	医事課業務の基本と実務	平成 30 年 7 月 11 日
③	評定者能力向上・研修指導者養成研修	平成 30 年 7 月 13 日
④	平成 30 年度九州ブロック赤十字病院・健康管理センター 医事主任者会議（担当病院：嘉麻赤十字病院）	平成 30 年 11 月 19 日 ～ 20 日
⑤	施設基準管理士資格認定に向けた講習会	平成 30 年 11 月 21 日 ～ 22 日

診療支援課

1. スタッフ紹介（平成 31 年 3 月 31 日現在）

＜診療情報管理部門＞

課　　長　　岩本　利恵子（診療情報管理士）
主　　事　　吉武　明美　（診療情報管理士）
主　　事　　志波　孝治　（診療情報管理士）
主　　事　　川添　美沙　（診療情報管理士）
嘱　　託　　入江　亮太朗（診療情報管理士）

＜医師事務作業補助者＞

係　　長　　轟木　聖子
主　　事　　松尾　有希子
嘱　　託　　石橋　奈穂子　山﨑　胤美　川崎　沙也加　田中　由美
　　榎　宗子　松尾　さやか　松本　みのり　池田　香織
　　堀田　奈央　中嶋　香織　日高　純子

2. 研修業績

○ 平成 30 年度　院内がん登録実務中級認定者研修（受講証）　岩本　利恵子
○ 平成 30 年度　院内がん登録実務中級認定者研修（受講証）　吉武　明美
○ 平成 30 年度　院内がん登録実務初級認定者研修（受講証）　川添　美沙
○ 第 18 期医師事務作業補助者コース研修　（受講証）　堀田　奈央

3. その他

＜院外研修会・セミナー・他 ＞

・佐賀県診療情報管理懇話会（15回）（平成 30 年 4 月28日）【岩本】【吉武】【入江】
・医師事務作業補助研究会 第6回福岡地方会（平成 30 年 5 月12日）【轟木】【松尾有】
・30 年度第 8 回佐賀県がん登録研修会　（平成30年5月19日）　【岩本】
・第20回日本医療マネジメント学会　（平成30年6月8～9日）　【志波】
・院内がん登録実務中級認定者研修　（平成 30 年 7 月 12 日）　【吉武】
・平成 30 年度全国研修会（診療情報管理士会）（平成30年7月14～15日）【岩本】
・第18期医師事務作業補助者コース研修会（平成 30 年 7 月 28 日～29日）　【堀田】
・院内がん登録実務中級認定者研修　（平成 29 年 8 月 9 日）　【岩本】
・30 年度第 9 回佐賀県がん登録研修会　（平成 30 年 8 月 17 日）【岩本】【志波】
・院内がん登録実務初級認定者研修　（平成 30 年 8 月 20 日）　【川添】
・佐賀県地域ミーティング（藤崎病院開催）（平成 30 年 8 月 25 日）　【岩本】
・佐賀県診療情報管理懇話会（16 回）　（平成 30 年 10 月 13 日）　【岩本】

・第 26 回栗田基金研修会　（平成 30 年 10 月 19 日～20 日）　【岩本】
・医師事務作業補助者研究会 第 7 回福岡地方会（平成 30 年 10 月 27 日）　【轟木】
・第 22 回全国赤十字病院診療情報管理研究会（平成 30 年 11 月 17 日）　【川添】
・30 年度第 10 回佐賀県がん登録研修会　（平成 30 年 12 月 1 日）　【岩本】
・30 年度第 11 回佐賀県がん登録研修会　平成 31 年 2 月 15 日）　【吉武】
・第3回医師事務作業補助者・佐賀地方会 （平成31年2月23日）【轟木・松尾・池田】

＜実習生受け入れ＞

お茶の水医療福祉専門学校	1 名（平成 30 年 8 月 28 日～8 月 30 日）
福岡医療秘書福祉専門学校	1 名（平成 30 年 10 月 15 日～11 月 9 日）
お茶の水医療福祉専門学校	1 名（平成 31 年 2 月 25 日～3 月 22 日）

4. 委員会

診療情報管理委員会	合計　11 回開催
クリニカルパス委員会	合計　12 回開催
褥瘡委員会	合計　 4 回開催
地域がん診療連携拠点病院運営委員会	合計　12 回開催
DPC 運営委員会・コーディング専門委員会	合計　12 回開催
図書委員会	合計　 1 回開催
医師負担軽減委員会	合計　 2 回開催
看護職員負担軽減委員会	合計　 1 回開催
糖尿病委員会・カンファレンス	合計　24 回開催

5. この一年のあゆみ

平成 30 年度は、病院機能評価の準備から始まり、規程などの見直しを行いました。また、領域責任者会議・部署訪問のシミュレーションなど受審に向けて大変な作業でしたが、無事認定を受けるこができました。

結果、診療情報管理部門は A 評価（適切に行われている）でしたが、診療の質の評価は B 評価（一定の水準に達している）で今後データの分析などを行い質の向上に向けた活動に取り組みたいと思います。

医師事務作業補助業務については、メディカルクラーク 13 名のうち 1 名新規採用、1 名退職、1 名育児休暇取得があり、この機会に担当業務の見直しを行いました。また、医師事務作業補助研究会地方会等への出席により他施設の状況を知ることができ、当院での医師事務作業補助業務は発展の余地が大いにあることを感じました。事務量は毎年増加傾向であり、今後は業務の効率化をはかり、さらなる医師負担軽減のため業務拡大を目指したいです。

6. メディカルクラークの業務内容と業務実績

業務内容項目		平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
診断書等書類作成		5,965	5,694	5,327
実施済薬剤入力		37,270	32,645	28,971
病名登録		32,502	33,435	26,774
DPC 入力		3,281	2,746	2,252
退院証明書発行		735	599	658
院外等処方訂正入力		1,887	1,884	1,196
データ入力	NCD（外科）	570	484	500
	NCD（循環器）	570	112	
	血液疾患	153	140	104
	ER　Data　Base	2,097	2,200	1979

その他の業務

血液関係調査・外科手術症例調査・糖尿病患者 MAP データ収集

外来での診療補助業務・キャンサーボード準備・がん連携パス補助

7. 疾病統計

2018 年度　疾病大分類別　退院患者件数

（退院数 7538）

	大分類	計	男	女	死亡数
Ⅰ	感染症及び寄生虫症	184	104	80	4
Ⅱ	新生物	2038	1182	856	88
Ⅲ	血液及び造血器・免疫障害	65	33	32	5
Ⅳ	内分泌・栄養及び代謝疾患	150	72	78	8
Ⅴ	精神及び行動の障害	20	9	11	0
Ⅵ	神経系の疾患	142	58	84	1
Ⅶ	眼及び付属器の疾患	250	108	142	0
Ⅷ	耳及び乳様突起の疾患	15	2	13	0
Ⅸ	循環器系の疾患	929	534	395	55
Ⅹ	呼吸器系の疾患	745	466	279	41
ⅩⅠ	消化器系の疾患	872	500	372	17
ⅩⅡ	皮膚及び皮下組織の疾患	72	44	28	1

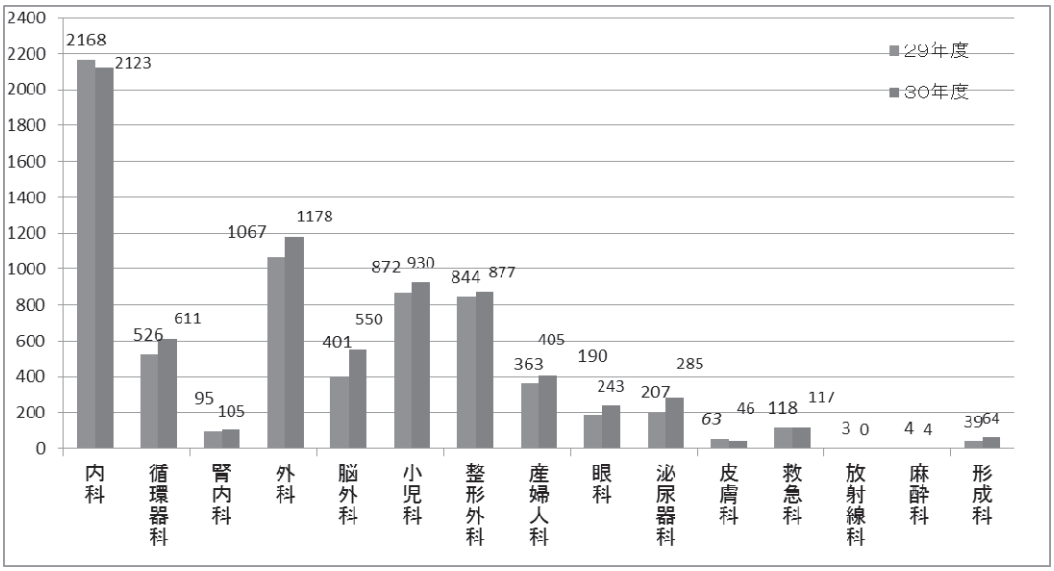
XIII	筋骨格系及び結合組織の疾患	327	141	186	2
XIV	尿路生殖器系の疾患	329	137	192	9
XV	妊娠・分娩及び産褥	247	0	247	0
XVI	周産期に発生した病態	113	71	42	0
XVII	先天奇形・変形及び染色体異常	32	17	15	0
XVIII	症状・徴候及び異常所見	133	76	57	9
XIX	損傷・中毒及び外因の影響	865	434	431	16
XX	傷病及び死因の外因	0	0	0	0
XX1	健康状態に影響を及ぼす要因他	10	9	1	0
	合　　計	7538	3997	3541	256

2018 年度　診療科別退院患者件数

（退院数　7538）

診療科	計	男	女
内科	2123	1303	820
腎内科	105	56	49
循環器科	611	355	256
小児科	930	542	388
外科	1178	615	563
整形外科	877	400	477
脳外科	550	302	248
皮膚科	46	23	23
泌尿器科	285	204	81
産婦人科	405	0	405
眼科	243	103	140
放射線科	0	0	0
麻酔科	4	2	2
救急科	117	62	55
形成科	64	30	34
計	7538	3997	3541

診療科別比較



2018 年度　診療科別紹介・逆紹介件数

（退院数　7538）

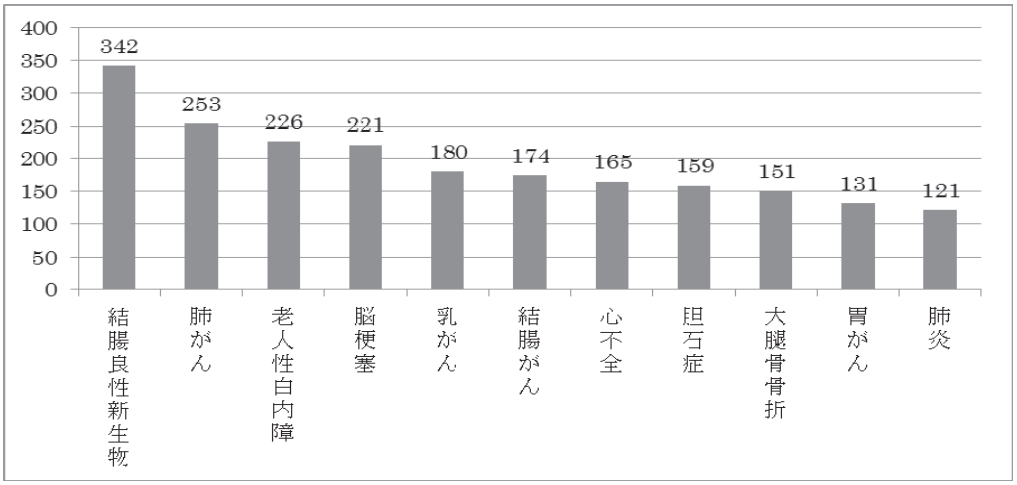
診療科	紹介入院	他院（外来）	転院・介護福祉
内科	751	209	117
腎内科	53	19	8
循環器科	271	141	55
小児科	387	146	25
外科	308	80	19
整形外科	380	126	117
脳外科	202	54	62
皮膚科	20	4	1
泌尿器科	117	13	17
産婦人科	258	14	11
眼科	128	3	3
麻酔科	0	0	0
救急科	22	10	3
形成科	26	2	0
放射線科	0	0	0
合　計	2923	821	438

2018 年度　疾病中分類　上位 20

（退院数 7538）

順位	中分類コード	疾病名	件数	平均在院日数	平均年齢
1	D12	結腸良性新生物	342	3.5	67.2
2	C34	肺がん	253	19.7	70.6
3	H25	老人性白内障	226	8.0	76.8
4	I63	脳梗塞	221	23.1	75.8
5	C50	乳がん	180	11.0	63.4
6	C18	結腸がん	174	13.0	68.9
7	I50	心不全	165	19.5	77.7
8	K80	胆石症	159	9.4	70.7
9	S72	大腿骨骨折	151	25.4	82.7
10	C16	胃がん	131	14.4	69.2
11	J18	肺炎	121	9.1	33.3
12	J20	急性気管支炎	96	5.8	1.6
13	I20	狭心症	93	4.8	69.5
14	C25	膵がん	91	14.5	73.5
15	C83	ホジキンリンパ腫	90	23.4	69.7
16	S06	頭蓋内損傷	86	15.8	68.1
17	K56	腸閉塞	82	12.0	56.3
18	I25	慢性虚血性疾患	78	4.6	67.3
19	I61	脳内出血	76	25.3	71.6
19	J12	ウイルス肺炎	76	6.1	0.9

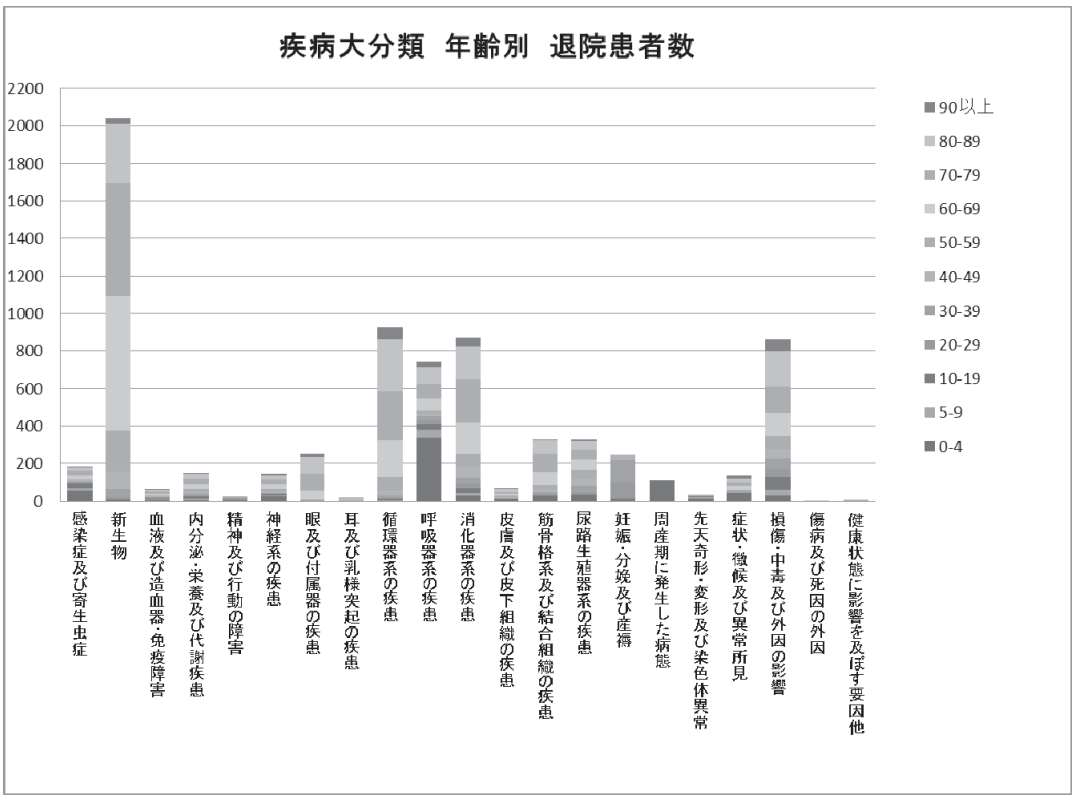
2018 年度　疾病上位 10

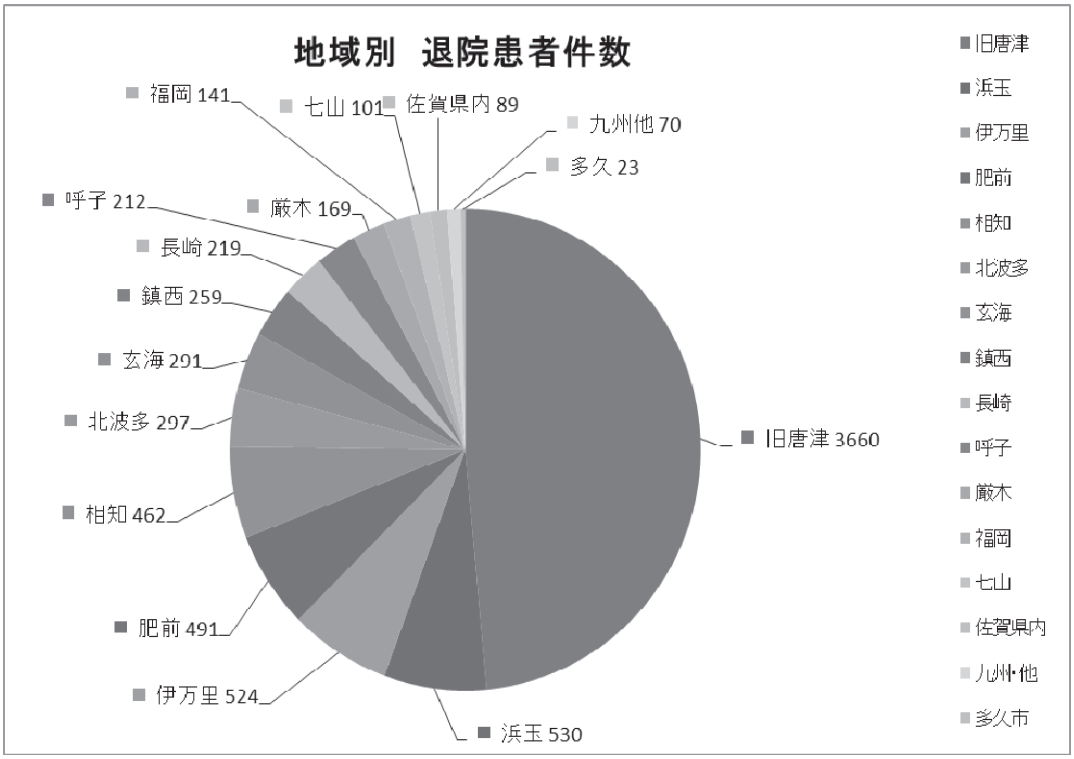


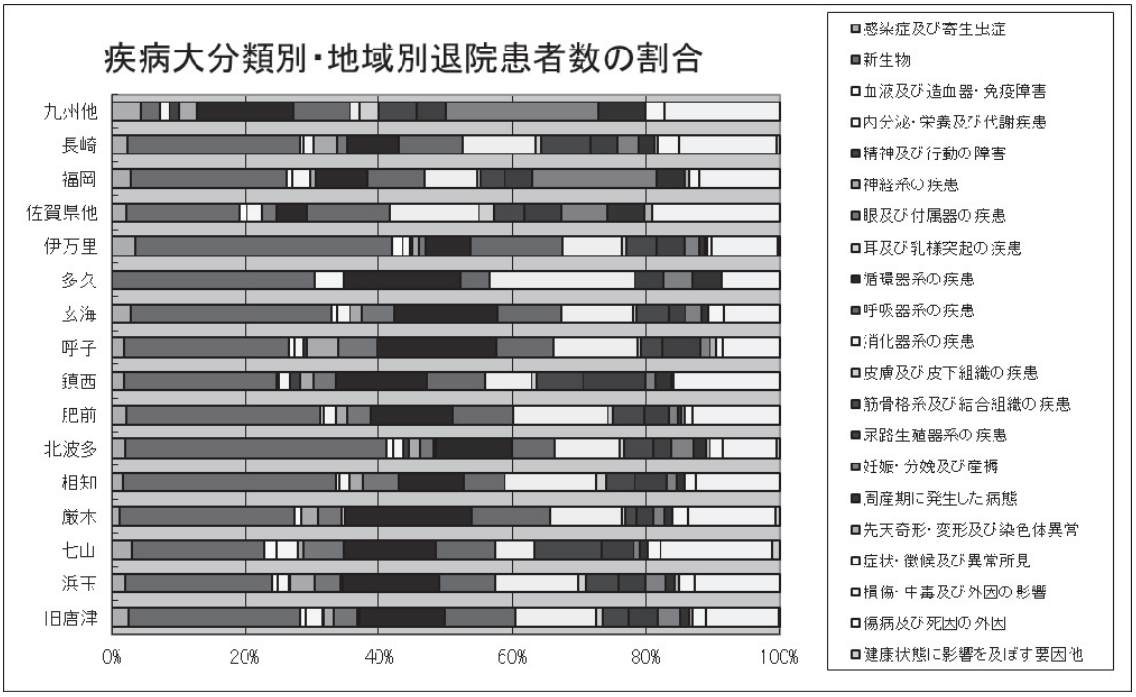
2018 年度　手術・処置（ICD－9CM）件数　上位 20

（退院数 7538）

順位	主手術・処置名	件数
1	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（EMR）	388
2	水晶体再建術（片側）	349
3	心カテーテル検査（CAG）	267
4	骨折観血的手術（大腿・下腿）	153
5	経皮的冠動脈形成術（PCI）	101
6	人工関節置換術・骨頭挿入術（股 61　膝 39）	100
7	胆嚢摘出術（開腹 4　腹腔鏡下 85）	89
8	経皮的冠動脈ステント留置術	84
9	骨折観血的手術（上肢）	82
19	乳房温存術 47　乳房切除術 35	82
11	結腸・直腸切除術（開腹 8　腹腔鏡下 68）	76
12	胸水・腹水濾過濃縮再静注法	72
13	内視鏡的胆道ステント留置術	63
13	帝王切開術（選択的 38　緊急 25）	63
15	骨内異物（挿入物）除去術（上肢 29　下肢 33）	62
16	内視鏡的消化管止血術（胃・十二指腸）	57
17	ソケイヘルニア術（開腹・腹腔鏡）	51
18	脊椎固定術（頸椎・椎弓・腰椎）	50
18	肺切除術・部分・区域切除術（開胸・胸腔鏡）	50
20	ペースメーカー移植・交換術	48


疾病大分類　年齢別　退院患者数
2200
2000
1800
1600
1400
1200
1000
800
600
400
200
0
感染症及び寄生虫症
新生物
血液及び造血器・免疫障害
内分泌・栄養及び代謝疾患
精神及び行動の障害
神経系の疾患
眼及び付属器の疾患
耳及び乳様突起の疾患
循環器系の疾患
呼吸器系の疾患
消化器系の疾患
皮膚及び皮下組織の疾患
筋骨格系及び結合組織の疾患
尿路生殖器系の疾患
妊娠・分娩及び産褥
周産期に発生した病態
先天奇形・変形及び染色体異常
症状・徴候及び異常所見
損傷・中毒及び外因の影響
傷病及び死因の外因
健康状態に影響を及ぼす要因他
90以上
80-89
70-79
60-69
50-59
40-49
30-39
20-29
10-19
5-9
0-4


地域別　退院患者件数
福岡 141
七山 101
佐賀県内 89
九州他 70
多久 23
呼子 212
厳木 169
長崎 219
鎮西 259
玄海 291
北波多 297
相知 462
肥前 491
伊万里 524
浜玉 530
旧唐津 3660
旧唐津
浜玉
伊万里
肥前
相知
北波多
玄海
鎮西
長崎
呼子
厳木
福岡
七山
佐賀県内
九州・他
多久市



【疾病統計まとめ】

今年度は、退院患者数は前年度と比べて約 584 件増の 7538 件、昨年同様退院患者数は過去最高となり年々増加傾向にある。またサマリー完成率は 98.3%（年間平均）前年度と比較すると 2.4%増加で先生方のサマリー作成が定着してきている結果である。疾病大分類別では前年度と比較、消化器系が大幅に増加、続いて循環器系・損傷の順でその他の科も若干増加、新生物系は若干の減少となった。

診療科別では、脳外科・外科・循環器科の順で大幅に増加した。全体的にどの科も若干増加したが内科が減少した。

科ごとの紹介・逆紹介入院は、紹介入院は前年度と比較、全体的若干増加したが、他院・転院が大幅に減少した。

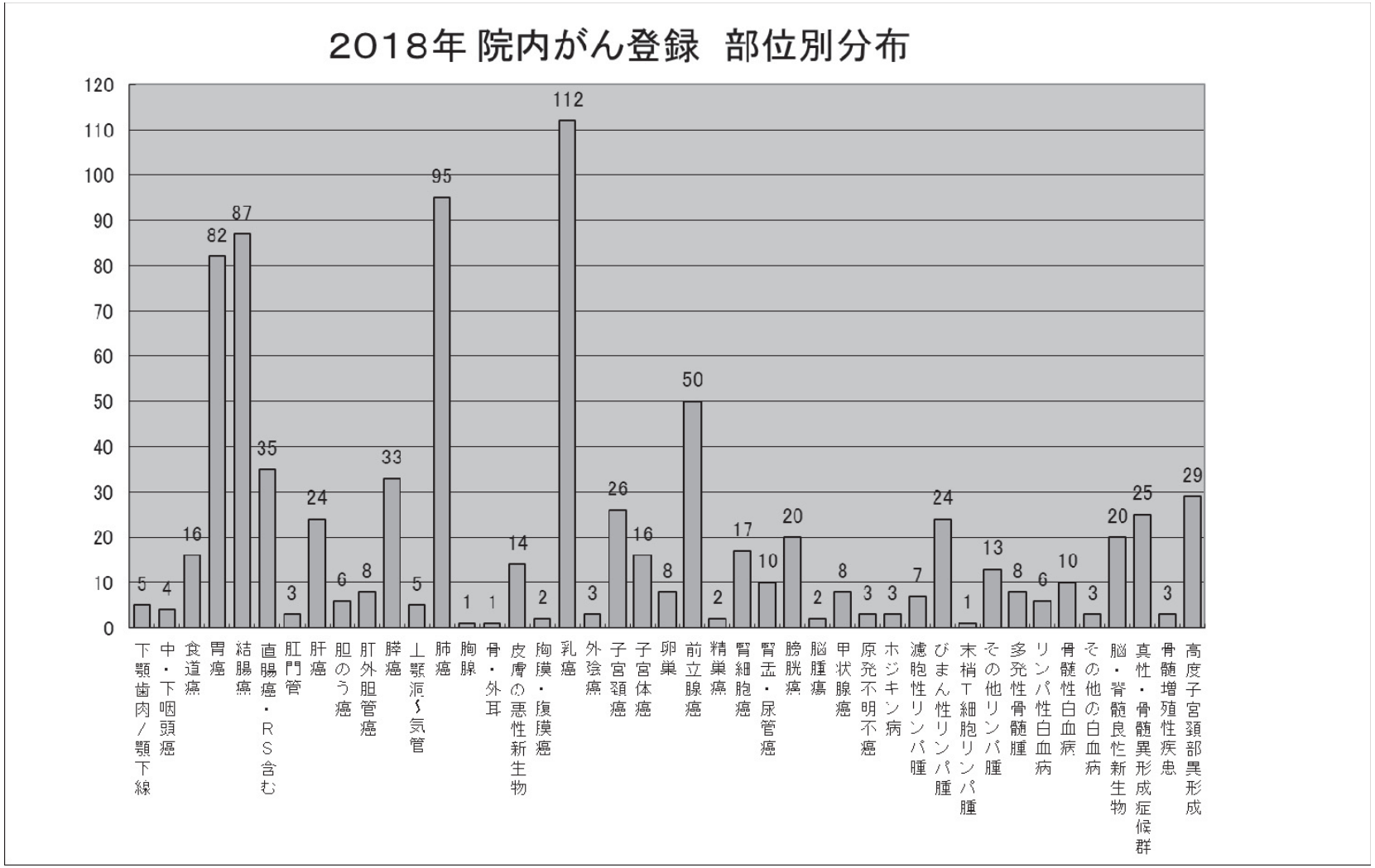
疾病上位では、1 位、2 位は前年度と同じであったが、白内障・脳梗塞が上位にあがっている。手術・処置では 1 位～3 位は前年度と同じであるが、整形疾患の手術の増加と外科の乳房切除も増加した。今年度からは、DPC の病名を診療情報管理システムに連携することで疾病の統一化に取り組みました。

今後も DPC コーディングと精度管理に力を入れていきたい。

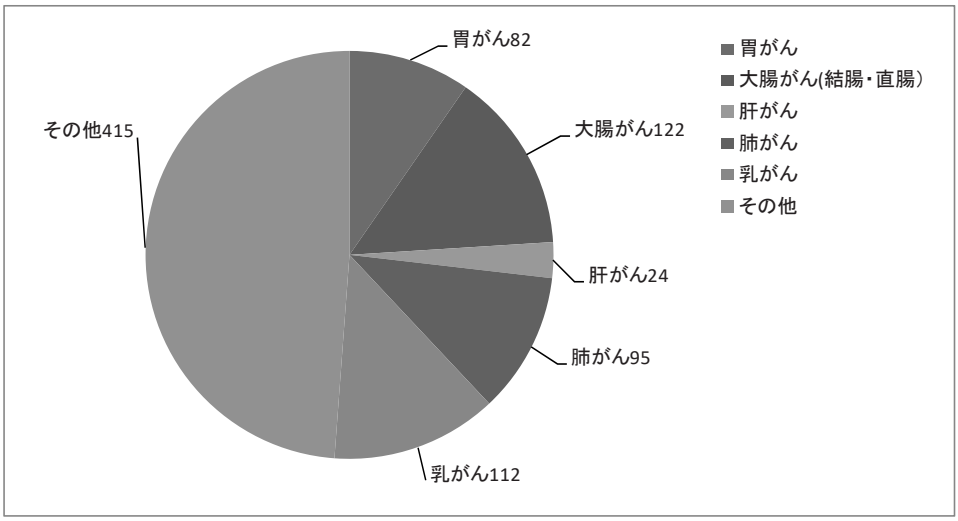
8. がん統計

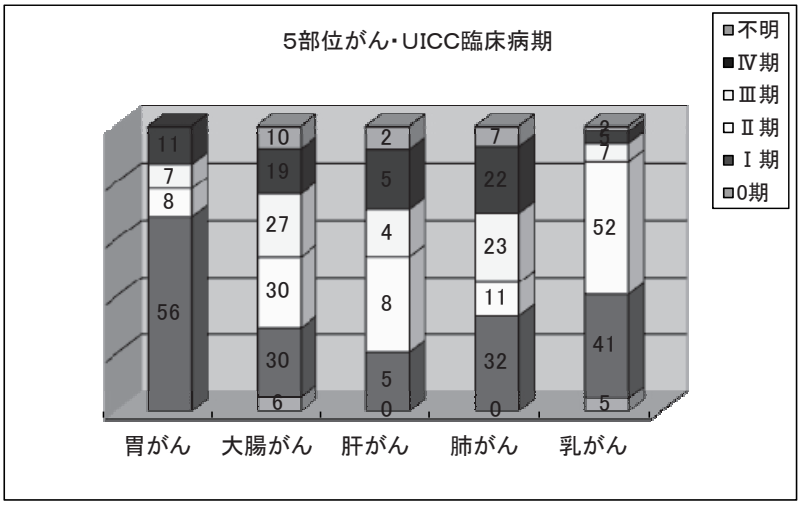
2018年 がん登録 部位/治療別 状況

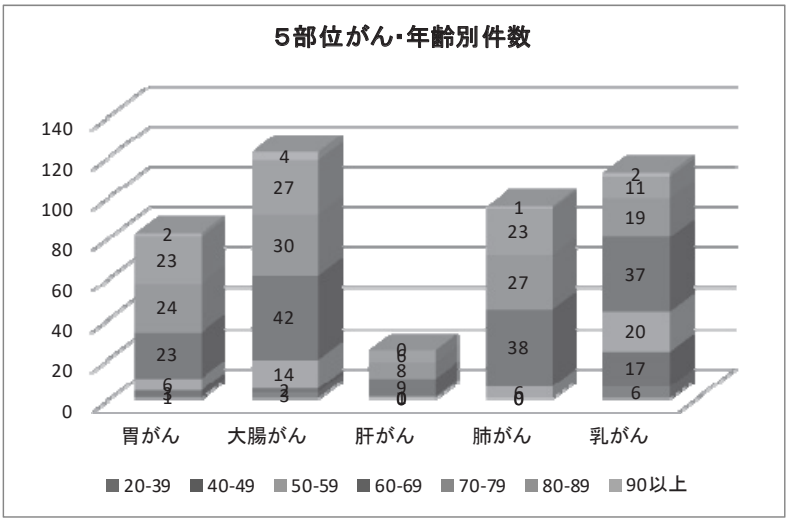
部位別	ICD-10コード	件数	男	女	手術	開腹・外科的治療	腹・胸腔鏡	内視鏡	化学療法	放射線	化学・放射	内分泌・その他
下顎歯肉/顎下線	C02～C09	5	1	4	1	1	0	0	0	1	0	0
中・下咽頭癌	C10～13	4	4	0	0	0	0	0	1	0	0	0
食道癌	C15	16	14	2	0	0	0	3	0	1	9	0
胃癌	C16	82	62	20	40	10	30	19	16	1	0	0
大腸癌	C18～20	(122)	(75)	(47)	(74)	(4)	(70)	(25)	(37)	(2)	(0)	(0)
結腸癌	C18	87	49	38	54	4	50	18	24	0	0	0
直腸癌・RS含む	C19～20	35	26	9	20	0	20	7	13	2	0	0
肛門管	C21	3	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0
肝癌	C22	24	20	4	4	4	0	0	9	0	0	6
胆のう癌	C23	6	1	5	3	3	0	0	3	0	0	0
肝外胆管癌	C24	8	6	2	1	0	0	0	3	1	0	0
膵癌	C25	33	14	19	2	2	0	0	17	0	0	0
上顎洞～気管	C31～33	5	3	2	0	0	0	0	1	0	1	0
肺癌	C34	95	67	28	34	5	29	0	27	7	11	0
胸腺	C37	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
骨・外耳	C41～42	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚の悪性新生物	C44	14	8	6	11	11	0	0	0	0	0	0
胸膜・腹膜癌	C45～48	2	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0
乳癌	C50	112	2	110	76	76	0	0	24	45	17	61
外陰癌	C51	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
子宮頚癌	C53	26	0	26	12	12	0	0	0	0	0	0
子宮体癌	C54	16	0	16	2	2	0	0	0	0	0	0
卵巣	C56	8	0	8	1	1	0	0	0	0	0	0
前立腺癌	C61	50	50	0	0	0	0	0	0	14	2	19
精巣癌	C62	2	2	0	2	2	0	0	0	0	0	0
腎細胞癌	C64	17	14	3	12	0	12	0	2	0	0	0
腎盂・尿管癌	C65～C66	10	7	3	5	0	5	0	3	1	1	1
膀胱癌	C67	20	16	4	1	0	1	11	11	2	0	0
脳腫瘍	C71	2	1	1	1	1	0	0	0	0	2	0
甲状腺癌	C73	8	2	6	4	4	0	0	0	0	0	0
原発不明不癌	C80	3	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0
ホジキン病	C81	3	3	0	0	0	0	0	3	0	0	0
濾胞性リンパ腫	C82	7	4	3	0	0	0	0	5	0	0	0
びまん性リンパ腫	C83	24	15	9	0	0	0	0	19	0	2	0
末梢T細胞リンパ腫	C84	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他リンパ腫	C85～C88	13	11	2	1	1	0	0	3	0	1	1
多発性骨髄腫	C90	8	4	4	0	0	0	0	5	1	0	0
リンパ性白血病	C91	6	2	4	0	0	0	0	3	0	0	0
骨髄性白血病	C92～93	10	5	5	0	0	0	0	5	0	0	0
その他の白血病	C94	3	2	1	0	0	0	0	2	0	0	0
脳・脊髄良性新生物	D18～44	20	10	10	4	4	0	0	0	0	0	0
真性・骨髄異形成症候群	D45～D46	25	12	13	0	0	0	0	4	0	0	6
骨髄増殖性疾患	D47	3	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0
高度子宮頚部異形成	N87	29	0	29	20	20	0	0	0	0	0	0
合　計		850	443	407	312	164	148	58	204	77	46	94
	院内がん登録（診断日のデータ）											


2018年 院内がん登録 部位別分布
120
110
100
90
80
70
60
50
40
30
20
10
0
5 4 16 82 87 35 3 24 6 8 33 5 95 1 1 14 2 112 3 26 16 8 50 2 17 10 20 2 8 3 3 7 24 1 13 8 6 10 3 20 25 3 29
下顎歯肉／顎下線
中・下咽頭癌
食道癌
胃癌
結腸癌
直腸癌・RS含む
肛門管
肝癌
胆のう癌
肝外胆管癌
膵癌
上顎洞～気管
肺癌
胸腺
骨・外耳
皮膚の悪性新生物
胸膜・腹膜癌
乳癌
外陰癌
子宮頸癌
子宮体癌
卵巣
前立腺癌
精巣癌
腎細胞癌
腎盂・尿管癌
膀胱癌
脳腫瘍
甲状腺癌
原発不明不癌
ホジキン病
濾胞性リンパ腫
びまん性リンパ腫
末梢T細胞リンパ腫
その他リンパ腫
多発性骨髄腫
リンパ性白血病
骨髄性白血病
その他の白血病
脳・脊髄良性新生物
真性・骨髄異形成症候群
骨髄増殖性疾患
高度子宮頸部異形成

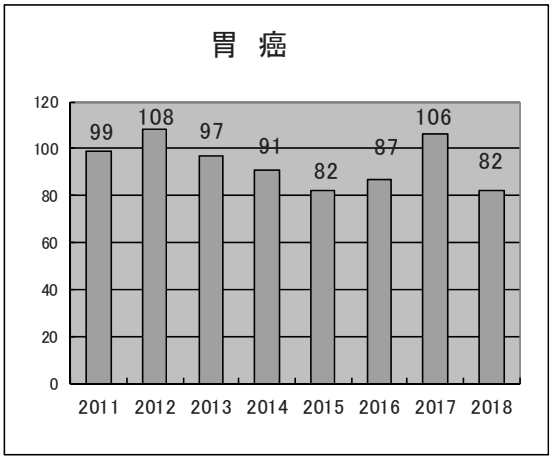
2018年 院内がん登録 5部位がん

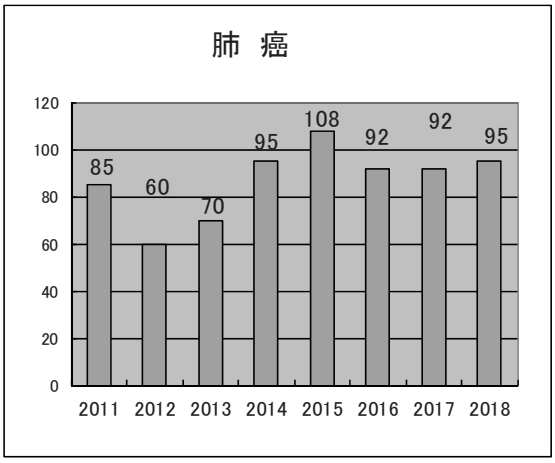


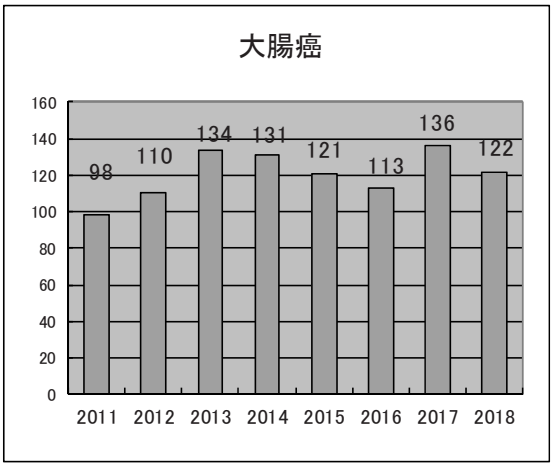


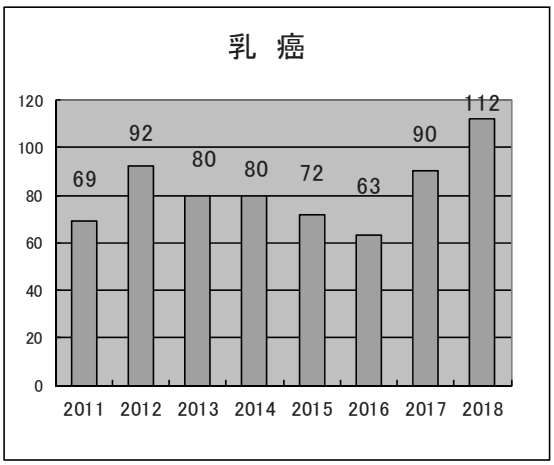


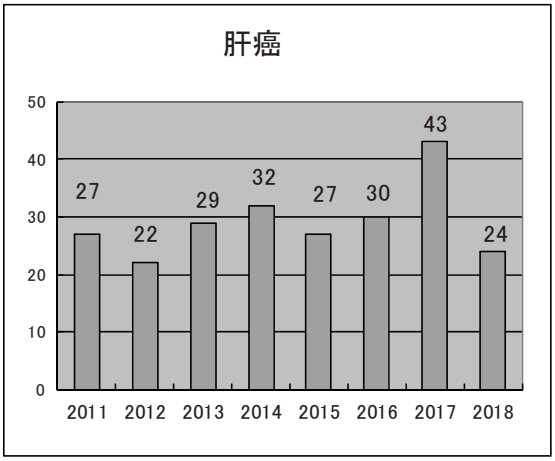
5大がん 年別 登録件数

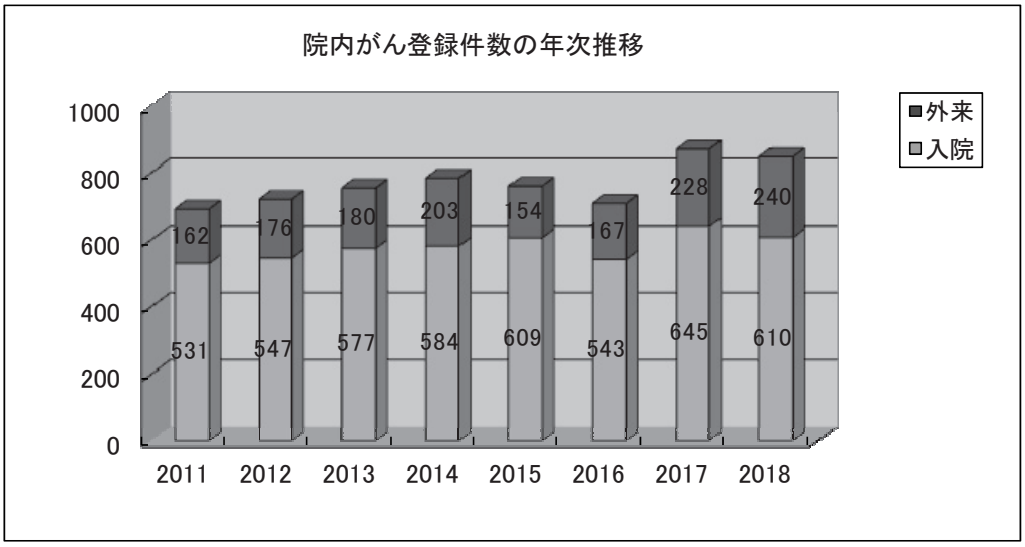

胃 癌
120
100
80
60
40
20
0
99
108
97
91
82
87
106
82
2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018

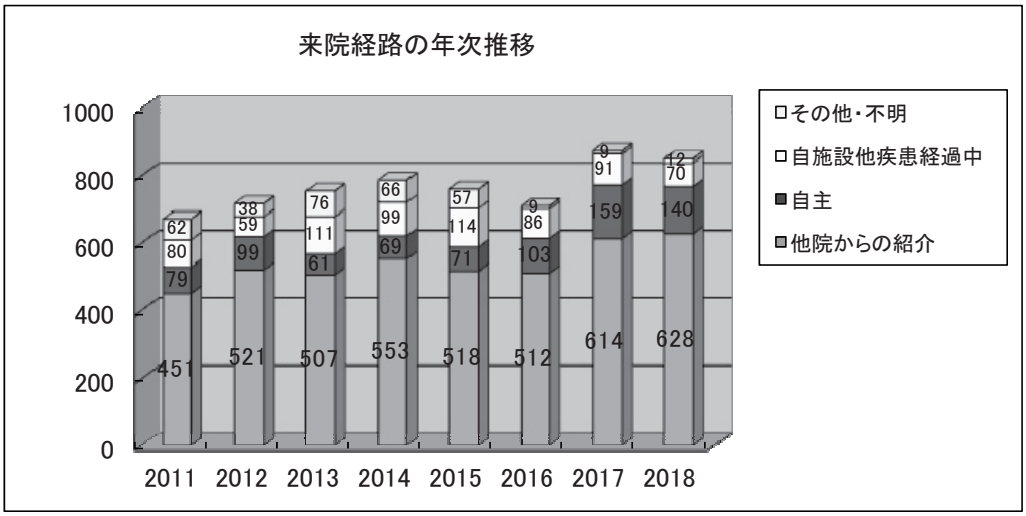

肺 癌
120
100
80
60
40
20
0
85
60
70
95
108
92
92
95
2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018

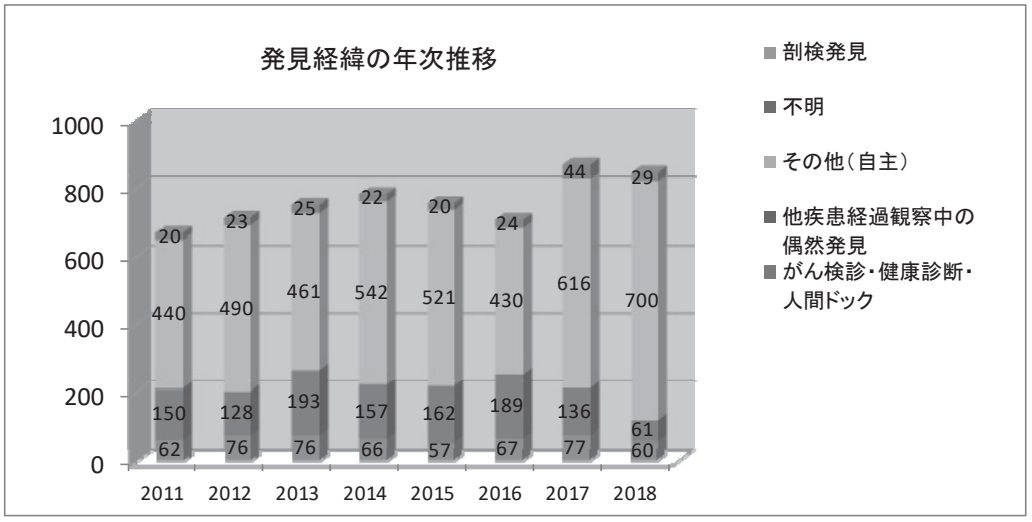

大腸癌
160
140
120
100
80
60
40
20
0
98
110
134
131
121
113
136
122
2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018

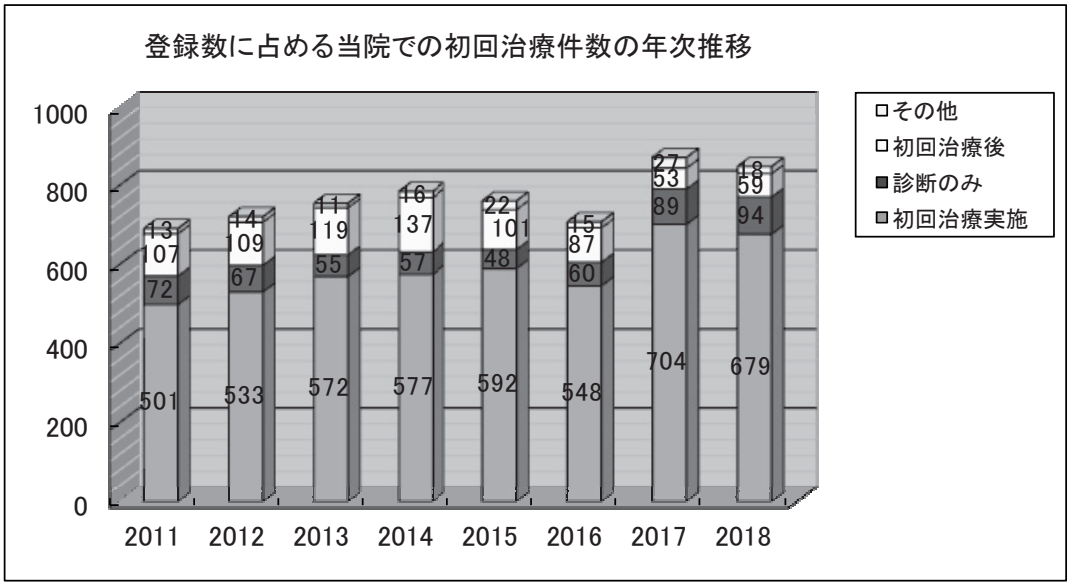

乳 癌
120
100
80
60
40
20
0
69
92
80
80
72
63
90
112
2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018


肝癌
50
40
30
20
10
0
27
22
29
32
27
30
43
24
2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018


院内がん登録件数の年次推移
1000
800
600
400
200
0
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
外来
入院
162
176
180
203
154
167
228
240
531
547
577
584
609
543
645
610


来院経路の年次推移
1000
800
600
400
200
0
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
その他・不明
自施設他疾患経過中
自主
他院からの紹介
62
80
79
451
38
59
99
521
76
111
61
507
66
99
69
553
57
114
71
518
9
86
103
512
9
91
159
614
12
70
140
628


発見経緯の年次推移
1000
800
600
400
200
0
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
剖検発見
不明
その他（自主）
他疾患経過観察中の偶然発見
がん検診・健康診断・人間ドック
20
23
25
22
20
24
44
29
440
490
461
542
521
430
616
700
150
128
193
157
162
189
136
61
62
76
76
66
57
67
77
60



2018年　部位別　上位10

順位	部位別	件数
1	乳癌	112
2	肺癌	95
3	結腸癌	87
4	胃癌	82
5	子宮頸癌（頚部異形成含む）	54
6	前立腺癌	50
7	直腸癌・Rs含む	35
8	膵癌	33
9	真性・骨髄異形成症候群	25
10	肝癌	24
10	膀胱癌	20

2018年 手術別 上位10

順位	手術名・内視鏡	件数	開腹	腹腔鏡
1	乳房切除術(温存術 41 切除術 37 再建術6)	84		
2	結腸切除術	54	4	50
3	胃切除術(胃全摘 6・幽門 25・噴門 5 他 3)	39	9	30
4	肺切除術(部分・区域・肺葉切除)	32	3	29
5	内視鏡的大腸粘膜切除術(EMR・ESD)	24		
6	子宮円錐切除術	23		
7	直腸切除術(低位前方切除8 切断術10 他 2)	20	0	20
8	内視鏡的胃粘膜下層切除術(ESD)	19		
9	腹腔鏡下腎(尿管)悪性腫瘍切除術	18	0	18
10	皮膚悪性腫瘍切除術	12		

＊2018年 がん登録 部位/治療別のカウントとは異なる(転移・複数手術他)

＜院内がん登録 まとめ＞

院内がん登録の総数は、前年度より若干減少した。
部位別にみると、1位 乳がん・2位 肺がん・3位 結腸がんの順となり前年度と比べ、乳がんが増加した。
治療別では、手術療法が若干増加し、特に鏡視下手術が増加していた。
化学療法・放射線治療にはあまり変動がなかった。
2018年症例より多重がん登録ルールが新たに変更となった。変更に伴う対応を佐賀県がん登録研修会や国立がんセンターの研修会等で習得し、正確かつ迅速ながん登録の入力・データ提出を行い、地域がん診療連携拠点病院としての役割を果たしていきたい。

情報システム課

1. スタッフ紹介（平成 31 年 3 月 31 日現在）

課　　長	野方　宏紀	
主　　事	築城　和明	
委　　託（電子カルテ運用管理）	ケア・フォー	3 名

2. この一年の動き

【委員会開催】

・情報システム委員会　　12 回（毎月第 4 金曜日開催）

【研修関係】

・富士通セキュリティセミナー　（平成 31 年 1 月 17 日）

3. システム導入状況（新規・更新）

・歯科口腔外科開設に伴う電子カルテ
機能追加（歯科ライブラリー）　【富士通】　（平成 30 年 4 月）

・死亡患者報告ワークフロー運用開始　【富士通】　（平成 30 年 5 月）

・パス版入院診療計画書新規機能追加　【富士通】　（平成 30 年 9 月）

・ME 機器管理システム　【九州テン】　（平成 31 年 2 月）

・放射線医療画像管理システム（PACS）　【ｷｬﾉﾝﾒﾃﾞｨｶﾙｼｽﾃﾑｽﾞ】　（平成 31 年 3 月）

15. 医療社会事業部

医療社会事業課

1. スタッフ紹介（平成 31 年 3 月 31 日現在）

医療社会事業部長　　酒井　正
医療社会事業課長　　入江　富美夫
主事　　林　三樹子
主事　　上瀧　達也
危機管理顧問　　江口　一彦
常勤嘱託事務員　　平松　佳子

2. この一年の歩み

1）　委員会

○患者サービス委員会　　計　12 回開催

2）　糖尿病教室

○平成 30 年度受講者数　91 名（第 1 期～第 4 期合計）

3）　ボランティア

○平成 30 年度　ボランティア受け入れ　4 名

4）　すずらん贈呈式　　平成 30 年 5 月 31 日

○贈呈品　　しおり 300 枚　すずらん鉢 5 鉢

5）　救護

○救護任命式　平成 30 年 5 月 9 日

任命者　医　師　　3 名
　　看護師長　3 名
　　看護師　　6 名
　　主　事　　6 名

○平成 30 年度九州八県支部合同災害救護訓練

日　時　平成 30 年 12 月 2 日～12 月 3 日
場　所　佐賀市防水センター

参加者	医　師	1 名	指導・支援	医　師	1 名
	看護師長	1 名		看護師	2 名
	看護師	2 名		薬剤師	1 名
	主　事	2 名		理学療法士	1 名

○平成 30 年 7 月豪雨災害救護

日　時　平成 30 年 7 月 19 日～7 月 22 日

場　所　サンスターホール内救護所（広島県安芸郡坂町）

医　師　　2 名

看護師長　1 名

看護師　　2 名

主　事　　2 名

主　事　　1 名（支部）

○平成 30 年度佐賀県原子力防災訓練　平成 30 年 2 月 2 日

《緊急被ばく医療訓練》

医療班（医師 2 名・放射線技師 2 名・看護師 3 名・主事 2 名）

本　部（副院長・救急科部長・事務部長・看護部長）医療社会事業課 2 名

指　導（医療社会事業部長・放射線技師 2 名）

○平成 30 年度臨時救護員派遣

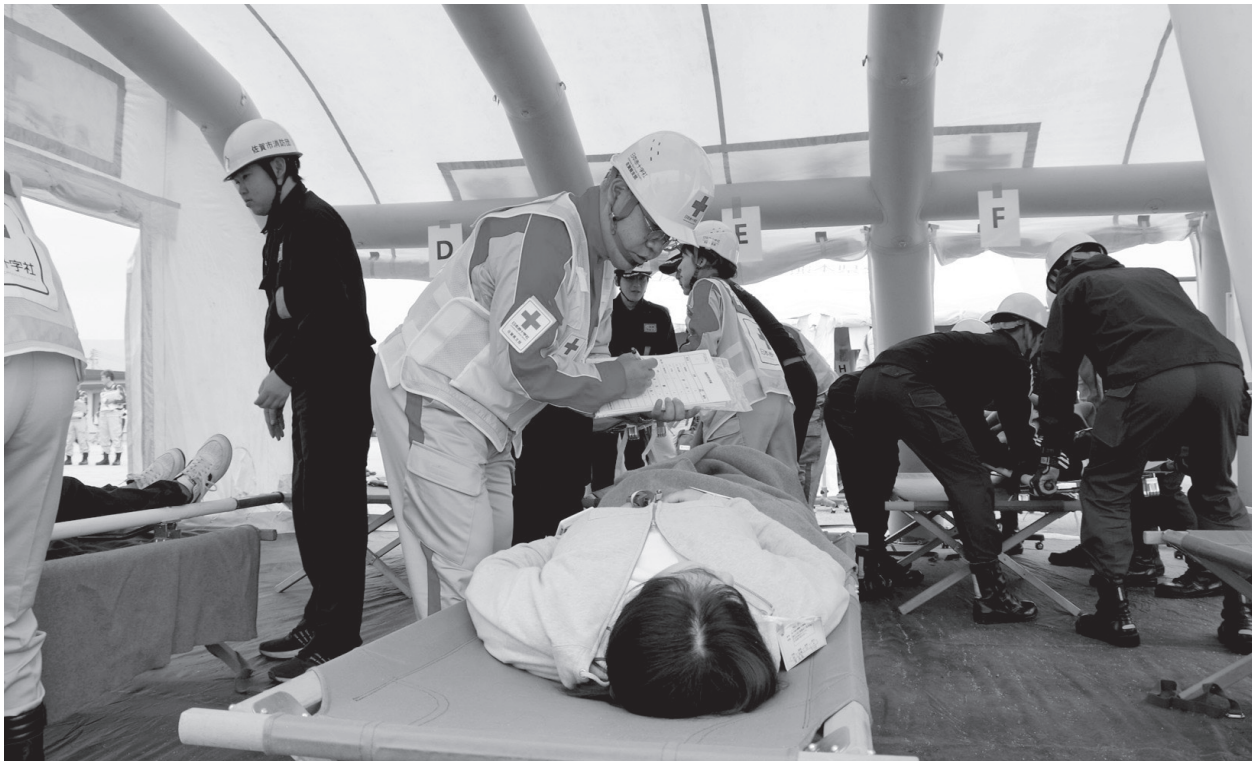
派遣先	派遣年月日	派遣員数	救護件数
第 115 回有田陶器市	平成 30 年 4 月 29 日	看護師　1 名	5 件
第 19 回虹の松原トライアスロン in 唐津	平成 30 年 6 月 17 日	運転手　1 名 救急車　1 台	1 件
第 66 回九州花火大会	平成 30 年 7 月 15 日	看護師　2 名	1 件
第 71 回記念松浦地区青年相撲大会	平成 30 年 9 月 3 日	看護師　1 名	2 件
第 72 回記念東西松浦駅伝大会	平成 31 年 1 月 27 日	看護師　1 名 運転手　1 名 救急車　1 台	0 件
第 59 回唐津 10 マイルロードレース大会	平成 31 年 2 月 10 日	看護師　1 名 運転手　1 名 救急車　1 台	3 件
第 31 回虹の松原カップ西日本選抜小学生クラブ駅伝競走大会	平成 31 年 3 月 24 日	看護師　1 名 運転手　1 名 救急車　1 台	0 件

常備救護班及び DMAT 任命式　平成 30 年 5 月 9 日

すずらん患者慰問　平成 30 年 5 月 31 日

平成 30 年 7 月豪雨災害救護　平成 30 年 7 月 19 日～7 月 22 日

平成 30 年度九州八県支部合同災害級訓練　平成 30 年 12 月 2 日～12 月 3 日



原子力防災訓練　平成 31 年 2 月 2 日

地域医療**支援**病院

地域**救命**救急センター

地域**がん**診療連携拠点病院

臨床研修病院（**基幹型**・協力型）

地域**災害**医療センター

原子力**災害拠点**病院